番紅花

創刊號

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

番紅花

I

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

番紅花　第一巻第一號

目次

サフラン……………森　林太郎……（一）
プチニーの歌劇……………原　信子……（六）
私の命（詩）……………尾竹一枝……（一七）
序の幕（小説）……………かみちか・いち……（二六）
春の歌（短歌）……………尾竹ふくみ……（八八）
美術に就ての雜感……………武者小路實篤……（九六）
春のすゑ（戯曲）……………小林哥津……（一〇七）
幸福な町（譯詩）……………ダブリユ・ビ・イエツ……（一二一）
さふらんの香（小説）……………小笠原貞……（一二九）

復活劇梗概……松井須磨子……（一五二）
海外通信……ＯＰＱ……（一五六）
雪夜曲（詩）……蘭五三子……（一六〇）
今日の歌劇（感想）……原信子……（一六四）
夜の葡萄樹の蔭に（詩）……尾竹一枝……（一七二）
二人のうた（短歌）……八木うら　八木さは……（一八〇）
雪のふる日（詩）……菅原初……（一八三）
自分の生活（手紙）……尾竹一枝……（一八九）
海外消息……ＫＳ・ＯＹ……（二一七）
編輯室にて……同人……（二二三）

挿畫

Giacomo Puccini……（六）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ミス・クズネツヨワの扮せる「蝶々さん」……（一〇）
Madam Butterfly 第一幕舞臺面……（一四）
座せるルル……ロートレエク……（四六）
床にゐる女……同……（七六）
朝の紅茶……同……（一一〇）
「復活」中の人物 カチウシヤに扮せるミス・レナ・アシユウエル ネフリユドフに扮せるミスター・ツリー……（一五〇）
下化粧……ロートレエク……（一八二）
Elles の内より……同……（二二四）

表紙……富本憲吉
扉繪……小林德三郎
カツト……同
裏繪……富本憲吉

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

サフラン

森林太郎

名を聞いて人を知らぬと云ふことが隨分ある。人ばかりではない。すべての物にある。
己は小供の時から本が好だと云はれた。少年の讀む雜誌もなければ、巖谷小波のお伽話もない時代に生れたので、お祖母さまがおよめ入の時に持つて來られたと云ふ百人一首やら、お祖父さまが義太夫を語られた時の記念に殘つてゐる浄瑠璃本やら、謠曲の筋書をした繪本やら、そんなものを有るに任せて見てゐて、凧と云ふものを揚げない。獨樂と云ふものを廻さない。隣家の小供との間に何等の

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

心的接觸も成り立たない。そこでいよいよ本に讀み耽つて、器に塵の溜るやうに、いろいろの物の名が記憶に殘る。そんな風で名ばかり知つて物を知らぬ片羽になつた。大抵の植物の名もさうである。サフランもさうである。

父は所謂蘭醫である。オランダ語を敎へて遣らうと云はれるので、早くから少しづつ習つた。文典と云ふものを讀む。それに前後編があつて、前編は語を説明し、後編は文を説明してある。それを讀んでゐた時字書を貸して貰つた。蘭和對譯の二册物で、大きい、厚い和本である。それを引つ繰り返して見てゐるうちに、サフランと云ふ語に撞着した。字書は植學啓源などと云ふ本の行はれた時代の本だから、音譯に漢字が當て嵌めてある。今でも其字を記憶してゐるから、ここに書いても好いが、サフランと三字に書いてある初の一字は、所詮活字には有り合せまい。依つて偏旁を分けて説明する「水」の偏に「自」の字である。次が「夫」の字、又次が「藍」の字である。

「お父つさん。サフラン、草の名としてありますが、どんな草ですか。」

「花を取つて干して物に色を附ける草だよ。見せて遣らう。」

父は藥簞笥の抽斗から、ちぢれたやうな、黑ずんだ物を出して見せた。父も生の花は見たことがなかつたかも知れない。たま〻名ばかりでなくて物が見られても、干物しか見られなかつた。これが

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

己のサフランを見た初である。

二三年前であつた。汽車で上野に着いて、人力車を倩つて團子坂へ歸る途中、東照宮の石壇の下から、薄暗い花園町に掛かる時、道端に蓆を敷いて、球根からすぐに紫の花の咲いた草を列べて賣つてゐるのを見た。小供から半老人になるまでの間に、サフランに對する智識は餘り進んではゐなかつたが、圖譜で生の花の形だけは知つてゐたので、「おや、サフランだな」と思つた。花卉として東京でいつから弄ばれてゐるか知らない。兎に角サフランを賣る人があると云ふことだけ、此時始て知つた。

此日はどこへ往つた日であつたか知らぬが、朝上野から出たのは霜の朝であつた。もう温室の外にはあらゆる花と云ふ花がなくなつてゐる頃の事である。山茶花も茶の花もない頃の事である。

サフランにも種類が多いと云ふことは、これもいつやら何かで讀んだが、己の見たサフランはひどく遲く咲く花である。併し極端は相接觸する。ひどく早く咲く花だとも云はれる。水仙よりも、ヒアシントよりも早く咲く花だとも云はれる。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

去年の十二月であつた。白山下の花屋の店に、二錢の正札附で、サフランの花が二三十、干からびた球根から咲き出たのが列べてあつた。己は散歩の足を駐めて、球根を二つ買つて持つて歸つた。サフランを我物としたのは此時である。己は店の爺いさんに問うて見た。

「爺いさん。これは土に活けて置いたら、又花が咲くだらうか。」

「えゝ。好く殖える奴で、來年は十位になりますさあ。」

「さうかい。」

己は買つて歸つて、土鉢に少しばかり庭の土を入れて、それに埋めて書齋に置いた。

花は二三日で萎れた。鉢の上には袂屑のやうな室内の塵が一面に被さつた。己は久しく目にも留めずにゐた。

すると今年の一月になつてから、綠の絲のやうな葉が叢がつて出た。水も遣らずに置いたのに、活氣に滿ちた、青々とした葉が叢がつて出た。物の生ずる力は驚くべきである。あらゆる抗抵に打ち勝つて生じ、伸びる。定めて花屋の爺いさんの云つたやうに、段々球根も殖えることだらう。

硝子戸の外には、霜雪を凌いで福壽草の黃いろい花が咲いた。ヒアシントや貝母も花壇の土を裂いて葉を出しはじめた。書齋の内にはサフランの鉢が相變らず青々としてゐる。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

鉢の土は袂屑のやうな塵は掩はれてゐるが、その青々とした色を見れば、無情な主人も折々水位遣らずにはゐられない。これは目を娯ましめようとするエゴイスムであらうか。それとも私なしに外物を愛するアルトルイスムであらうか。人間のする事の動機は、縦横に交錯して伸びるサフランの葉の如くに、容易には自分にも分からない。それを強ひて、烟脂を舐めた蛙が腸をさらけ出して洗ふやうに洗ひ立てをしたくもない。物に手を出せば弥次馬と云ふ。手を引っ込めてをれば獨善と云ふ。殘酷と云ふ。冷澹と云ふ。それは人の口である。人の口を顧みてばかりゐると、一本の手の遣所もなくなる。

これはサフランと云ふ草と己との歴史である。これを讀んだら、いかに己のサフランに就いて知ってゐることが貧弱だか分るだらう。併しどれ程疎遠な物にも、たまたま行摩の袖が觸れるやうに、サフランと己の間にも接觸點がないことはない。物語のモラルは只それだけである。

宇宙の間で、これまでサフランはサフランの生存をしてゐた。己は己の生存をしてゐた。これからも、サフランはサフランの生存をして行くであらう。己は己の生存をして行くであらう。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

プチニーの歌劇

原　信　子

歌劇は十六世紀伊太利に生れたものであります。其れはペリがフローレンスに於て作りました「ユリディス」が始めです。

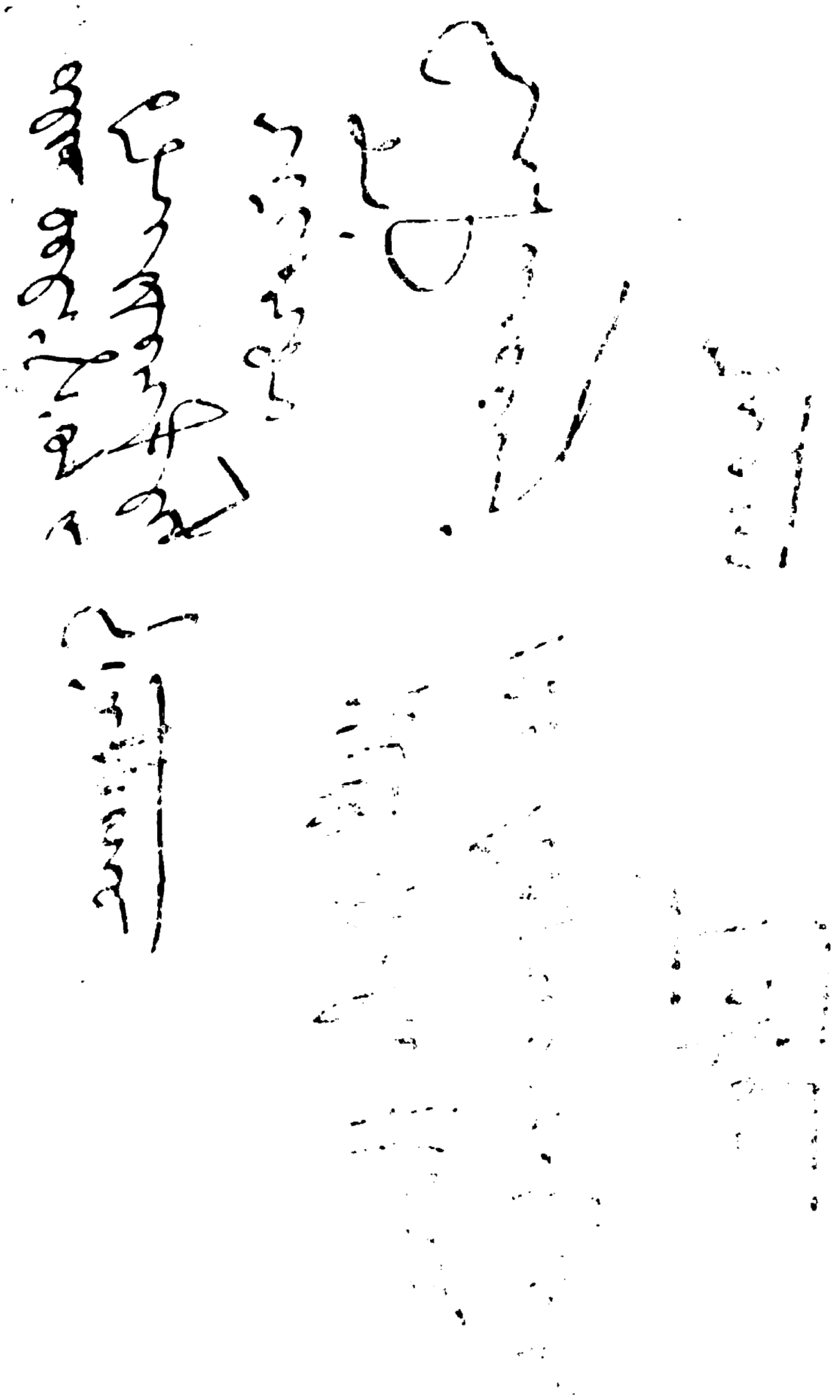
私は自分の一番好きな伊太利オペラを出來るだけ紹介して見ます。まづマダム、バッターフライの作曲者プチニー氏のオペラ其梗概から書いて見ませう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

alla deliziosa
Butterfly Giappone
ricordo
di
G. Puccini

Mlle Nobu Hara
126 Rogaicho Azabuku
Tokyo
Japan

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

GIACOMO PUCCINI

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

ザアユモ　プチニー(Giacomo Puccini)

レ　ブイルリ……………一八八四年

(Le Villi)

歌詞はフエルディナンド　フオンターナの作であつて、一體に曲は想像的であります。オーケストラの構成法は從來のイタリ型とは全く離れたものであります。

エドガル…………………………一八八九年

(Edgar)

此オペラは全然失敗に終りました。

マノン　レスコー……………一八九三年

(Manon Lescaut)

此のオペラはフランス、マスネーのマノンと同材でありますが、プチニーは之れをイタリの人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

情風俗などから觀察して作曲して居るのです。エドガルの失敗は全く之れによつて取りかへされたのであります。

ヲ　ボエーメ……………………………一八九六年

(La Boheme)

ムルゲルの小説を材料として作られたもので四幕の歌劇であります。次に其梗概を書きます。

人　物

ルドルフ (Rudolf)……テノール　　スカウナルド (Schaunard)……バリトン　　マルチエル (Marcel)……バリトン　　コリン (Collin)……バス　　ベルナルド (Bernard)……バス　　ミーミ (Mimi)……ソプラノ　　ムゼッテ (Musette)……ソプラノ　　パルピニョオルー (Parpignol)……テノール……　アルチンドル (Alcindol)……バス

場　處

パリー

時　代

一八三〇年頃

第一幕

屋根裏の室　ボヘミヤ人の藝術家連は貧棒で困つて居る。ルドルフは火の消えないやうにと原稿をたいて居る。そこへ家主のベルナルドが貸した金を催促に來る。丁度來合せた金持のスカウ　ナルドがはらつてやる。さうしてかへつてクリスマスの前夜を祝ふために買つて來た酒をのませてしまう。ルドルフをのこして皆は出てしまう。後へ、ルドルフの想思の仲のミーミが來る。そして愛の合唱が歌はれる。

第二幕

ラテン區の大通りのカフエの場。ルドルフと其友達共はそこに腰を下して呑んで居る。そこへ。ルドルフの前の戀人ムゼツテが來てそしてルドルフを攻擊した、金持のアルチンドルと云ふものはムゼツテがすきでついて來たのであつたがムゼツテが靴が小さくていたいからと外の靴を取りにやる。其後でムゼツテは畫家のマルチエルと仲よくなる。カフエの代を給仕がとりに來た時ムゼツテは皆のをアルチンドルの方へつけてしまへと云つて去る。誰も居なくなつた處へ、アルチンドルは靴を持つて來てどうしたのだと思つてる處へ給仕から書きつけ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を出されて驚く。

第三幕

市の門の場　ミーミはマルチエルに逢つてルドルフはどうしたかと聞いた。ルドルフは今はミーミをきらつて居るのである。宿屋に寢て居ると云はれてミーミは假裝して宿屋へ行きルドルフに逢ふ。ルドルフはミーミだと思はずにミーミを捨てたことを話す。そこへムゼッテとマルチエルとが來る。一寸した事からムゼッテとマルチエルとは爭ひそして二人の女は怒つて去る。

第四幕

屋根裏の室　ルドルフとマルチエルとは仕事をして居る。スカウナルドとコリンは晝飯をもつて來る。そこへムゼッテとミーミが來て過ぎし日の幸福を語つて今の身を悲しみ遂にミーミは死ぬ。之れを見てムゼッテは祈る。

ラ　トスカ……………………一八九九年

(La Tosca)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

彼得堡三帝劇の中、バレット及オペラを專門さするマリンスキーテアトルに於て今冬始めてバッタ－・フライ(蝶々さん)を舞臺に上ぼしたのです。蝶々さんの役は此の繪葉書にあるクズネツロワ女史がやりました。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

虫がやりまうさ

ならぬの處は此の國家にあるべきホツトリ女

ペーヲール嬢なる人が藝舞に上ほうけのサ下顔

あマリンスキーテアトルに於て今宵踊りたメッ

從来三帝國の中ダレツト以太ふたり御門に下

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

プチニーはラ　トスカに於て再び大成功をしました。之れはサルドウ(Sardou)の劇によつたもので其目的は只曲の優美と云ふ點のみにあるのではなく又抒情詩的であると云ふ方面にも置かれて居るのであります。

人物

フロリア　トスカ(Floria Tosca)歌ひ女……ソプラノ　マリオ　カバラドッシ(Mario Cavaradossi)畫家……テノール　スカルピア男爵(Scarpia)警察長官……バリトン　チエザーレ　マンヂエロッテイ(Cesare Angelotti)革命黨……バス　堂守……バリトン　スポレッタ(Spoletta)……テノール　典獄……バス　羊飼の子……アルト

場處

ローマ

時代

一八〇〇年頃

第一幕

サンタンドレアアラバレの寺院の内部マリオは壁にマドンナの畫をかいて居る。彼は毎日こ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ゝへ參拜に來るアッタバンテと云ふ人をモデルにして居るのである。そこへ畵家の友達で革命者なるアンヂエロッテイが破獄して逃げて來る。マリオは之れを庭の井戸へかくして食物などを與へて居る。其後へトスカが來てマリオは近來どこかの女をモデルにして畵を描いて居るので自分を捨てるのではないかと心配する。警察長官スカルピアはアンヂエロテイを破獄者が此寺へ入つたと云ふのでさがしに來てトスカを見る。そして其戀人マリオはアンヂエロテイをかくしたらしいので連れて行く。

第二幕

スカルピアの家　スカルピアはトスカを呼んで己が意に從へと云ふけれど一言のもとにはねつけられたのでマリオを拷問にかけ其聲をきかせた。それでも從はないので一層ひどく拷問する。トスカの心は絶慟である。遂に意に從ふから赦して下さいとたのみそして銃殺される筈になつて居るマリオの赦免狀を書いて貰ふ。スカルピアは赦免狀はやつたもののマリオが居れば邪魔なので獄吏に命じて如何な事があつても午前四時には必ず殺せと命ずる。之れを知らないトスカは大に喜び今は操を守ればよいとかくし持つたナイフでスカルピアを一突に殺してしまふ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第三幕

城中の刑場　マリオを銃殺する仕度はすべて出來たが憐れなトスカはまだこない。マリオは獄吏に賴んでトスカへの手紙を書かせて貰ふ。そこへトスカは赦免狀を持つて來たけれど獄吏は赦さずにマリオを銃殺してしまふ。トスカはマリオにすがつて悲嘆に暮れて居る時兵士獄吏等が大勢スカルピアを殺したと云ふのでトスカを捕へに來た。トスカは今は之れまでと城壁の上から飛び下りて死ぬ。

マダム　バツターフライ…………一九〇四年

(Madama Butterfly.)

此の歌劇は此正月帝劇で此の曲中一番有名な一節をいたしましたから私が申上げなくても御存じと思ひます。然し彼の國人にまで我が人情風俗を注意され此歌劇によつて各國に多く知られたと云ふことは感謝しなければならないと思ひます。筋はロング（Long）の小說とベラスコ（Belasco）の劇を基として篇まれて居ります。

人物

マダムバツターフライ（Madama Butterfly）……ソプラノ　スズキ（Suzuki）召使……

メッツオソプラノ　ケート　ピンカートン（Kate Pinkrrton）召使……メッツオソプラノ　ピンカートン（Pinkerton）米國海軍大尉……テノール　シャープレス（Sharpless）領事……バリドン　ゴロー（Goro）……テノル　ヤマドリ公爵（Yamadori）……バリトン　僧侶……バス

場處

長　崎

時代

現　今

第一幕

米國海軍大尉ピンカートンは日本の娘バッターフライと結婚するので媒介人ゴローと登場し美しい娘バッターフライの話をして居る。其處へ米國領事シャープレスとバッターフライ及び其親族友達等數多來て結婚の式が行はれる。遲れてバッターフライの叔父の僧侶來り我宗旨から耶蘇教に轉じて外國人と結婚したのを怒つて勘當する。バッターフライは今は夫のみを頼みとして其勘當を受ける。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第二幕

三年の後バッターフライは召使スズキと子供と三人で夫の歸へるのを待つて居る。そこへ日本の公爵ヤマドリが來て三年も便りのない夫を待つて居るより自分と結婚しろと云ふけれどバッターフライはいつか歸へると云つて聞かない。次にシャープレスはピンカートンから離緣狀を持つて來るけれどバッターフライがいぢらしくて云ひ出せない。其内に米國軍艦が港へ來て居ると云ふのでバッターフライは大變嬉ぶ。シャープレスは其さまを見て尙云ひ出せず、とう〳〵歸へる。

第三幕

昨夜から一睡もしないので勞れて居るからと云つてスズキはバッターフライを寢室へ行かせる。そこへピンカートンとシャープレスとが來てバッターフライはどうしたと聞く。スズキにあなたを大變待つておいでゞすと云はれてピンカートンは自分の無慈悲を後悔しそこに居られなくなつて去る。バッターフライは夫の聲を聞いて出て來る。そこへピンカートンの妻ケートが來て事情を打開け子供をくれと云ふ。バッターフライは驚きと悲しみとの餘り失心しさうになるけれど、がまんしてピンカートンが來たらばと云つて二人を返へす。バッターフライ

は其後で自殺してしまふ。そこへシャープレスとピンカートンが來て非常に其死を嘆く。

ラ　ファンチウラ　デル　ウエスト…………………一九一〇年
(La Fanciulla del West.)

此オペラはプッチニーが最近のオペラであつて材料を米國にとつた。ベラスコの劇によつて作つたもので歌詞はチビニーニ（Civinini）とツアンガリーニ（Zangarini）とが書いたのであります。初演は一九一〇年十二月十日ニウーヨークのメトロポリタンオペラハウスでされました。此時は現今有名なる歌手デステイン、カルーゾー、アマート、ライス、等が出演したのであります。(終)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

私の命（いのち）

尾竹一枝

太陽（ひかり）をみるとき
私はそこに大きなそして力強い勇氣と
それから謙譲な心持とそれに醉ふような幸福
を自分のなかに求めてゐる。

私が太陽（ひかり）をみるとき
いつでも私の生に對して、仕事に對してありさ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

あらゆる絶對の命をその上に求めてゐる。
太陽（ひかり）が私の床のなかに私の稚（おさな）い肉體（からだ）と私の命
をのぞいてゆくとき
私の頬に、私の唇に、私の双（ふたつ）の眼にはどんなとき
でも苺酒や寶石のやうな心地よいそしてうつ
くしい色が流れてくる。

私の仕事ができてゐてもゐなくても
私の心はいつでもおとなしく太陽（ひかり）をみてゐる。

私は太陽（ひかり）をみてゐる
いつでも太陽（ひかり）をみてゐる。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

自分が生れてきた憂愁のなかに自分を浸して
ゐるそのときでも
そしてどんなに自分を自分で恥ぢてゐるその
ときでも
私はいつも太陽をぢいとみる。

太陽のなかに私の命がある
私の命は太陽にはぐくまれてゐる
私はどんなときでも私の命と私の成長を見守
つてゐなければいけない。

力強い勇氣と謙讓な心持は
どんなときでも太陽をすべつてぢいつと私の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

生のなかに
太陽(ひかり)をみた刹那(とき)しみてゆく。

私は太陽(ひかり)のなかで働いてゆく
私は太陽(ひかり)をみてゐる
私は生きてゆかねばならない
私の命をもつて私の仕事もしなけりやならない
私の仕事、私の勞働、私の成長、そして私の生活、
私はこれらの上に絶對の命を求めてゐる。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

朝の禮拜

朝がきたとき
私は夢をぬぐ
そして太陽をみる
それから自分のなかにかう祈る。

私の生れてきた私の土と私の木よ
そうして露と私の命よ
運命の力に私を抱きいれてはいけない
私の眞當の運命の力は、ちつとの雫もこぼさず

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

に私にまで與えてくれねばいけない
私はそれをのぞむ
さうありたいとのぞんでゐる。

私は自然につくられたものなのだ。
私のものすつかりは、どれもこれもみんな自然
に生れてゐるものなのだ。
私の魂がほかのものより、よしあとさきに生れ
てゐたところで
それが私にとつて只「時間」と「自然の色彩」の少し
ばかりおくれてみると云ふ、ただそれだけのこ
とより話してはゐない。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

私は自然のものである
暗と光と
穹蒼(おほぞら)の上の水と下の水と
核(たね)をもつ實と樹と草と
星と月とが作られたそのときに
創造(つくり)だされてゐたものなのだ。

つくりだされたそのとき
私は運命から「私の運命」をもらつた
そして私は運命から運命をもらつたきりに
それから、ずうつと成長してきた

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

そして育てられてこんなに、ものをみてゐる。

私がお前にねがふのは
私の生と命の雫をこぼさずに
私を私によこしてくれた運命そのままのうえに
私を働かせてほしいと云ふことだ
私に私の運命を開拓させてくれと云ふことなのだ。

私のあるく、みちは
光（ひかり）があるく、みちのように
どこまでいつてもたるみのない

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

はつきり光つたものでありたい
いつまでいつても暗(やみ)をしらぬ
光(ひかり)のみちさおんなじに。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

序の幕

わかれ來しすべての人々にさゝぐ

神近市

上

卒業と云ふことに何の期待ももつて居なかつた信夫自身でさへ、もうあと半年と云ふ押しつまつた時になると、妙にその時期が待たれるのであつた。若い女にとつては他の何の稽古よりも骨の折れる語學をやつたと云ふこともその頃になつて考へて見ると妙に不思議な運命の惠の一に數へられる樣で、わけもなく自分の生涯の出立のさいさきをよろこんだ。卒業と云ふ時期を書して一の運命のジャンプがある樣に思はれた、その時が來た時に遠い〳〵山道を辿つて居る人がそのうちの小山

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の一を登りつくした時の樣な、數分間の滿足と安心と、そして目途につゞく前途に新しい方角がついて來て新たになつた氣力と一息ついてよみがへつた體力とで又勇ましく進んで行くことの出來るよろこびとがその前には待つて居る樣に思はれた。又その一の小山を見越してそのさきにも丁度同じ樣な事件が程よく並んで居て、何時も生活が單調でもなく無茶苦茶には繁雜でもなく可成な元氣と自由とよろこびとでみちて居るものゝ樣に思はれた。それが別に何の根據があつてそんな思はれたのでもない、只ぼんやりと行く末のことなど考へて見る時には、人間にはたしかにそんなに幸福を夢みる樣な傾向があるらしい、それは又よく考へて見ればあんまり多くのものを考へねばならぬ樣に造へ上げて終つた人間に氣の毒になつた造物主が色づけてくれたかりのよろこびの一點かも知れない。

三年前信夫が東京に出て來た時に一時異議を立てゝ學資の送金を拒んだ兄ともその頃になつては折合つて居て、自分の事業の發展と共に收入もゆたかになつたのでどんなにしても入る丈のものは信夫にも送つてくれた。二年越しにやどつて居る牛込の奥の同鄕人のうちから麹町の學校に通ふ傍には、時間と自由がゆるす限はいろ〳〵な會合にも遊びにも廻つて步いた。

久しい間の兄妹の葛藤の仲をとつて居てくれた人の好い従兄のことなど、もうその頃を思ひ出し

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ても見なかつた。でも時々古い行李などいぢくつてその頃の深切な手紙など出して見ることがある時なぞは、今更三年前の自分が顧みられて、とつてつけた様な感謝の手紙など出してやると、同じ様な深切な手紙をよこして、もう直に卒業する様になつたと思へば自分迄がうれしい、お前の兄さんに對して私の顔も立つ、それも皆お前が强固な意志で自分の目的を遂行したからだなぞとよろこんでくれた。

時たま實家歸をする姉からも、うちのことなどよく知らしてよこした、嫂の强慾なことその子供等の母に似ず人なつかしいこと、そして何時も母が信夫のたよりをきゝたがつて居ることなど書いてそして追加には一日も早く卒業の日を待つなどゝ書いてはよこした。

かうした様な手紙を受取つても信夫は一種の滿足にひたる様な氣分を味はつて居た。が然し自分が一の梯段を登ると云ふ無形なことがそれほど近親のよろこびの材料となることを考へて見ると、さうした愛の手に抱かれて居る自分をよろこぶと共に、自分達が想像も及ばぬ様にかけ放れて行つて終つた子供を、やつぱりしつかりと抱いて居ると考へて居るその人達が、何時かは大切な寶玉の中味を盜まれて居るのに氣がつく時が來るであらうと思へもして、放れ〳〵の心と心とを並べて見てたゞ一つとその遠い隔たりを見詰めて悲しんで居ることもあつた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

學校にも敎師にも慣れて終つた今はもう學科にも骨は折れなかつた。可成細心な準備は何時もして居ても信夫にはその他の用に使へる時間が可成多かつた。

「もう、自分の仕事を始めてもいゝのではないか知ら」

など一人で考へて見ることもあつた。

××社で出して居る雜誌の一周紀念號に信夫がいよ／＼短いものを出した頃からその團體に對して世の中の態度は猛烈な攻勢をとる樣になつた。その頃社の責任者となつて居た二三の人達のいたづらな氣分でやつた行爲が一部の人達の間に恢復することの出來ない誤解と不信用とを招いたのは事實で、その爲に可成な理解をもつた人達迄も溫厚な安逸を愛する人は大勢に押されて同一の態度をとることになつた。AさんやKさんのことについての隨分とるにたらぬ新聞の記事などが堂々たる宗敎的の集會や種々な講演などでくりかへされた。今迄自分達のおばら一枚の價ぶみと見て居た女がそれ自らが單位であると稱し出した時に、この國の長い間の兩性の平和の破壞者として、謀判者の取り扱を始めたほどなおそれがある種の人々には襲ふて來たのであつた。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

「善良な淑女であり度いなら、一から十迄コンベンションをまもりなさい、それが一番安全で賢い方法だ」

と皮肉つた泰西のある大家の言葉など信夫は思出して居た、そして自分自身に、イブセンの名付けた破壞力が逆流して居るのを氣付いた時に、崖道を暗に行く樣な自分の將來をおそれないわけにはゆかなかつた。

十月の中頃ある朝信夫は一枚の葉書をうけとつた。六號活字の印刷でそれには雜誌の一周年の祝賀會を二三日してくる祭日に社員が皆して鶯谷のIに集つて擧行仕度と云ふので、AさんとKさんにそれに雜誌の署名人になつて居るMさんと編輯の手傳をして居る人との發起になつて居た。

信夫は自分の作品を發表して自身の成長の出立點を新にしたい願から××社の社員にはなつたものゝ、それはその社の組織が自由で會費さへ納めれば社員たることが出來たのとそれに個人的には社の人達を一人も知らないので避ければいくらも社の人達とも逢はないまゝでゆかれるので、自然自分の仕事に立ち入られる等のこともないのが好ましかつたからなので、何時までも社の人とは逢はないまゝでゆく考で居た。然しそれもこれもよく考へて見ればその頃の信夫にはさうした社でも

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

操つて行かうと云ふ勇氣のある人達の實力に過度な豫期があつたので、その人達と出逢つた時の自分の敗北をむざ〳〵實現するのが恐かつた臆病がさせる業には外ならなかつた。

一體そんな風な臆病と傲慢とから信夫は何時迄たつても文藝の道をゆく友人とか知己とかを得ることは出來なかつた。何時でも〳〵同じ目的と同じ信仰とをもつてならんで行くその道々の友達同志をうらやみつゝも、自分丈は妙にそんな人達から隔をおいて終つてそんな周圍にも入らず、それで居てその道にあづからぬ自分の周圍の人達には可成冷淡な態度を示すので妙に疎外されてしまつて何時迄も一人の道を歩かねばならなかつた。

でもその頃になつて來て信夫には妙にふりかへつて周圍の力を思ふ事が多くなつて來た。そして自分の周圍の人達がいくつかの力を一所により合せて社會の一隅にそれ〴〵な旗じるしをあげてゆく間に、自分丈はとりのこされた木の實の樣に、何をまち何をのぞむ的もなくて影うすく立つて居るのがさみしまれたり、又時には紅絹裏をかへした樣に輝く情緒をどうあやどることも出來ずにあせさして終ふことなどつく〴〵と惜しまれて來るのであつた。

さうした思のみだれ合から一度などはすゝめられてある新聞記者の紹介で京橋の大きな書肆につとめて居る大家に逢ひに行つたことなどもあつた。その人は限られて居るとは云へ文壇にもある有

力な位置を占めて居る人である上に、その書肆からは作品をいくらも紹介して貰へるなどの便宜があるので新聞記者はその人との交情によつて信夫が得らるゝ利益に多大な豫期を有してその人に逢ふことを熱心にすゝめて鄭重な紹介狀なども書いてくれた。

「矢張り對社會のことになると若い者にはわからぬ樣なことも有りますから、よく注意してくれる樣に私からも云つておきますから」

などゝも云つてくれた。

十四五の汚い顏の給仕に導かれてその書肆の三階に信夫は通つて居るとその人はごつちかと云へば事務家と云つた樣な態度の背廣服で現はれて來た。雜誌などの口繪で見た容貌と少しも變らぬ奇麗な人ではあつたが、年の爲か又はその頃兆して居た病氣の故か髮にもチラ〳〵と白いものが見えて、笑ふ時なども年老くさい分別氣な小皺を一杯見せて居た。その人は信夫に今迄書いたものゝことなど尋ね、又兼々どんなものを讀んで居るかなど聞いたりした。そして世間話ともつかぬ話が二ツ三ツ交はされた後信夫が暇乞して立たねばならぬ羽目になつた樣に思つてかへりかけた時に時々は自宅の方へも遊びに來る樣になどゝも云つてくれた。

でもその時の手持無沙汰な極りのわるかつた日を思い出すと信夫は何とも云へぬ不快な氣持がど

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

うしても拂ひ出せなかつた。傲慢で人に遜ることの出來ない信夫はもう二度とその人を訪問しなかつた。

よく芝のその人の近所を通る時など、もう一度行つて見度いなどゝ思ふこともあつたがその人が社會的に可成な位置に居ることなども信夫の決心をにぶらした。たつた一度さうして求めた機會であつた人を又特別な用もないのに尋ねて行くのが圖々しい行の樣にいやに思つて來て、却つて冷淡からか無關心からかあゝして鄭重に逢ひに行つた者に二度と逢ふ機會を造らへてくれない人がうらまれて來るのであつた、

Aさんはその前からよく葉書などを書いてくれた。××社で催ふして居る研究會の時間などたえず知らして出席を勸誘して來た。しかしそれも會員として他の人々同樣に通り一遍のことゝして貰えるのと思つて信夫はうごかなかつた。かうした風にどんな場合でもどんな人にでも又どんな不便を感じてゞも特別な待遇と特別な注意とを要求せねば居られぬほど信夫の傲慢と横着はもうこびりついたものになつて居た。

でもその頃信夫の××社の人達に、殊にAさんとKさんとに對しての興味は稍々うごいて來た。發

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

表されるなどをよんで行くうちにAさんのとぎすまされた業物の様に肉でも血でもザク〳〵と切り込んで來る氣持のいゝ冷靜さ、何時も自分獨特の王國に凡の物を改造して自分の生活とむすびつけねばやまないKさんの自由な態度に對しては心がうごいて來た。それで信夫が今うけとつた案內狀は兼て信夫がねらつて居たその人達に近付く機會を齎したものではあつたが、折わるくその日は友達と郊外に出る約果が出來て居た日にあたつてそれを今信夫からとり消すことは出來ぬ破目になつて居たので、向ふから來た葉書の片側に理由を書いて斷つておいた。すると二三日して又大變特長のある字のKさんからの葉書がとゞいた。

會は二時からですけれど私共は宇野さんの爲に日がくれてもまつて居ります、遠足なさつておくたびれでしようが是非來て下さい。Aと私とは殊に宇野さんをまつて居ります。宇野さんが來て下さらないとKは皆の人にうらまれます。

Kはいゝ御返じをまつて居ります。

——日　　K　拜

信夫はその朝未だ床の中でこの葉書をうけとつてくすぐられた様に笑つた。可愛いだゞつ子にねだられて居る様な氣持がして遠足からかへつたら直に行く様に返じをしておいた。Aと云ふ人やKと云ふ人達の人柄を様々に想像して見た。

その日遠足からかへつた時にはもう日がくれて居た。汗くさい着物を替えたりお腹をこしらへたりする間にも可成な時間はたつて居た。袷に帯をしめて歸途がおそくなり相なのをおそれてコートはかゝえて出て行つた。Iの玄關にはまぶしいほどあか〱とあかりがともされて、大勢の男や女がきまりのわるいほど大きな聲で

「入らつしやーい」

と云つた。

八疊と十疊の二間が打つ通しになつて居て、そこには七八人の人達がのこつて話し込んで居た。次の間の方には蓄音機がかけられて、そのまわりには美しいKさんの妹や花ちやんと皆が云つて居る可愛らしい社員が集つて居た。

Kさんは女中がとり次と直にとんで來てくれた。座敷に入つて見るとAさんは床柱の前に棋盤に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

腕をもたらせてかうほてつた顔をおさへて居た。葡萄の實の樣に張切つた力をもつた眼が信夫の前に柔しく笑んでくれた。

信夫はその夜のAさんの態度をあとでもよく樣々に解釋して見ることが有つた。そんな風に物を考へて見詰める時に白襟を引きつめにしてにぶい色のお召地に白い裏を打つた羽織の肩を少しずらして文壇の名物男のC氏の夫人を側には控えさして、少しうつむき加減になつて座つて居たAさんの姿がはつきりと思ひ出せるのであつた。そしてそれがさうした團體の主腦であるAさんの權威と見えることも有るし、時々凡の人の力を疑ふ樣な立場になつて考へたときに、又祭りあげられた一個の不幸な偶像を見る氣持になつてその夜のAさんなりKさんなりをふりかへることなども有つた。

側によつて來たKさんはいろ〳〵な人にも紹介し、尙その外に女の作家として畫家として立派に一人の位置を保つて行つてる——女史やN女史などもその日は集つたこともきかしてくれた。作物の上で知つて居るその人達を信夫はまるつきりのスツレンヂヤーとは思はなかつた。それでもそれらの人々の名を口にすることでさへもそれまでの信夫にはゞかられたことで、皆の人達の名を自分の破れた手袋のことを話す樣にたやすく造作もなく名ざすことの出來るKさんが頻にうらやまれた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

人慣れのやすいと云ふよりも寧人に直に好く様になり易いKさんは「私は宇野さんは大好です、これから仲よしになるのです」など丶云つてくれた。「私もKさんは大好です、仲よくしましよう」と信夫も云つて二人してきんさんの皿を突ついたり、お鮨をわけてたべたりした。藝術の友に餓えて居た信夫は始めて長い間求めて居たものに出逢つて、大よろこびによろこんで、かうした交友によつてのみ得らるゝ幸福を高價に評價して、さうした今迄の日本の女達が見知らぬ幸福を頻にKさんに說いたりした。

十時がまわつてから女中がもつて來た名刺を見て皆がちらと各自の眼を讀みまわした。Y新聞の女記者が玄關に來て幹部の人に逢ひ度いと云つて居るのであつた。

「私が出たら又大變なことになるから、K、あつちやどうです」

Aさんは人を見ると直に固くなる人であつた。それで何でもないことまで大きくなつて行くので、今夜の様な時にはKさんの様な人にうまく云はしてかへせばいゝと云ふのであつた。結句叔母さん役のMさんがKさんの控となつていつて逢ふことになつた。

「のぞいて見ましよう」

と云ふ花ちやんの相手になつて信夫も向ふの座敷をのぞいて見た。障子を後にして背高なKさんと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

淑かなMさんが座つて、此方から正面に見へる壁を背後にして女記者は座つて居た。前をちゞらした束髪にして、お召か何かの重ねに紋付の羽織を來てにこやかに愛嬌をふりまきながら鉛筆の手をうごかして居た。

「――さんはほんとにいやな人よ、あんなすました顏してそりやひどい人なのよ」

花ちやんは腰をかゞめて腰硝子の間から眺めては話して居た。こつちの部屋では暫時は聲をひそめてヂーツとして居た。

「――さんはもうかへりましたッ」

と廊下をかけ込んで來るKさんを皆は制した。未だ記者を送つて行くMさんの後姿が衝立の後にかくれてから間もなかつた。

「K、何と云つたのです」

Aさんが一番初めに尋つた。聞きたさは一杯なので皆の人がかたくなつて息をのんだ。

「あのね、いろんなことを聞くのです、藝者をよんだとはほんとうかのお酒は何をのむかの、だからそんな馬鹿な眞似はしません、只皆集つてお話をするのに淋しいから質素なお料理をたべた丈で

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

すつて、飲物はサイダーより外には何も有りません、そして蓄音機なら最前まで鳴らして居りましたつて、ね、Mさん私は今日は大眞面目です、自分ながら感心なほど丁寧に話してやりました、Aさん褒めて下さい」

頭梁らしい態度でニコ〳〵してるAさんは皿の中の小さなものをはさんでやつて、飲みかけのコップをKさんの口によせてやつて居た、直に大きなKさんが小柄なAさんの腕にまかれて安心したねむりに落ちて行くのが見えた。

そして十一時がまわるとあそびつかれのした四五人の人達は一群になつて歸へて行つた。

その日終日歩きつかれ喋ぎつかれた信夫はもううごきがとれなかつた。そしてうちには電報を打つてもらつてAさんやKさんやMさんとその晩はそこに止めて貰ふことにした。

あけの日のY新聞は、信夫はMさんと二人電車の中でよんだ。

「又何と書くだらう」

さう云ふ考は前の夜から誰しも考へて見たことであつた。あんまりあることもないことも書き立てられると初め反省する様な氣分をもたらした新聞の記事も今では耳許に來てなく蚊程も氣にならず、

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

花火線香をともして燃え出す炎をたのしむ子供の樣に自分達の行爲を目の前になげ出してそれをごんなにも讀ませて見樣とする樣な人をのんだ氣持もその夜Iにとまつた人達のうちにはうごき出すのであつた。

Y新聞の三面には大きな標題で「女梁山伯の運中大に飲む」と云つた樣なことがかいてあつた。逢ひもしなかつたAさんやC夫人の服裝のことや――女史N女史の話など細を穿つて書いてあつた。

Mさんは格別驚きもしないと云つたとりすました調子で新聞を信夫の手に渡した。

「――さんはほんとうにいけない人です、丁度かう云つた樣な大僞の記事を捏造するのですから」

以前記者生活をしたMさんはそんなことも可成な平氣で見て居られた。

信夫は今更にそんなことを通じてながめる社會を不可思議に思つて見なほした。もう自分もそこにさうして居る影のうすいMさん一人を通して世の中に向つて立つて居る樣な氣がさして來た。と共に學校と云ふ大さな袋をすつぼりかついでそのうちで泣きも笑ひもして居る友達などが如何にも貧弱な生活に甘んじて居る人達に思はれて來て、あつたら思ふ樣嘲笑して見度い氣持になつて來た。そしてかへると宿の者には別に何とも說明もしないでそのまゝ學校に出かけて行つた。その日ある筈にかねてなつて居た試驗をうけてさつさと書いてのけていゝの一番に席を立つた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「ぎやあ〳〵云つたつて同じ事だわ」

と云つてやつた樣な好い氣持がした。

凡のものに對してさう云つた樣な態度が周圍の人達の反感を引き起した。何時とは知れずもえ出した新しい自我は春先の野草の樣にぐん〳〵と伸びて行つた。まぶしい太陽の輝に逢つて一寸物を見定めることの出來ないと云つた樣な自分の態度をいろ〳〵に說明して見樣とする氣分もその頃はうごいて來た。二日も三日も學校は休んで終つて本をよみあさることもその頃からははげしくなつて行つた。

信夫の書いたものは短いものではあつたがその頃信夫をとりまいて起つた事實が女としての同情を無暗にあほつて激しい男に對しての反感を抱かせたので、その結果は作物に著しい影響が現はれて來た。その頃の信夫の境遇や思想の變遷を朧氣にも推することの出來た少數の人達は不完全ながらも自分の思想を發表する機會を捕へ得たことをよろこんでくれたけれども、想像と現實との終局の一致に絕對の信仰をもつて居る人達はその創作と行爲との上にある密接な關係のあることの結論

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

に達し、又、信夫が親しく出入して居たある畫家の思想なり家庭内の種々な風評もそれを證明して、その頃まで出入した居た教會あたりでも可成にはげしい攻撃をうけたりした。

信夫の爲には食ひ破つて出た殼の樣にもなつたその短いものは二三の小さな雜誌に批評された丈ではあつたが、格別な準備ももたずに書いたものではあつたし、周圍の人達に「事實あつたことでなければあんなにリアリスチックに書けるものではない」と云はせたと云ふことは少なからず信夫自身の注意を惹き起した。

「材料はエスセンシアルなものでなければならない」とは信夫が藝術のマットオとして居るところであつた。

「これで近代の人なんかなか〳〵歩きいゝんですよ、兎も角事實の上に事實を重ねて行けばそれが立派な藝術になるのですからな、その點から云へば昔の人は苦勞しましたね、兎も角凡が想像で書いてゆかねばならなかつたのだから」

或る文學者がさう云つた時にも、たしかに肯綮に當るとは考へて居た。

然し信夫の前には現實は喰い足りないものであつた。現實そのまゝな形をながめる時に信夫は何時もその間々に介在する空虛の大きなことに驚いた。そして又醱つてその空虛をみたす手段を考へ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

た時に彼女は自分自身が境遇からか、根から生へたものゝ様に現實に根ざしをつけて終つて一歩もそれから踏み出すことの出來ぬのを悲しんだ。

その荒野の様に乾き果てた自分の魂のうちにさうした美しい想像の花が開いたのか、無から建造することの出來る創造者の力の一片が自分にもひそんで居るのか、信夫は新しい歡喜をもつて新たに自分を顧みさせられたのであつた。

暦がかわつてからも二ケ月は過ぎた。もうそれつ切に信夫は當分書くことは斷念して終つた。ある意味から云へばその短いものはそれ丈他人よりも信夫自身に考へさせたのであつた。でもAさんのすゝめでよんだものゝうちから一節を譯して見たりすることもあつた。その頃を劃して信夫にある時代が過ぎて次の時代が來たのも事實で、凡の物が今までとすつかりちがつた光と意味とをもつて肉迫して來た。

その團體に對しての社會の惡罵は止むところを知らなかつた。

自分達が勝手に造らえだした幻影を恐れて更に撲滅仕様さしてあせつて居る衆愚の努力を、猫に袋を被らせて樂しむ様に笑つてばかり見て居られぬ時が社の幹部の人達の間にやつて來た。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「隨分手きびしくなつて來ましたね」
「ほんとうにね、かうやつてすましてばかりも居られない樣な氣がしますよ」

月末にせまつて編輯の折なんか印刷所の二階に集つた人達がこんな話も仕出した。

「どうか仕樣では有りませんか、こんな風だつたらどこまで行くか知れませんよ、お陰で雜誌はうれるけども」

雜誌が可成うれるのは事實であつた、社に同情して居る人は勿論、憎しみをもつて居る人達も攻撃の準備の爲に、或は話の種に買つてよんでくれた。さうして間接には社の成長を促して居た。

「雜誌のうれるのはいゝけれども編輯室よりばかりでうれるのは情ないわね」

他の多くの雜誌の六號活字と同樣、同人の私の生活の一片を書く「編輯室より」が若い人達の間にはもてると云ふことももの足りなかつた。

　團體組織で文藝や美術を考究する樣な氣運が向いて來た。何々會何々團と云つた樣な團體は書の方にも劇の方にも數限りなく雨上りの蕨の樣に出て來た。當代の文星を網羅して組織されたと稱する自由講座が開かれると云ふ豫告が未だ出る前から、信夫達は郊外に住んで居るある人の主催の小

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

さな會に出入して居た。先づ自己の成長を先にせねばならぬと云ふのがその人達の主張で、會員と云つては信夫の學校の前年の卒業生のうちからよりによつて頭のあると云はれて居る人達と、信夫の同級の三年生のうちから三人、一年から卒業生を姉さんにもつた今井さんを加えて十人にはみたなかつた。

ある土曜日の朝、信夫は御飯をすますと直に會に出かけた。神樂坂まで連があつて出て來る途中で京橋邊のある雜誌社の女記者をして居てその頃何か小さな著書などを出して居る人がその男と連れ立つてくるのに逢つた。知つて居ると云つてもその正月に京濱電車で行くMで新年會の代に集つて遊んだ時に初めて逢つた人で、人なつきのせぬ信夫にはその後は思ひ出すこともない人であつた。その人はまあ――と云つて直にきまりのわるがる信夫の手をとつて愛想よく話してくれた。

「どうなすつてその後、御無沙汰したわね、どうなすつたの蒼い顏よ、あんまりあそび遊ぎたんでしよう」

さう云つた場合にあまり慣々しくされると信夫は何時でもとりすますのが癖であつた。そして相手が不快を催すまでだまつてヂロヂロと對手の顏を見おろすのが癖であつた。

雜誌に出るときはその人の書いたものなど可成忠實に讀んで思想の上からは尊敬して居るのであ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つたが、さうして顔と顔とを見合はせる時に、自分の感想に手綱をかける道を知らないで、對手の藝術的ムードを平氣でこはして行くのが憎らしくなつて來て、利害や作法や謙遜に盲目な傲慢が直に頭をもたげて來てまともから無言の侮蔑を加へずには居られなかつた。

それでもその人はさうした樣な感情上の肉迫に對しては極めて冷淡な暢氣なところのある人であつた。對手の沈默や素つ氣なさなどには殆ど無感覺なほどな無邪氣さと輕々しさとをもつて手を引かうとする信夫の手を又握りしめて一寸頰をつッついたりした。信夫の連の者にも自分の男にもさうした親しみを見せつけるのでは有るまいかと信夫は考へた、

「今度の講演會はどう、おいでになるでしよう」

「あれはほんとにあるんですか、Aさんにでも近頃お逢ひになりましたか」

その前の日のよみうり抄で見た記事は信夫は眞實とは思つて居なかつた。又珍らしい報導をしてよろこぶ新聞屋が何かの間違で出したことで直に取り消しが出ることゝ信夫は信じて居た。

「預言者の奥さんが××社の人は講演會をしたらいゝだらうと云つてくれた相ですけれど、私共は未だそんな方法をとる前に力一杯な仕事を見せるのです」

とAさんが信夫に何かの話の折に云つたのはあんまり以前ではなかつた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「誰がおだてあげたのだらう？」

と信夫は男のあとを逐ふて小急ぎにゆく女記者の後影を見送つた。吐き出したものに對する様な惜々しさをその人の上つて行つた賑かな坂の上にほとばしらせた。

その日は實驗心理學の講義でそれがすんだのは二時にもなつた。とりよせたお辨當を一所にすまして先生が歸つて行つたあと、又一しきり新しい話題に移つて行つた。新刊の書物の噂やら學校の話などするうちにフト同性間の愛と云つた様なことに落ちて行つて、その存在を肯定する人と否定する人とに別れた。

それでも直接に寄宿舍などに居て見聞した人から話を聞つたり、書物の上で深くよんだ人達の立證を聞いた人の話は皆の人を一ッ土臺に引き据えてその存在を信じさせずには居なかつた。とは云へ未婚の女達ばかりにはどうした形式と動機でそんな不思議な戀愛が成立して來るのか、又それが眞に變則にのばされた本能の働であるかは到底想像もつかないことであつた。

信夫は折があつたらそんなことについて少し研究して見度いとも思つて居た。その話を眞面目で話し出すのを擽られる様な氣持を押へてクツ〳〵笑ひながら聞いて居た友達は××社の問題と共に

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

やかましく云はれて居るAさんとKさんとの間の風評の事實なことを定めて終つて、よく氣をつけたら多少の材料はそこからも求められることなども注意してくれたりした。

信夫はその歸途Sさんと市ケ谷まで一所に來た。講演會のことについて、未だ時期がそこまで熟して來て居ないことや、辯士の選擇により深い注意を要すると思ふことなど自分の考を云つて見た。Sさんはその頃美學のものなど譯して居る人で以前はAさんと一所に恰度今の××社の様な同じ會合で成長したこともあるので、名高いAさんの昔の歷史には可成親しみのある人でも有り、その現在も興味をもつて見て居る一人であつた。

「でもそんなにまで話がすゝんで居るのではね」

とSさんはふつくりした半襟の中に頤をおとして考へ込んで居た。

「………ですがそれにしてもあなたのお考を一應おはなしになるは結構ですね」

別れる頃Sさんはさう云つてくれた。信夫も決心して直にでもAさんに逢ふ積なことを話して別れた。

歸つて夕飯をすますと又直に大曲に出て電車にのつた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

巣鴨行を曙町で降りそこの暗い道をトッ〳〵と草履の足も輕く走り出した。
「お出掛になりましてムいます。お行先はわかりませんでございますが大方は堀田さんのお宅でムいましよう」
何時も取次に出る女中は玄關に兩手をついて云ふ。そこを出て通から車にのつて追分にある堀田氏に寄寓して居るKさんの所まで行つた時にはもう七時は大分まはつて居た。
青い陶器の大きな丸火鉢を間にして二人はいろ〳〵な打合の最中であつた。そこには信夫が名ばかりよく聞いて未だ逢つたことのない社員の人達が先生々々と云つて居る人も主人らしく座り込んで話をして居た、信夫が紹介されるとゆつくりお遊びなさいと云つてかへつて行つた。
「――は皮肉な奴ですからAさんもしつかりとしてかゝらないとね」
と云つた人を思ひ出して信夫はその人を見送つて居た。
「これ入場劵です、Kの圖案です、いゝでしよう」
Aさんは一寸三分に一寸五分位な横に廣い二ツ折の厚い紙に眞中に神秘的な埃及模樣らしい鳥の樣なものをあしらつた氣取つた紙片を出して見せた。プログラムは内側にすり入れてあつた。
「結構です、そしていよ〳〵なさるんですか」

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

「えゝ、いよ〳〵いたしますの」

「それぢや、それについてどんな結果が來るかお考へになりましたか」

と信夫は云はずには居られなかつた。それでもAさんは可成に成功を疑はぬ口調で充分考へてやるのだから心配せぬ樣にと丁寧に辯護した。では何も世間が怖しいからではないが社の成長を阻害する樣なことの原因にならぬ樣に辯士の選擇なども改めてはと云つた時にも、辯士は皆いろ〳〵な關係で泥近な人々ばかり故會を中止せねば斷りはされぬことなど聞かされた。

その夜見送り旁々泊りにくるKさんをつれて別れて行く人の後影をほの暗い町に見送つて信夫はブラ〳〵と獨り電車道を春日町まで歩いて行つた。

淡い淋しみが二人にわかれた町の方から心にしみて來るのであつた。

信夫が何か事に當ると何時でもきまつたことの樣に云はねばならぬフレーズがその道でもくりかへされるのであつた。「とう〳〵來る所まで來て終つた」とそこでもくりかへして云はねばならなかつたゞそれは云ひ替えてみれば信夫にとつては何時も何か不仕合な不利益な結果に物事が終つた時に安心したよろこびさからみ合つて出る言葉の一で、悲しみと喜は相亞いで來ると云ふ東洋のリゼン

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ドにはぐくまれて來た臆病な心はどんなに些細な事にぶつかつてもそれがかうした安心な局面に達した時に始めて自身に對しての安全の保證の樣に思はれて來るのであつた。

然しその夜はそのフレースは決してその同じ意味それ丈のものではなかつた。その頃はもう覺めかけて來て居た內なる自身が、自分に何等の權威がないことの事實を蔽ふてい丶加減にごまかして行かうとする輕薄な外面に反抗した態度をとつて、眞實そのものをつかまうとして居た頃で、何時もの樣に原因と結果の終局の一致に多大な信用をおく安價な安心にひたつて終ふには可成な成長が內部には行はれて居るのであつた。

初めて藝術のアトモスフヒーアに入つて來て信夫は自分自身の力を最も安價に見積る一人であつた。外面の成長に關ることなくして魂と魂との權威の相違によつてのみ上下を生ずるその周圍に於て自身が燈心ほどの重さをもつて居ない事實が信夫に充實した力の欠乏し居ることを證明して、さうやつて十數年凡てのものをかへり見ないでゆきつかうする關門を見るのみでそこに行きつく天分をあまさぬ自身の身の上が考へられて、空しくイルユージョンのくづれ果て丶行く行末をおの丶かずには居られなかつた。

暫時たつて入場劵が二十枚送つて來た、一枚廿錢は餘り氣持よくうることの出來ない價格ではあ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つたが、それでも心あたりの人達に一枚づゝ渡すと時間と場所の都合はよし、世間でやかましく云つて居る折なので、變つたもの見たさの若い人達は暫時すると廿錢をソッと信夫の手に渡して來た。

その人達は未だ社の眞の存在を多くは知らない人で「一體どんなお話があるのでしよう」とか「私共が聞いてもわかる樣なことを話すのでしようか」などゝ信夫に尋ねて來たが信夫自身にしてからがその辯士達がどんな話をしてくれるのか、又かうして必然におこつてくる運動に對してはどんな意見をもつて居る人達であるのかそれを知るには餘りに親しみのない人達であつたので豫想をはなしてやることも出來なかつた。又眞面目な賢い人達ははゞかつて行くとは云ひ出さなかつたり、あなたがお出にならぬのに私共がどうして參られますかと體よく逃げたりして、行つたのは年の若い珍らしいものゝすきな人達ばかりで北極から來た珍らしい鳥でも見に行く樣な氣持で居るらしかつた。

その日は學校で來朝中のある學者の爲にチーがあつて、卒業生と學校關係者の外に信夫の級丈が招かれてゴタ〳〵とした珍らしい集のうちに日は傾いた。主人側を働いて一まわり二まわり菓子や茶をまわしてあるいた後で同級生丈が環になつて珍らしい飴を拾つてよろこんだり、濃い紅茶を牛乳で割つてのんだりして騷いで居た。うちにかへりついたのは七時すぎで、疲れ切つて何も考へないで床に入つた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明の朝の新聞の批評は可成まち〳〵で有つた。冷笑するのも有るし眞面目に批評してるのも有るし社の態度を理解仕樣としたのも有つた。而し歸する處は社員の重な人達を殆ど網羅して居た その日の會場に「世を騷がして居る奴等はこいつらか」と云つた樣な實際を見て滿足した一種の安價な安心を以てＯ氏の講演の眞最中に預言者と稱する人が抗議を入れて短氣なＯ氏と見苦しい騷を起した事實に對して讀者の好奇心をそゝのかす爲に大きなみだしをつけて書いて、肝心な講演の要點なんかは不得要領のものも少くはなかつた。

學校では殆ど廿人近くの人が行つたらしかつた。近い人達に批評をさせて見ると

「皆大變おとなし相な方ばかりだわね、それに講演だつてちつとも攻擊される樣なことはないわ、何故世の中の人達はあんなに敵視するのでしよう」

と云つた位のことで聽衆には少しも惡い印象を與へたらしくはなかつた。

信夫は自分の憶測が杞憂に過ぎなかつたらしいことを社の爲によろこばずには居られなかつたと同時に、萬事のことに臆病で大膽に信ずることを行つて行く勇氣のかけて居る自分を呪はずには居られなかつた。火の樣な意志の力を以つてその人の前に開かれたレールの上の障害物を燒きつくして進む人の行手に始めて その人の運命の曉が來るので はあるまいか、かうした迫害や嘲笑を通じて

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

今後幾百千萬と我等の後につゞいて生れて來るこの國の女達の眞の自覺の日が來るのでは有るまいか、そして男達が敎育も趣味も境遇も同じくすることの出來る異性を得ることの出來る黃金時代が近よるのでは有るまいか。

信夫が學んで居る學校の校長も婦人の位置に對して可成な意見をもつて居たのは事實であつた。然し自由の前に先づ敎育を與へよと云つて十年一日の樣に山手の小さな一城廓によつて傍目もふらずに働いて居た、でも時代は推移して行つた、そこの城廓から一歩をふみ出せないであがいて居る間に凡の物は移り過ぎた。十數年前、その學校が始めて開かれてそこに理想を實現仕樣とする少數な敎師と生徒とが集つて來て熱心と誠實とを緯とし經とした特殊の學校が出來上り兩者のピタッと合つた意氣のうちから尊敬も愛も希望も生れ出て居た時代は過ぎて、生徒が多くなればなるほど學校の名が上れば上るほど敎師と生徒との懸隔も遠くなり思想も離れたものとなつた。かうして今はもう時代婦人の運動の中心點は一段をすゝめて今自個を主張してその前に凡の物を犧牲とする少數の女達の運動となつて行つたのではなからうか、そして、さうした運動の渦卷の中にまかれながら安逸と無事を願つて我等につゞいて生れ出る女達の爲の永遠の仕事ににげを打つて居るのではないかと自分を顧る氣持もうごいて來た。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

暫時して直接ではなかつたが學校のある敎師の講演會についての感想とも思はれるものを信夫は聞いた。何でも二年の敎場とかで譯の時間にその話が出てその敎師は新聞を見て聲をたてゝ泣いてこの國の女達の未來の呪はれたことを憤つたと話した相でそれを云ふ時も言葉と共に涙下ると云つた風であつたと云つて居た。でもどの點についてそんなに憤慨したのか、聞いた人達にもはつきりとはわからなかつた相で、只不都合です、あんな團體の存在をゆるしてはなりません、が又あんな演說會に出入する人々が澤山あるのは心外です、この學校ではまさかそんな人達は有りますまいと云つたとかで出掛けた人達は大分危い目にあつた相であつた。

その敎師はこの國で基督敎を立場とした婦人團體のある重要な位置を占めて居た人で殊に青年女子の問題については責任をもつて居ることはどんな問題にでも相當な意見をもつて居たのと絕えずそれを發表して居たのとでも推しはかられた。

ある日校長は信夫をよんで先日の講演會に關係したかと尋ねて居た。

「あんな運動は未だ早いんです、殊に〇と云ふ人なんかに講演をたのむとは何事です。婦人の會合で男達がつかみ合つたりなんかして、敎育ある女にそんなことは忍ばれません」

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

とそれが不完全な日本語をつかつてはなす校長のその講演會に對しての感想らしいものから信夫が記臆と想像とで捕へ得た批評らしいものであつた。

かうしてO氏の持論に對しての社會の反感と××社に對しての誤解とは永久にはなれぬものとなつて終つて、識者達のうちにもそんなことによつて自然社の立場を氣遣ふ人も出る樣になつて行つた。講演會はかうして預言者に新らしい運動を起す機會をあたへ、O氏には若い聽衆を相手にして得意な主張を語らせ新しい數枚の紙幣を手にする機會をあたへたけれど、××社には新しい攻擊と新しい嘲笑の外には何物もあたへなかつた。

間もなく預言者の妻君と二三の人を中心にした新しい雜誌社が起つた。××社の人々によつて失はれた婦人の評價をとりかへして眞に時代の要求する良妻賢母を生むと標榜して引きつゞいて演說會が開かれ、機關雜誌も發刊された。

その團體がある種の女達からも社會の一部からも冷笑をもつて迎へられたのは明らかであつた、又さうした反感を抱かない人達も多くあつたが、その人達は又そんな種類の問題に抵觸するのをさける人達であつた。今度こそは自分達の最も要求して居る階級の婦人の養成を約束するのであれば

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

大向ふでは手を鳴らす番なのかと思へばさうでもなかつた。

「社會と云ふものはあれでもいけないこれでもいやだと云ふだゝつ子見た樣なものさ」

「當分は女の企てる凡ての事は嘲笑の的となる考で居ねばなりませんね」

と云つたある學者の言葉が頻に考へられた。

いろ〳〵な事柄がいろ〳〵なことを考へさせた。

卒業後の仕事のことなど考へて見ねばならぬ時も直に來た。

卒業生のうちでは學校が學校丈に教育に從つて居る人達が一番多かつた。然しそれも相當な口があるのは地方に限られて居て東京內の好い位置はすつかりつかえて終つて居た。集つて來る生徒が一體にたいがよかつたのでその他に赴くものと云つては上流の家庭に一週に一時間か二時間かづゝ英語を敎へに行く丈で、又そんなうちを二三軒も持つて居れば割に暢氣に上品にやつて行けるのでもあるし、大抵は東京にちやんとした親の家がある人達で何時も美しい色の着物など着飾つて廻られる人達であつた。

でもそんな家もなし又別に何と云つて職を求めてたのみ廻る樣な知己も持たず、地方に出て學校

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

敎師を試みるほど氣まぐれな氣持にもなれなかつた信夫は、その頃資本を下ろして見てもいゝと云ふ人のあつたを幸に急に商賣をして見る氣になつて、一二度は丁度同じ樣な逕路で新橋近くに藝術の合間々々を前垂がけの商人になりすまして居る石山さんに逢ひに行つたことなどもあつた。

下

石山さんと云ふのはある劇團を起して自分も細君と一所に舞臺に立つて居る人であつた、兼ては日陰町にさゝやかな化粧店を營んで生活して居て、傍ら劇の研究に熱中して居た。信夫が初めてその人に逢つたのは歲暮近くの寒い日であつた。

「信夫さん、そんな話なら石山さんは屹度相談相手になりますよ、さうでなくつても一度逢つてごらんなさいそれは面白い人ですから」

と云つてKんは信夫を連れ出した。

夕方になつて降り出した雨の中を衝いて行つて見ると通の淋しいそこの店には瓦斯ばかりが淋しくついて主人達は居なかつた。店先でひまらしく手紙など書いて居る靑年と暫時話してから石山さ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

んがかへつたら直に來てくれる樣に言傳しておいて近くにあるカフエーPのドアの前に傘をつぼめた。

そこの二階の隅の方に腰かけて熱帶の狂はしい樣な氣持をもつてせまる珈琲をすゝつてボツ〳〵と話して待つことにした。Kさんはマントをすつぼりと頸元までかぶつて左のひぢをついて灰皿の灰をいぢくつたりして居た。

××社の問題がやかましくなつて來て、カフエーなどに出入りする人達がそれらしい人影を注意して居る有樣なども想像された。それでさうしたうちにも頻繁に出入する男達や女達に氣をおいて居るKさんの態度が信夫にはいぢらしく可愛く思へて來た。

信夫がもつて來た雜誌などよみはじめた頃Kさんはいきなり信夫の後あたりにある卓の人から聲をかけられた。

その人とKさんは可成親しく信夫にはわからぬ人々の消息など話し合つて居た。見返へり度くても何だか咎められる樣な氣持がして居るとその人は間もなく信夫達のテーブルによつて來た。

「Mの編輯をして居るBさんです、××社の宇野さん」とKさんは大人らしく云つた。

「よろしく」

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

「どうぞよろしく」

一様にさう云つたなりいきなりはあとの話がなくなつて三人は一寸默つて終つた。暫時すると二人は展覽會の話やら芝居の批評やらの話に實が入つた樣なので信夫は又よみかけの雜誌をひろげて居た。それでも一字々々が孤立した小石などの並んで居る樣でその間々の交渉はされて終つて、一つもまとまつた意味はされなかつた。

暫時するとその仲間が又二人ほどやつて來た、てんでに椅子をよせて來て又一しきり話がはづみ出したところに石山さんが長い荒い縞のマントの姿を見せてやつて來た。もう卅はいくつもこえた顔は瘠せて情熱のさめた樣な顔ながら、女に見る樣に襟足の立つた奇麗な面長な顔立で、自分でも自慢して居る眼は殊に美しかつた。瞳孔が眞黑で、それが時とすると非常に世間慣れた應揚な表情をおびて來て、話なんかして居る相手の心を云ひ知れず和らげる樣な光をもつて居た。マントの裾を引いたまゝで椅子にかけて兩手もチャンとかくしの中に入れて丁度眞正面になつた信夫の顔をまともに見てはMの人達と新年宴會の打合などして居た。

Mの連中がぞろ〳〵とかへつて行つてから三人になつて又一しきり××社の話やらAさんの噂やら話がされた。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

信夫は石山さんの名よりは細君の名がうれてゐるので、石山さんには細君より以上の注意を拂つて居なかつたことなど話すと石山さんは一寸いやな顔をした。

「でも僕が傀儡師だと云ふことは知る人は知つて居ます、ね、Kさん」

と云つて一寸Kさんをふりかへつて見て躊躇のない返事に安心した様に細君の噂など始めた。

「で、自分も一生懸命にやつては居りますが、頭のない奴ですから未だなつては居りません、今後は××社の方々にもいろ〳〵敎へて戴いてお引立を願はねばなりません」

と眞面目になつて云ひ出された時に信夫は一寸まごついた。でもマントを脱ぐと双子か何かの質素な上下の着物の袖口から白のメリヤスを長く出したり、二枚物の黒博多の帶を羅紗の前掛でキチンとしめた非藝術家的な容子を見ると、只わけもなく面白い人に見へて來て打ちとけて親しい話にひたる樣に心をひらいて話して居た。

夜は賑かに暮れて行つた。

話につかれて三人がカフエの窓を眺め出した時にその近年切つての東京の大雪は菲々と降りはじめて居た。橫なぐしの風に吹きつけられて切花かなんぞの樣に硝子の外側にくつちりとついた雪も、糸につるした銀糸の樣に電線に下つた雪も美しく、先刻までは命と命とのせめぎ合に余念もなかつ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

た銀座の町も音なく落ちてくる白一枚につゝまれて暫時はねむらうとする頃であつた。青い瓦斯の光、白い雪、赤くなつた三人のその夜の顏を長く忘れ得ぬものにして銀座の町をわかれて歸つた。

もう一度細君に逢ひに來て呉れとの手紙を信夫は間もなく石山さんからも細君からもうけとつた。

又來ると云つて下すつた人は何時おいでになるのかと二人はまつて居ります、私はあなたにお逢いしたいのです、おはなし仕度いのです、どうぞ直にいらして下さい。

でもその頃さしせまつて居た試驗と、日曜學校を受持つて居た教會のクリスマスの準備とは信夫をさうした遊びにばかり耽らしてはおかなかつた。それでそのわけを書いて斷つておくと直に又二度目の葉書がとゞいた。

では私はそれらをおいてまでとは云ひませぬ、おいで下さるまではちーつとしてまちますから、御用がすんだら直にいらして下さい。

それは石山さんの圖案になつた繪葉書の端にかいてあつた。

かうした手紙を書く藝術家のなつかしまれもして信夫は間もなく銀座に出かけることを約束して終つた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ある座に勤めて居る細君の歸るのが八時を過ぐると云ふので信夫は七時頃にうちを出かけて行つた。さうした切りつめた時間でも夜を選ぶほど信夫は日中を嫌つた。白日の刺戟はさうした折に不安になる信夫の魂をいらだゝせて寸時の安息もあたへなかつた、夜！夜に於てのみ信夫は蝙蝠の瞳の様に光との調和を見出すことが出來た。

行つて見ると未だおかへりにはなりませんがおまち下さいましと女中が布團など用意する。上らないまゝで店先の燒物などを見まわした。石山さんが物好に始めた樂燒が今ではいろ〳〵な人達にうつつて行つて一月に一度の釜開きにはその人達でこの家が一杯になりますと女中が云ふ。黃金蟲に靑い花などあしらつた石山さんの杯も出る、椿などの一輪に藝名を書き入れた細君の湯呑なども出る。洋書家のIさんのは源氏の紫の上だと云ふ可憐な花の散り際の燒きつけられたものもあつた。けたゝましくかけ出して來るKさんのあとから石山さんそのあとから丈の高い細君も長いマントを引いて立つ豐下地の顏もうき出した。

「まあおまちどうだつたわね、さあ早く上りましよう、姐や、何か御馳走があるかい」

マントを脫いで女中に渡す細君の手はもう信夫の手をとつて居た。言葉と言葉との交渉より早くお互の心はもう結びあつて居た。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

こゝが時には舞臺にもなり教場にもなるのですよと云つて通された二階の八疊は天井の低い窓の少い夏などは蒸し出され相な部屋であつた。凝つた茶棚と小さな床との間には小形な爐が切られて、そこには炭火が赤い炎をあげて居た。小さな能の面や時代物の文箱やら人形やらがゴタ〱と飾られてあつた。

間もなくその爐に蛤鍋がかけられて四人の手が思ひ〱に喰物をあさつた。今度その團體から初めて出る様になつて居た女優も歸つて來た。その白い顔が淺黄の疋田の半襟につゝまれたすべつこい陶器の様に美しく映えて小さい眼は露草の莟の様に澄み切つた耀をもつて居た。石山さんは熟み切つた無花果の様に粘のつよい彈力をもつ乳のあたりをなでたり、ヴアン、アイクの天女の様にしなやかに長い足をほめたりして、新しい舞臺上の女王にするのだと云つて居た。名匠が無疵の大理石をなでゝよろこぶ時の歡喜も想像された。

とりとめもない話は四人の女と一人の男との間にもつれ合つた。濃い色の天鵞絨の洋服のしつくりと似合つた石山さんは昔を思い出す夜だと云つて美しい男の聲で得意であつた藤村の詩など朗讀した。大理石の彫物の様に冷いながらのび〱とした美しさをもつた妻君との昔語もしたい様な氣

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

持がうごいて來たらしかつた。昔あつた樣に今も夫を戀して居る女の妻君も親しみのある詩を聞いてなつかしい淚さへもたゝえて聞き惚れて居た、若い女優も「いゝことね」をくりかへして居た。

近いうちに興行する樣になつてた芝居の話やら雜誌の噂やらKさんは夏までには詩集を出すとも話し出した。「Kさん、詩集はよろしいね、是非さうおしなさい」

とさう云つた石山さんはつく〲と自分をふりかへつて見て、詩に志した頃のことなど思ひ起す樣子であつた。自分がやりたかつたものは興行師ではなかつた、化粧品屋ではなかつた、藝術であつたと思はれた。いつかは〲と考へつゝ一日々々とくれて行つて未だ藝術上のどの一步も占めて居ない自分の現在が悲しまれた。幼いながらも書くもの丶度に兎や角と批評をされるKさんの所有して居るものもうらやまれた。

「Kさんの驥尾に附して僕もこれで再生するのだ」

二人して詩集を出すことの約束が出來た時石山さんは天に登る人の樣に勇んで居た。長い間すてゝ居た筆のよどみなどは書かう〲と云ふ思にとけて消え去るもの丶樣に思つて居るらしかつた。信夫がやらうと云ふ商賣のこともいろ〲と話し出された。

「そりや敎員なんかよりは暢氣でよろしいよ、やつてごらん」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

石山さんは可成元氣でさう云ひ切つた。

「資本が五千もあればわけはないんだがね、資本が小さいとうまく行かないから、僕達でも小さいながらこれでも收支をうまくやれるまでは苦しい目にも逢つたんだからね」

仕入れのむつかしさや雇人の選擇や位置のよしあしなど商賣のこともこまかく話してくれた。

「まあ第一の要件はあかずに長くやることだね、女の人は一寸何でも熱心にやるが直に倦いて投り出すから仕方がないんだ、いよ〳〵やるならウンと考をするゐてやるんですね、えゝ、出來る丈の盡力はいたしますよ」

などゝ云つてくれた。

すつぽりとマントをかぶつた細君が女中をつれて電報打に行つてくれたのは赤電車が通つてから可成たつてからであつた。その夜は二人はそこにとまることにしたのであつた。

その後店を讓り度と云ふこころがあるから一度見ないかと云ふ葉書が來たので又銀座の方に出かけて石山さんと見に行つたことなどあつた。可成な通りで今迄は文房具など商ふた店であつた。

「あゝ、これなら少し手を入れゝば誂らへ向な家ですがね、きめませんか」

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

など云つて石山さんは忙しなく獨で棚や戸棚のつけ工合など考へて見てくれたりした。信夫は玩具店を出したがつた。

「自分が欲しい玩具ばかり集めて賣るより眺めて暮らしたいと云ふのではないか」

さう云つて石山さんは笑つた。信夫自身にも矢張りそんな氣がした。玩具より寧一軒の家そのものが既に信夫には大きな玩具の一の様にも考へられた。

信夫の書齋にでもなり相な小ぢんまりした二階のある陰氣なうちだつた。卅位な病身らしい內儀さんが茶など入れてくれた。

でもそれも遂に決定する迄にはゆかなかつた。少し具體的のことを考へて見ねばならなくなるともう信夫には面倒でこらえ切れなかつた。一の獨立した家を負ふてその主人としての凡の仕事や權威を豫期して一杯なよろこびは感じたけれ共、それは信夫にはやはりぞつこん魂を打ちこんでして見たい一生の事業とは思へなかつた。さうやつて方便にとる仕事に精力を吸はれて終つて自分の前に横はつてる大きな軌道をはなれて行つて終ふことがおそれられた。目の前の石山さんは不幸にもその例證をなして居た。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

でも復雜になつた周圍からは復雜な多くの事件が起つて來て沈思の時間も思をひそめて讀書する暇も與へなかつた。實を落す前の栗のとげの樣に神經のみが、イラ〳〵と鋭くなつて、統一のない意志は新しい理論や新しい經驗の前によりどころなくぐらついた。水に溺れて居るものに流の力ははかられぬ、信夫は今住んで居る、又今からも住んで行かうと考へて居る東京を放れて東京を考へて見たかつた、その東京に繋つて居る藝術も人生も宗教もそして自分も自分自身からつき放して顧みたかつた。

長い間思ひ出しもせぬ故鄕の有樣などが思ひ浮べられた。南の國々では春から夏にかけて濃い碧色の海が大きな波もたてずにひた〳〵と岸を洗ひ、岸に近く山櫻や山梨の白い花が綠の濃い林を色どる、太陽は朝に赤々と登つては夕には西に妊み女の苦痛の樣な血潮のあとを長く引いて沈み行く。朱欒と山楊の林の陰にさまよふ七十の老いた母の面影など頻に思はれた。巢立ちさした親鳥の物あはれな淋しさとはかなさを母は幾年忍んで來たゞらう。

「歸りましよう、そして又暫時はご一所に住みましようね」

と母に書くまで和らげられた云ひ知れぬなつかしさを覺へたりするのであつた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

卒業式にうたふ歌が出來上つた。毎朝十時頃になるとある大使館の椎の大木が道に大きな陰を造るそこの靜かな坂を上る人々はポーン〱となるピアノにつれて眠さうなヂッグザッグな調子の歌を聞されて苦笑して通つた。

ピアノの前ではその歌の彈けるTさんが得意の聲でソプスノを出して頻に調子を合はせ様と苦勞して居た。

「校長が一寸逢ひ度と云つて居られます」

勿體ぶつた事務の江田さんが今アートを出して見様と一生懸命に咽喉を苦しめて居る信夫の前に立つた、すぐに行つて下さいと云ふ。

「何でしようね」

信夫はさう云つて立ち上りながら皆の方をふりかへつた時には、前の日にあつた筈の敎員會議のことを思ひ出して居た。と、その瞬間蠟の樣に固い沈默の中に何かの豫期に秋風に逢つた蛾の群の樣に一樣にふるえて居る友達のほのぐらい瞳を見ると信夫は直に自分一人にかゝはつた或る秘密がよめて來た。小鳥の樣におづ〱とした人達の間に居て嵐を起すことが何となく氣の毒にも思へて來た

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

がそれと共に何方をどうと云ふ見分もたゝずに只ぢ一つと傍觀仕樣と云ふその人達の弱々しい態度を憎しむ思もわいて來て、强者の虐げの心が猛然と起つて來た。

校長室をのぞいて見ても校長の影もなかつた。——先生はどこですと大聲で尋ねて廻つて居る信夫を敎育をもつて居る人が應接室によび込んだ。

「どう〳〵ばれて終つた。校長はあんな團體に入つて居るものを卒業生として出すことは出來ないと云ふ」

「結構です、もう卒業試驗はすみましたし、私には卒業したも同樣ですから」

「馬鹿を云つちやいけない、斷然退社おしさい、そして校長は暫時あなたを東京より外におきたいと云つて、Hの高等女學校にやりたがつて居る。早くから申込があつたのだけれど行く人がなくつて困つて居たとかで是非Hに行つてもらつて眞面目に世間並にはたらいて見せてもらい度と云つて居る、どうです暫時行つて來ませんか」

「Hに！」

「なにYさんは北海道にさえ行くのだからHは未だ近い、行つて暫時辛抱しておいでなさい、どの點から云つてもあなたには不利益なことはない」

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

「いやでございます、今の場合私まで退社するとは云へません」
「なぜです、Aさんだつても社員の位置を危くする樣なとりかへしのつかない行爲は一再ならず仕たんだから全然責任がないとも云へますまい、それにあなたが社員になつたのは只作物を發表したい丈の動機で、思想を同じくするとか立場が同一だとか云ふ根底の深い交渉があつたわけでも有りますまい、それにあの社としてはもう今では藝術上の立場を云々するよりその前に婦人問題研究の爲の機關の樣な臭味を帶びて來ましたからその點に於て藝術に立つて行かうと云ふあなたを結びつける力は貧弱なものです、義理がわるいとかすまぬとか云ふことは枝葉ですよ、あなたはようく自分の立場を考へて見ねばいけない」
さう云ふ教師の言葉は又肯綮にあたる事が多かつた。そこに出入する樣になつてから半年にもなり、Aさんにもよく逢ふことは有つたが未だ一度も社の立場とかお互の抱いて居る考をつゝくり合ふ樣な機會は故意にか又は意識なくしてかお互が避けて居る樣に思へた。時折原稿の用とかその他の遊び事の用の折手紙書く樣な折にはお互がよくわすれぬものゝ樣に
「一度ゆつくりと逢つていろ〳〵なことを話して見度い」と書いて居た。
そしてお互にその機會を覗ふ樣な風をしながらそれを又外づしても居た。何かからそんな話にな

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

つて來ても二人が眞面目になつて話す折などはなかつた、信夫は直に何か安價なしやれを見付けてはその腰に鳧をつけて終ふ癖があつた。

そして外でやかましく云はれて居る當面の婦人問題などに對しても細目にわたつて一所に考へて見たことなどはなかつた。

「お互にゑらくなりましようね、しつかりやらなくては、男の人達は勉强して居ない樣でほんとうはすばらしくして居るのですからね」

など丶大まかな概念的なことばかり云ひ合ふ丈で、よんだもの丶ことについても仕事のことに就いても批評しあつたり相談する樣なことは勿論なく、各自の事を別々にやつて行つた。

信夫はそんなことに就ても考へねばならなかつた。そしてそれを又自分にしつかりした人生觀の出來て居ない證據と見て、自分が何等の共鳴も交涉も有せぬその社に連つて居ることに少しの權威もないことをその頃は薄々は知つて來た頃でもあつた。

「それではうちにかへりましよう、校長は私が東京にさへ居なきや安心するでしようから、私も近頃さう仕樣かと考へて居たところですし、仕事さえもつて行つたら一年と二年は居られないことも有りますまいから」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とすぐに返事が出來たのであつた。

ある情と情との爭から信夫は校長に對して少しの信頼も少しの尊敬も持つては居なかつた。そして何時も學校内の凡の人から遠くに放れて立つて直にせまつて居た卒業をまつて居た、今自分が立つて行かうとして居る巣は旅立つた後でかへり見てなつかしく涙にしみて見かへる處ではなかつた、自分の命と魂を包んで保護する暖かな羽毛の代に信夫はそこでは餘りに冷い嘲笑と疎外とを感じて來て居たのであつた。その保護者の手の自分にばかりは敵のそれの樣に冷淡であつたことは考へてもくうらめしかつた、さうした手に、さうした人に卒業後の生活法について兎角した依賴心は持たなかつた。

「歸つてどうします」

「あそびます、うちにゆくのですから、そして何か書けたらそれをもつて出て來ます」

「又そんなことを云ふ、以前どんな待遇をしたからと云つて今やると云つたら行けばいゝではないか、女は直にそんな小さな感情に支配されてしまふから仕樣がない、以前のことはどうであつたか知らないが校長は今は大變あなたの將來に對して危懼をいだいて居る樣ですよ」

その例證として昨日の教員會議で信夫が××の社員と云ふことがわかつてから、それに欠席した

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

その人の留守宅に電報が來たり二度も三度も江田さんがやつて來たりそしてその朝初めて逢つた時の校長の狼狽した樣子などを細々と話した。聞いて居るうちに高ぶつた感情が一ツ〳〵葡萄の實の樣なうるみをもつて來て、いた〳〵しいまでに謙遜な心持になつて校長に對して錐の樣に鋭どく〳〵して居た憤が和いだあはれみとなつて行つた。

「ではよふございます、あんな人にくだらぬことで氣をもませますのはすみませんから、私がHに行けば一先は安心なさるでしようから參りましよう、いろんな御心配をかけました」

ポロ〳〵と涙がおちた。健全なみどりにつゝまれて一樣に生へ後れもなく枯れ葉もなく生へ出た苗床の中から、雜草の樣につまみ出される自分が悲しいのではない、さうした力のない助のないものが何時かは歸つて來て牝雞とそのはがいの下の雛とを脅かす時が來る、と考へてその力と運命とを感じ知つたよろこびがそれであつた。

午後には又その人に校長室に呼ばれて行つた。僅に嵐のおさまつた校長の顏には未だ興奮し切つた感情のきらめきが明らかに讀まれるのであつた。

「Hに行つて下さるんですて、學校ではほんとうに有難いのですよ、何しろ今度がはじめての土地で

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

すから責任は重いのですよ、あなたの成績がよければ又あとがずうつとこゝに來ることになるのですからね」

度胸をすえてしつかりと目の前にあるものをそのまゝの姿に見て居る態度の信夫の前では小心な校長はついにそのことに就ては一言も云へなかつた、弱い者の前にはたげる尊大な風はあともなく性來の正直なあはれみの心が顏にも調子にもあらはれて來た。

「Hあたりは寒いんですからね、あなた身體はたつしやですか」

「有難う厶います、御見掛の樣にからだ丈は申分ございません」

「あゝさう、何よりですね、でも冬になつたら決して無理をしない樣にせねばいけませんよ、よく防寒の用意などして行く方がようござんすよ」

流石にホロリとなつて來た。三年はこの人の下にいぢめられもし、憎まれもし世話もやかれもして來た。一度かうして巣立して行けば、もうこんな感情のもつれのあとでは平靜な心と心とで逢ふことはあるまい。

その夜食事のあとで信夫の同級の西田さんは校長に呼ばれて一所に庭をさまよふた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

五日ばかりの月が朧に地をてらしてところ〴〵の木立の蔭が一ッ〳〵に妖魔を秘めてるかの様に西田さんはブル〳〵とふるえた樣に感じた。今咲かうと云ふ櫻の枝にうごめく小止みない春の力のいそしみが聞かれるほどおだやかな重苦しい空氣のみちた夜であつた。

校長は未だ晝間の袴のまゝで芝の上を歩く度に長い裾が地にはえた。うすものゝ黑い布を頭にかついで厚い毛糸のショールをかけて居た。持病の喘息が興奮された餘波を止めて西田さんがおそれをいだいたまで猛獸の息まいた時の樣なせわしない呼吸をさせて居た。

ツト立ち止つてた校長の兩眼から涙がハラ〳〵と落ちた。

「宇野がHにゆくことを聞いてくれましたよ。無條件で直に…………」

「まあ、ほんとうでムいますか先生」

正直な西田さんは校長の涙を見て惡いものを見た樣に少なからず狼狽した。

「直に承知してくれました、Hにゆくつて、…………わたしや今日はもうその返事を聞いたので一昨日からの苦勞をわすれました。これで私が世の中に對しても申譯があると云ふものです。あなたも同級の一人が立派な行に立ちかへるのをおよろこびなさいよね、宇野は決してあの社の人達の樣に急激な思想は抱いては居りません、今迄だつて平和な思想をもつて居たのです、宇野に才能があ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

るからあの社の人達が引つぱつて居るのです、どんなことが有つても私共は宇野を渡してはなりません、その爲には私はどこまでもあの社の人達と爭います、ほんとうに惜しいのです」

「ほんとに私共も宇野さんには同級生と云ふより何か姉さんでゝもあるかの樣に考へて居りましたのに昨日あんなお話を聞いて私は殘念なことゝ思つて居りました。私も心から嬉しゆう厶います」

さう云つた時に私も眞かららうれし涙が出ましたよと正直な西田さんが話して居た。

「縣立の女學校に一年でも立派につとめてかへればそれからは又どんなはたらきをしたからつて世間では眞面目な人として聞いてくれますからね、今宇野はクライシスに立つて居るのです。ほんとにあぶないのです」

とも校長は云つてましたとも云つた。

さしせまつた旅立の仕度に氣をいらだゝせながら、信夫はだまつてこんなことも聞いて居た。そしてだまつて一人で涙を流して居た。こんな風な情と理性とのせり合にまけてどれ丈の人が立場をなくして行つたゞらう、でも私はつよくなければならぬ、一人になつたと云つて立ち止つては居られない、右にあるか左にあるか自分の道を求めて一人でもいゝつきつめた所まで行かうと、さう考へるのは云ひ知れぬ慰でもあつた。

石山さんの芝居はだん〳〵ものになつて行つた。新聞には毎日よく小さなたよりがどれかにはのつて居た。材料は中世紀のクラシックもの丶譯で、それについてはこの國に未だなかつた大仕掛な背景で、そのかゝりは洋畫家の某氏、舞臺監督は某氏と噂された。「おもちやの興行師」と稱して居る石山さんは「藝より上手な興行師」と評判されながらいつこくな熱心で新橋に近いその稽古場でまつしぐらに稽古をはげんで居た。

二日目に信夫が友達と行つた時には、殆ど一の空席ものこつては居ぬと事務員が云つたほどな大入であつた。

石山さんは新橋のうちの二階や銀座のカフエなどで見かけた時とはすつかり違つて、藝術味のゆたかな表情になつた美しい唇から、未だよくは角のとれない樣な臺詞を眞面目に述べ立てゝ居た。美しい女優は莊嚴な風致に富んだそして異國情緒をそゝる背景の間々に新しい希望で一ぱいになつておどりまはつた。

信夫達の席は二階の南側にあつた。ツーッと一通り見廻した時に舞臺のすぐ前ほど近い處に花ちやんの顏が見へて、そして直にその側にAさんの持前のローマの後姿も目に入つた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

舞臺では石山さんと女優が何か苦しいよろこびを語り合つてる頃信夫は席を出た。なめらかな廊下を音も立てずに上る様にして行つてAさん達の席の出口のあたりをブラ〳〵としてその幕が閉ぢて十分の休憩に出て來る人達を一人も見逃すまいとした。

電氣がパッとつくと吐き出されたもの丶樣にドク〳〵と出て來る人の波の間からAさんの顔丈が浮いた様に目についた。目敏く見付けて近寄つて來た。社の人達が「叔母さん〳〵」とよんで尊敬して居る林さんもその日の芝居に出る赤いマントの頬鬚の不氣味な惡魔の器用な指先から押し出された樣に何時の間にか一所だつた。

「どつかに行つて話しましようか」

さう云つたものがどこに行つても見物は目白押しになつて居て四人の人が落付いて耳と口とをよせる所はなかつた。

その休憩時間が終ふ頃ヤッと二階から三階に通ふ階段の途中の窓際を二三人の男連を追拂ふて分捕した。

「大變なことになつたつて。もう皆きゝました」

Aさんが口をきつた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「ほんとうにお氣の毒な、私達は申譯が有りません」

「えゝ、どうせこんな時は早くから來る筈だつたのですからかまいませんが、今になつてこんなことになるのは馬鹿々々しいのです、あれをお出しになる時に一寸斷つて下さればいゝのに」

それはその頃Aさんが書いた小さなものに就いてゞあつた。そのうちに信夫について云つたことが方々の新聞にチラ／＼見えて、信夫は知らぬ處で知らぬ自分の影を見せられた。そしてそれが渡り／＼つて敎員の耳に入つて校長にまで行つたのは明らかであつた。

それについて信夫はAさんに逢つたらその責任を問ふ考で居た。でも逢つてみれば人の好い信夫には何にも云へないのみか今度××社が起す自由講座みたいなものに迫害の手が加はつてどうゝ成立が出來なさ相なことなど聞かされた時に、以前はその相談にものつて居てAさんがその經營を信夫にと云つた時に今の困難を知つて斷つた賢い自分の態度が卑怯に考へられて來て、今度その事業の爲に近在のある所に數年營んだ仕事を抛つて出て來て居た何事にも本氣な林さんに眞から氣の毒がつた。

「叔母さんはお氣の毒な」

など心からくりかへし／＼云つて居た。

「兎も角私はＨに行つて來ることは自分の爲にも大變有益なことゝ思いますから行きます、そして社の方も退社いたします、わるく思はないで下さいまし」

と云ひ切つた時に信夫はことごくのことから斷はつたり斷はられたりして遂にはなれ行く自分自身があはれまれもした。

「あゝいやになつた、雜誌の方を宇野さんに頼んでおいて一年ばかりも印度あたりを廻つて來ましよか」

と云ふＡさんをつなぎとめるにはしつかりとした錨ともなるべきその事業と生活が有つた、今度のことの樣なことがあつたと云つてないからと云つて信夫にはおもりとなつてつなぎとめる事業も生活もどこにも東京にはなかつた。かすかにもかゝつて居た流のよどみを又新たに逐はれて、押し流されて行く水草の樣な自身の又よるところはどこも押しはかることも出來なかつた、はてしもない盲目な未來が凡の望も悲も秘してオチ／＼と歩く一歩々々をかきつゞけきつゞけゆくとよりは思はれなかつた。

卒業生のうちで勤めに出る人達はもう大凡きまつて居た。大阪に山口に金澤に茨城に遠い人は北

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

海道あたり迄もゆくことになつて居た。

そのうちには一日から始まる學校もあつて、卒業式がすんだ翌朝立つと云ふ人も有つた。少くも二年三年、多い人達は四年五年といふ年月を夏休みの二ケ月より、それも亦九月には、又新しい健康と新しい經驗とをもつて逢ふ希望をもつてわかれるより顏を見合はないことのない人の世の道連が、今一旦わかれゝば皆が一人もゝれなく逢ふことはない。命あれば一人々々には或は又相逢ふことも有らう、然し逢ひは逢つてもお互に違つた境遇に異つた趣味のうちに沒して終つて今までの樣に同じ話題に同じ事柄に笑ふことも出來まい。同情は冷かなものにならう、挨拶は社交的なものにならう、そして各自が新しい人々との交渉に忙しくて、お互に注意を拂はぬ樣になる時が來るであらう。

「心細いわね、忘れずにお手紙丈は書いて下さいな」

日を追ふて毎日〳〵送別會に敎師やその他の關係者からよばれて行つた時など餘興の合間に應接間の陰や庭園のベンチに親しい同志が集つて、くりかへして駄目を押して居た。廣間に若々しいよろこびに一杯になつて並べた顏を一人謀反者の陰險をつゝんで眺めた時に、信夫にも女並のやさしさが動いて來た。慕ふて慕ふて來るのを嫌ひに嫌つて近附もしなかつたMさんまでが不愍になつて、手をとつて、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「ほんとにあなたには意地がわるかつたわね、御免なさいよ」

と云つてやり度い、そしてこの一人々々にどうかして陷れる樣な深切をしてやり度い、そんなことを考へつゞけて一晩は目がさえて一睡もしなかつた夜もあつた。そして事實は親しい人々を除いては遂に一度もたづねても見なかつたが

「ほんとうに手紙あげるわ」

と云つたその時は眞實さう思つて居たからで、皆なみに皆の人の處書を手帳にかいてもらつたり、自分も赴任する女學校の氣付で署名して渡したりした。

卒業式の日は時間より二時間位も前に宅を出た。ツト通りかゝりの電車に飛びのると以前世話になつたことのある譯の敎師がのり合せて居た。會釋をすると何時になく立上つてそしておめでたうを云つてくれた。そして今日はあなた方が正客だから大切にして上げると笑つて無理に席を讓つてくれた。

もう今日で「一人」になるのか、これからはこんな人達とも師弟の交渉でなく人間と人間との交渉が初まるのか、これから自分の思想を思想とし自分の仕事を仕事とする時が來るのか。小さなことが

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新しく整はされた砂の上に殘された足跡の樣に鮮にのこる日であつた。

その夜は卒業生の爲に送別のヂンナーがあつて兼ては物暗く道ゆく人を脅かすそこの建物の暗い窓からも明るい光が流れて若い華やかな笑聲が盛に響いた。

櫻や山吹や青い鉢物に彩られた部屋は六十燭の電氣の下に赤く祝賀の氣持をいだいてほゝ笑んだ。中央には肥つた校長が黒紋付の羽織の襟を正して控へて、その左右をその二三日前に歸朝した、今は米國における事業家の夫人となつてる妹と、學校の創立に預つて眞實の意味に女子教育の先導となつたM氏が席について居た。今日の卒業生がそれ〳〵の處に散つてその間々を教員や古い卒業生の美しい紋付の姿が狹んで白い服の給仕達はバネ仕掛の人形の樣な格好で皿を運んで居た。

信夫の席は左側の一番端になつてその側には無口でヂーッと一とところばかり目をやつて、只モグ〳〵と喰べてばかり居る舊教員が居た。その向側には事務員が一人座つて、右の隣とその向ふは信夫には親しみのうすい舊い卒業生の席で、信夫に親しいBもTもずうつと遠くの方に据へられて信夫の同級生をもてなして居た。隣の卒業生の一人は陽氣に、如何にも世慣れた調子で、事務員と何くれと避暑地の話や政黨の話をよろこんで居た。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

その一團の話がフッとそのうちの正客である信夫の赴任地のことになると、卒業生達や敎師は何にも知らすHの遠いことや寒地の困難やを話し出した。

「よくまあ思い切つてね、外にもつと近い處はなかつたの、江田さん」こその卒業生が事務員に問ひかけた時に江田はチラと信夫の顏を見てクヅ〳〵と云ひ消して終つた。信夫は眞直に江田のドギマギする顏を見まもつた。「この人も影で私の運命を司らふとして居たのかも知れない」と惜しみの思が自然と顏に表はれたのを見てとつた、世なれた卒業生は直に又新しい話題を見付けて信夫に話しかけた。

東京から遠くはない處から二口位申込があつて、誰も行く人がないことを信夫はよく知つて居た。

來賓演說が初まつてその二人が二人共に「新しい女」について樣々な解釋をつけて、自分達の意見を面白可笑しく語り出して頻に眞率なる——そのうちの一人がそんな形容詞を使つた——敎育を謳歌した。信夫は眞正面に顏を振りむけてそれらの演說に耳を傾けた。その方は校長を始め同級生の大多數の顏が正面になつて居る方角で、チラ〳〵と信夫の顏に瞳がうごくのが信夫には明らかに感じられた。

でも僻面をぬいでの今は却つて心安かつた。憶した色もなく第三者となつた樣な安心した氣持で

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

公平な耳をかたむけて居た。

「よくあんなに平氣であなたは聞かれたわね、私その點丈でもあなたの眞率が信じられます、その時つたらあなたの眼には一點の疑念もない安心して眞直に物を見樣とする光が溢れて居たのですもの」

あとで親しい一人がそんなに云つて居た。

傷けられた獸の淋しみと悲しみとを一杯に息つきつゝも信夫は又その後に亞いで來ねばならぬ復讐の時を思つては血をわかして居た。遂には打ちかつ時が來る、弱い者が力を得る時が來る、そして強い者が強くない時が來る、さう思へばその一時の辱はとるに足らぬ樣なものに思へて、校長が新卒業生の爲に乾盃した時にも凡の物にかたねばならぬ自分自身の爲にそのまづい飮物の底をかたむけた。

夜は暗かつた。二三の友達と手をとりかはして後、凡の出來事の感慨を胸に押へてだまつて停留場まで歩いて來た。明日の旅立や明日のうちにも自分の眼前に展開し始める東北の殘雪をもつた山々の背景に浮き出る自分の舞臺を思つて心をおごろした。そこでは雪も見樣、人も見樣、そして自分自

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

身もふりかへつて見樣、そして自分の生涯の序幕ともなつたこの半年がそこの自分にどんなに映るか、そこでは落ちついた氣分でそんなことも考へて見られるゝことを心のうちで打ちよろこびながら、飯田橋で電車をすてゝ、江戸川べりを歩いてかへつて行つた。(終り)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

春の歌

尾竹ふくみ

春の夜によき下駄かひぬ黒塗りの緒は麻の葉
の紅模様かな

梅のはな咲きて匂へばなつかしや浪華の町の
琴ひきし家

大阪や惠方參りのほえ籠の彩のいろいろ美し
くみゆ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

新(にひ)装ふわかむらさきの春小袖うらうらとこそ
身も匂はしき

春の夜を足病みぬれば部屋のうち錦繪なども
つくづくとみる

ほのぼのと江戸の明かりの薄らさすこの錦繪
のさてなつかしき

むらさきの昔の江戸のなつかしや今しみじみ
と錦繪みれば

歌麿の人形づかひはしなのよきをなごの太夫
ふり袖をきる

歌麿のをなご姿のなまめかしをなごながらに
ほれぼれと見る

匂はしき江戸錦繪のいろあはせ昔の夢のうす
明かりさす

紫の衣きて白きやさまみゑ歌麿ゑがくをなご
はよろし

繪姿のあまりよろしきしなぶりにうつつとも
なく思ひそめにし

病みぬればうぐひす啼くも花ちるも春雨ふる
も心かなしき

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

春の雨しづかに降れば部屋のうちこの紅梅の
香もまさるかな

春なれば病みてねる身のうらがなし花も散り
こよ淡雪もふれ

指まげて茗荷生薑とよせて見つさびしや今日
もまた暮れてゆく

春の夜にうす雪ふればかなしかり心ほそぼそ
文などをかく

小夜ふけて白雪つもる小夜更けてしらゆきつ
もる春さむきかな

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

春なればうす雪ふれよ花散れよわれ病みてありあまりかなしき

やうやうにわづらひ癒えて町ゆけばうらうらうれし春日匂うも

やはらかに光はもえぬ春立てば薄むらさきに空も匂ひて

ほの白き夢のやうなるゆきやなぎこのちいさなる花のうれしき

春立てば小雀きて啼く柿の木にホッホロと啼く木は芽生えけり

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

かぎろひのよき春日ゆゑ梅の花うらうら匂ふ
長閑なるかな

紅梅の花こぼるれば春の雨うぐひすうれしう
つくしくなく

黒髪にうす紅梅の花さしぬ春の夜なれば淡雪
つもれ

双六やをなごばかしの遊ごとそのさゞめきに
梅も散るかな

妹に七つの寶石のはなしする春の淺夜の山吹
の花

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

もも色のこごめ櫻のしほらしきさかりの家に春雨の降る

しほらしう小雨にぬるるももいろの小米櫻はしなのよきかな

桃色のこごめざくらの花瓣に春の小雨のうるはしく降る

小米櫻うすもも色の花びらに白絹糸か春雨の降る

ほのかにも緋桃の花のさきぬれば西京の春しのばるるかな

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

美しき西京の人夢に見んくれなゐの桃みつつねむれば

ふくよかに美しき桃さきぬればそのくれなゐに西京のみゆ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

美術に就ての雜感

武者小路實篤

美術品は愛される時に價値が生づる。愛されない美術品は少くも愛しない人にとつては無價値である。

すぐれたる美術品は深く人に愛される素質をもつてゐる。無限に愛される素質を持つてゐる。その素質をもつてゐない美術品はすぐれたる美術品ではない。

眞の美術品はあきられるものではない、益々愛されるものである。味はひ盡されないいゝ處をもつ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

てゐるものである。

淺薄な美術品も人から愛されることがある、しかし一時的である、すぐあきられる。味はひつくされる。

すぐれた美術品の價値はすぐわからなくとも味はふに從つてわかつてくる。さうして益々味が出てくる。だから時間がたつに從つて眞の美術品の價値はまし、虛僞の美術品は價値を失なつてくる。

我々は最もよき美術品を理解する爲には愛しうる美術品を何處までも愛しぬくがいゝ、つまらぬ美術品は必ずあきがくる、さうして眞の美術を益々愛してくる。愛しないではゐられなくなる。微妙な味がわかるに從つて眞の美術の價値は益々わかり、虛僞の美術の虛僞さが益々わかつてくる。直覺的にわかつてくる。ごまかしはきかなくなる。

○

眞の美術品と虛僞の美術品との差はその出來上る時にすでにちがつてゐる。一方には眞實さがあり、安定があり。必然さがある。他はごまかしで、冒險で、まぐれあたりである。

眞の美術品は藝術家の最も充實した氣分の時に出來る、水ももらさない充實さがあり、あぶない處がない、粗雜な處がない、有機的で、個性がしみ出てゐる。さうして云ふまでもなく自由でいぢけてゐ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ない、行く處に行き、とまる所にとまつてゐる。

虚僞の美術品は藝術家の用心のいゝことを語つてゐやうとも、思はせぶりで、あぶなつかしくつて、粗雜で、いぢけて、よせあつめで、混合的で、全體を統一する味がない。不隨筋の處が多くつて、いゝ處があつてもまぐれあたりの感じを與へ、リズムが粗雜で、概念的だ。よし一心になつてつくつたのにしろ、その一心は表面的で單なる興奮であぶなつかしい。

虚僞な藝術の駄目なことは云ふまでもないことである。よし程度の低い賞翫者の目を迷はして、その愛を得やうとも、一時的の愛か、淺薄な愛きり得ない。

自分は虚僞な美術に就て之以上一言もしやうとは思はない。自分は眞の美術品の價値を見たい。

○

眞の美術品ならば、皆相當の價値をもつてゐる。しかし眞の美術品にも大小はある。賞翫者から受ける愛の高下がある。

自分はそれに就て一言したい。

眞の美術品から吾人の受ける感じは大別して二つある。

感能からくるのと、直接に精神にくるのと、この別ちかたは幼稚な別ち方であらうが、一番わかり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

やすいやうに自分は思ふ。

前者は主として吾人の感能を喜ばす。後者は吾人の心を喜ばす。前者は肉眼で見た美であり、後者は心眼で見た美である、

前者は色彩、線の調和からくる美であり、後者は意志の美である。

眞の美術は元より兩者の美をもつてゐる。前者は花或は葉であつて、後者は根である。

花や葉は根を暗示してゐる、さうして根から生じてゐる。自分は今この根に就て云ひたい、自分のやうな人間は葉や花について語るとまちがひが起る。根について語れば自づと葉や花についても語つてゐる人間に屬してゐる。

○

根が淺いものに深い實は結ばない、少くも藝術の世界では、優秀な根にのみ優秀な實は結ぶ。

藝術の世界程露骨な世界はないのである、作者の作品をつくる時の精神内容が露骨に顯はれてくる、貧弱な精神内容ならば貧弱な作品切り出來ない、豐富な精神内容ならば豐富な作品が出來る。

眞に自己の道を見出した、さうして自己表現に忠實な作家は自己のもつてゐるものだけは作品に注ぎ込むことが出來る。しかし持つてゐないものは注ぎ込むことが出來ない。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

ミケルアンゼロでなければミケルアンゼロの藝術は出來ない。いくら大きい畫をかいてもミケルアンゼロの畫から受けるやうな感じは受けられない。ミケルアンゼロならば「一本の手」をかいたペン畫でも、ミケルアンゼロでなければかけない精神内容をはつきり表現することが出來る。

上品な人間でなければ上品な作品は出來ない。偉大な人間でなければ偉大な作品は出來ない。内にないものは外に顯はれない。烟がある處に火がある處ではない、炎がある處に火があるのである。さうしてその炎によつて火の價値がわかるのである。

だからいくら眞の藝術であつても、根が比較的に淺いものは比較的淺い愛きり受けることが出來ない。可憐なものは可憐な愛きり受け入れられない。眞劍な氣持で愛される作品は眞劍な作品でなければならない。

レンブラントの作品などの受ける愛は正面的で根本的で嚴肅なのはレンブラントが作品をつくる時の氣持が正面的で根本的で嚴肅だつたからである。

作者が作品をつくる時、空虛な氣持でつくつておきながら見る人に充實した氣分で見てくれと云つても無理である。作者が作品をつくつた時の注意の注ぎ方は、露骨に見るものには感じられるのである。つまらぬ作品をつまらぬ人が愛するのは直接に受ける感じでなく、つまらぬ苦心に對する同感

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

である。藝術品にとつては苦心の有無は直接法の感じを高めるか否かによつてのみきまるので、直接法の感じをけがし、或はひくめる苦心をするものは藝術家ではなく、小細工家である。

藝術家と自稱してゐるもの丶内に時々、まるで自分で自分のしてゐる仕事を理解せず、かうやつておけばどうにか見てくれるだらうと思つてゐる人がある、さうして犬もあるけば棒にあたる風に賞讃にぶつかるまで迷ひ兼ねない人がある、さう云ふ人は藝術家ではない。

自己の藝術は自己が一番知つてゐなければならない。さもなければ自分の藝術の完成する處おちつく處を自ら知らないわけになる、それでは迷つてゐるのと同じことである。自分の表現するものがぴつたり表現されるまで迷うならばいゝ、表現するものがないので迷つてゐるのでは仕方がない。さう云ふ人は技巧許りが全體の心算になりがちだ。内から發する光がなくとも、外さへ美しければいゝと思つてゐる。しかし時間は外の美を破壞する。さうして内に光のないものは無價値のものにしてしまう。

今の日本の藝術の缺點はたしかに内からくる光りの缺乏だ。自己の表現したいと云ふものが内から必然的にあふれないことだ。神社をつくれば神は自と内に入つてくれるだらうと思つて滿足してゐることだ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

表現したいものが内からあふれて來て始めて外界のものとびつたりした交渉が出來、それが藝術になるのだ。内からあふれないものは外界とびつたりした交渉をするわけにはゆかない、本氣になつてぶつかる對象がないから、向ふによしあつても、こつちが影だからぶつかりやうがないのである。かゝる人の生む藝術は無内容の寫實主義か、無内容の印象主義である、さもなければ外界の形式の單なるよせあつめである。

自己の個性が滲み出ない摸倣的藝術がなにゝなる。藝術のそんなに安價なものでないことは云ふまでもないことである。

○

眞の藝術家は何時の時代でもさう澤山はゐない。さうして眞に藝術のわかる人もさう澤山はゐない。だから虛僞の藝術家が、藝術家として世間的に立派に存在が出來る。しかし虛僞の藝術はある程度以上の愛を受けることは出來ない。

美しいはづの道具がそろつてゐさえすれば滿足の出來る程度の人の氣輕な愛きり受け入れられない。さう云ふ藝術はモデルや材料の美の恩澤によつて生存してゐるのだ。しかし見る人が見るとさう云ふ似而非藝術からは不快切り感じられない、はがゆさ切り感じられない。あぶなつかしい氣がして

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

見てゐられない。かう云ふ藝術に限つて生命がない、有機的な處のないものには生命がない。

藝術の大事なことは見る人の心を自己の力によつて統一させ、調和させ、自己のリズムによつておどらせることだ。見る人のもつてゐる雜念に勝つ力がなければならない。或はその雜念を炎にする力がなければならない。されば小鳥の歌のやうな藝術は大藝術たることは出來ない、大藝術は人間の本能を恐れてはいけない、それを燃やし、或は淨化する力がなければならない、さうして大きな調和の内にその人をまき込まなければならない。その力は技巧からだけでは生れない、精神の力によらなければならない。眞の藝術家の作品にはその力がある。

○

その調和に深い美がある、力があり、味がある。吾人は藝術を愛するのはその調和を愛するのだ。さうして自己の心を淸く美しく力あるものにするのだ。

すべて世の中にあるものは吾人の心を浪費させやうとし、吾人の神經を亂さうとする。藝術はさうではない、藝術は吾人に力を與へる、深い喜びを與へる。だから吾人は藝術を愛するのである、愛さないではゐられないのである。藝術家は社會の騷音をも自己の内に入れる力をもつことがある、しかし自己の調和を亂し切りにするものを自己の作品の内には入れない。藝術品にとつては調和が第一だ。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

その調和の高く深く大きくさうして微妙であることを要求する、その上に自由であることを要求する。

大都市には公園が必要である以上に文明人には藝術が必要である。藝術はかざり物ではない、吾人の心に愛と調和を生む力を與へる爲に、いや高きものに對する憧憬の力を生む爲に存在するのだ。藝術は精神的要求の强い人にはなくてならないものだ。さう云ふ人は藝術によつて知己を得、孤獨の內に深い力を得るのだ。

文明の先頭には藝術家が、美と調和と愛とを生んでゐるのだ。眞の藝術家が、或人々から見ると不當のやうに人々の愛を得てゐるのはそれだけの價値があるからである。

愛される資格をもつてゐるものが愛されるのは當然である。

○

政治家は現在の人民の爲に存在するならば藝術家は現在未來の人類の爲に存在してゐると云へる。藝術家はわき出づる泉だ。人々の心の內に出たがつて出られないものは藝術家によつて外へあふれ出ることが出來る。かくて人々は藝術家の內に知己を認め、氣丈夫を感じる。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

藝術家の仕事は孤獨だ、しかし根は人類、自然に根ざしてゐる。深き調和は、人類や、自然に根ざしてゐなければ得られない、さうしてさう云ふ調和でなければ吾人の心に深い調和をよび覺さない。

自分の藝術家については云ふことは餘りに理想的かも知れない。しかし藝術家の目標は其處でなければならない。

少くも自分はさう思ふ。

遠き望みをおかないものは近かく安心する。

自分は日本人のものを簡單に見、あまりに早く思ひ切り、あまりに早く思ひ込むことを惜むものでゐる。

岩にかみついてもゆく處まではゆくことを自分はくり返し、くり返し勸めたい人間である。殊に大なる使命をもつ仕事をするものが早く安心し、早く思ひ切るのは見苦しいものである。

自然派以後の人々は藝術を輕蔑しすぎた、しかし再び藝術の玉座にすわるべき時は近づいて來た。この時に眞の藝術家が生れなければいづれの時に生れやう。

自分はそれを確く信じてゐる。（二月十二日）

○

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

古い安價な遊戯的調和は崩されても、高い深い大きい調和は崩されない。何處までたつても崩されない。

ある人々は藝術家を社會の道具にしやうとしてゐる。哲人を群集の奴隷にしやうとするやうなものだ。

藝術家の使命は文明によつて破壞されない美の調和の世界をつくることだ。今の人々には稍々もすると藝術を安價なものとして扱かはうとしてゐる。さうして非藝術的なものを藝術家に要求してゐる。今のせつぱつまつた日本には眞の藝術は不要かも知れない。しかし吾人は現在の日本に不要でもかまわない、眞の藝術を要求する。自己のリズムを何處までも微妙に、何處までも自由に、何處までも深く、有機的になりひゞかす藝術家を要求する。現在の社會に交渉のあるないと云ふことは眞の藝術家に向つては要求する必要のないことだ。

自分は眞劍な本氣な、眞正面な、藝術家が一生を捧げた藝術品を要求するものである。

美術の神の嫉妬深い神だと云ふことは昔に於ても未來に於ても否定することの出來ない事實だと思ふ。(二月十四日)

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

春のすゑ

小林哥津

人名
孝三郎
お房
おきく
吉二

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

おくみ
お雪
由造
五郎
おしづ

舞臺の上手より正面は、お雪の家――煙草屋の店さきの模樣。かざり窓なんかのない舊式な、二間半くらゐの小さな間口の家。店の眞中に煙草など入れる大きなガラス戸棚が置いてある。その戸棚の前に水のやうに青くすんだ瓦斯が灯いてゐる。

舞臺の下手はづれには黑い庫の横が見えてゐる。煙草屋と庫との間は、細い露路になつてゐる。露路の口には「淸元延喜久」と草書でかいた外燈や、「女かみゆい」の看板やらが下がつてゐる。――

煙草屋の店さきには、五郎とおしづが向ひあつておはじきなどしてゐる。ガラス戸棚のわきで吉二は講談本によみふけつてゐる。

夕暮の六時の鐘が長い餘韻などひいてはうつてゐる。――晝間のうち曇つてゐたせいか、まだ六時といふ時間の割に外はすつかり暗くなつてあかりの色がさえざえと夜になつてゐる。

――なまぬるい南風が頰から首すぢにもつれつくやうに、柔かく、こまかく、そよぐ晩春の宵。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

五郎。（陽氣な聲の十二三の子）あらつ、しいちやんはづるいね、さわつたぢやないかいま。

おしづ。（五郎と同じ年くらいの娘）まあ隨分よ嘘ばつかし。

五郎。（笑いながら）嘘ぢやないよ、ちやんと見てゐたんだもの――

おしづ。よくつてよ、五郎ちやんは負けそうになるとあんなこと云つて胡麻かすのよ。

五郎。自分こさ、負けそうになるとづるをするね。

おしづ。いゝわぢやもう一遍して見ませうよ。

五郎。いゝよ〳〵。また負けると可愛相だから。――もうよさうよ。

五郎はふつと吉二の方をふりむいて見る。

五郎。――吉ちやん夢中だね。

吉二（十五六）は本から目をはなして五郎と顔を見合す。

吉二。（無言微笑）

おしづは一人おはじきを片附けてゐる。

五郎。今度は何の本よんでるの。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

吉二。「うわばみお由」つての。腕にうはばみの刺青のある女が、自分の御亭主のかたき打つのさ――
よんでごらんよ。

五郎。ああ、あいたら借しと呉れね。

吉二。うん。(間)

この間に鐘がなりやんで了ふ。

おしづ。今うつてたのはいく時?

五郎。六時だらう。

吉二。(本をよみながら)ああ六時だよ。

おしづ。あたし勘定してたんだけどわからなくなつちまつたの。

五郎。すて鐘三つで、後時をうつんだからね。――随分長いや。

おしづ。六時ならもう歸らなきや。――またあした遊びませうね。

吉二。歸いんの。みんなで緣日へ行つて見ないの。

おしづ。あたしお湯へ行かないと叱られるから――あしたまた來るわ。

五郎。なるたけお出でよね。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

おしづ。あゝ。――ぢやさよなら。

吉二。

五郎。　さよなら。

おしづは上手の方へ退場。

おしづの下駄の音がまだ消えて了はないうちに、露路からおくみが出てくる。煙草屋の前でたちどまる。

五郎。あゝくみちやんが來た。

おくみ。（どこか半玉じみた風をしてゐる。十二。）吉ちやん。

吉二。どこへ行くの。

おくみ。皆なで御縁日へ行つて見ないこと。――今夜通りの不動様よ。

五郎。知つてるとも、そんな事。とうの昔から、知つてるよ。

おくみ。いやな五郎ちやん。――何んでもいゝから行きませうよ。

吉二。（微笑）この人はね今おしいちやんが歸つちやつたので少しお天氣が惡いんだよ。

おくみ。へーエ。そりやどうも失禮。

五郎。――馬鹿云つてら。噓だよくみちやん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

おくみ。ちやんとあたしも知つてますよ。ね、吉ちやんにきゝましたよ。

五郎。何をさ。――云つてごらんこゝで。

おくみ。まあいゝわ。それよか早く行きませうよ。しいちやんもさそつて。

吉二。しいちやんはお湯へ行くんだつて。――だからだめだらう。

五郎。ああ、だめだらうね。

おくみ。ぢや三人で。

吉二。まだ少し早いよ。商人(あきんど)が出やしないだらう。

おくみ。さうかしら。あたしね、(氣をくばるやうに聲を低くする) 公園地の方へも行つて見たいの。

五郎。(つりこまれたやうに低い聲で) 公園地――なにしに。

吉二。――立見をしようつてんだよ。

五郎。そりあいゝね。

おくみ。だから行きませうつての。

吉二。ぢやね二人で外へそろ〳〵出てゝお呉れな。あたいは今お母さんに斷つてくるから。

五郎。あゝ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

吉二は奥へ入つて行く
五郎とおくみは外へ出て立つてゐる。

五郎。今度はいつまで宿つてるの。

おくみ。もう明日は歸らないといけないの。だから、今夜は思ひきり面白いことをして遊びたいと思ふの。そいだのに御飯がおそいんだもの。いやになつちまつたの。

五郎。隨分やかましいんだね。たつた一晩かとまつちやいけないなんて。

おくみ。――だつてしかたがないわ。まあ奉公なんですもの。

吉二が店から下りてくる。

おくみ。行つてもいゝつて。

吉二。うん――さ行こう。

三人は露路の中へ入つて行く。
少したつてから煙草屋の奥からは、お雪(吉二の母、四十前後)が煙管をもつて出てくる。
店さきまで歩いてきて、のれんの下からちよいと空工合を見て「ふつてくるかしら」と小聲でつぶやく。
そしてさつき吉二の座つてゐたところへ座る。そこに開いたまゝに置いてある講談本をふつととり上げて拾ひよみをはじめる。

(少し長い間)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

やがて下手の露路の方で話聲がする。

お雪は、ちよつとそつちを注意する。露路からは孝三郎とお房がつれだつて出てくる。

お房。（素人にしては少し粋すぎるくらいのつくり。洗髪を櫛まきにしてゐる。二十五、）そら、云はないこつちやないわ。落ちてきたやうよ。

孝三郎。（お房とおない年くらいに見える。インバネスをきてゐる。――商人體）ほんとだ。

お房。そこに待つてらしやい、ちよいとあたし傘をとつて來るから。

孝三郎。（うなづく）

お房は露路の中にとつて返す。格子の鈴の音がする。

「おやまあ、降つてきたかい。」と云ふ年増の女の聲がする。

蛇の目をさして、もう一本の傘をもつたお房がもどつてくる、

お房。お待遠うさま。さあ出かけませう。

孝三郎。（傘をさつてさしながら）こいつは明日もむづかしいな、空が眞暗だぜ。

お房。何に、――たしだ大家のお移轉つてんぢやあるまいし、ろくそつぽ荷物はないんだもの、――たいがいならやつちまいたいね。

二人は土手の方へ歩いて行く。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

お房は煙草屋の前で、ちよつと首を下げて挨拶をする。

お房。それにねこの頃は晩になるとよくふつて、朝は何の氣もないつてなお天氣が多いんですよ。だから明日だつて大丈夫でせうよ。

孝三郎。おそろしく都合のいゝ天氣だな。

お房。えゝ、そんなのを、お大名日和つていふんですつて。

孝三郎。（顔を見合して笑ふ）

お房。

笑い聲がうき〳〵とひろがつて行く――二人は上手へ入つて了ふ。

お雪は二人の後をぢいと見送つてゐる。早足に歩いてくる日和下駄の音がする。――おきく登場。傘もなんにもさしてゐない。煙草屋の店へ入る。

おきく。（三十くらい、みがきのかゝつた顔立ち）御免なさい――無性して傘もさゝないんですよ。

お雪。入らしやいまし。困るお天氣でまことに困りきります。

おきく。いやに蒸々していやですね、――すみませんが「白梅」の四十匁を一つ下さいな。

お雪。かしこまりました。――まあおかけなさいまし。

お雪は手をのばして戸棚から煙草を出して渡す。おきくは帯の間からお金を出してお雪の前に置く。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

おきく。はゞかり様。――(腰をかける)
お雪。(煙草を吸いつけながら)――さき程はお房さんふるのにお出かけでございましたね。
おきく、ええ、何ですかあの人も明日は移轉をいたしますんで、その買物やら何やらで出ましたんでございますよ。
お雪。へーエお移轉で、――今度はどちらの方へゐらつしやるんでございます。
おきく。根岸なんでございます。――いつまでも家の二階ずまひもかへつてあの娘の氣苦勞だと思ひましてね、まあ少しは變つた家もいゝだらうと存じましてね、まあ云ふまゝにして置くんでございますよ。
お雪。――たしたお房さんがこちらへおかへりなつたのは寒さのとりつき頃でございましたね。
おきく。そうでございますよ。あれからもう足かけ五月にもなるんでございますけど、やつぱり、あの娘の身もいまだに、はつきりしたきまりはつかないまゝなんでございます。――そりあ、もうあの娘だつて、向うへもどらうといふ氣もないでせうとは思いますけど――それでも、ついつい、私はじめよもやにひかされて、ゐるんでござんすけど、まあ、生れたち不幸に生れてきたんでございませうよ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

お雪。向ふ様だつてそうぢやございませんか、お母さんが何とお仰つたつて、かんじんのお連合ひのお氣に入つたもんなら、仕方がないぢやございませんか。——とまああたくしなんか、そう思ふんでございますが、世間はどうも色々でございますねえ。

おきく。いゝえもう、お房だつてあの通り、育ちが育ちでございますもの、大家の御家風に合はないのは知れきつてゐることでございますよ。それでもまああゝやつて御縁があつて行きましたからには、やつぱり、あゝして返して下さると、ついつい恨みも出るんでございますねえ。——でもまあ元々こつちが、こつちだと思へば何のことはないんですけど——ついつい女は愚痴になりますね。

お雪。とんだことをお仰います。——それでも、お房さんなんかまあ〳〵お幸の方でございますよ。あんな風になつてゐらしつても、御連合は元のやうにたよりになるお方だし、——さう申しちや何でございますけど、お母さんだつてそう〳〵は先きの長い方ぢやないんでございますもの、御辛棒ももうちつとでございませうよ。

おきく。大きな聲では申されませんけど、段々様子をきゝますと、向ふには向ふでもうちやんと後になほつた女があるんだそうでございますよ。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

お雪。へーエ。まあ、さようでございますか。

おきく。それは孝さんは、かくしてゐるんでございますけど、どうも、あすこの店の者なんかの口ぶりではそうらしいんでございます。それでもまあね、妾でもなんでも、餘計な苦勞がなくつて、連添ふ人さへ賴りなら、私なんざ、まあい丶と思つて居りますのさ。

お雪。そいでお房さんは無論ご存じのないことなんでございませうね。

おきく。さあいかゞですか。――考へて見れば、むこうの今度の女といふのも氣の毒なもんでございますね。いくらお母さんのお氣に入りでも、三日にあけず、連あいが家をあけるのも隨分辛い、悲しいこつてござんせうね。――世の中は、だれ一人不平のない、苦勞のないものはないんでございますね。(淋しい笑ひ)

お雪。ほんとにね。(微笑)

おきく。まあ、とんだ長しやべりをいたしました。(間)そりあそうと、おくみはこちらへ出ませんでしたか。

お雪。おくみちやんですか。先刻程家の吉や何かと、公園地の方へゐらしやつたやうでございますよ。

おきく。そうでございますか、(獨言らしく)傘がなくつて困つてゐませうね。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

お雪。おくみちやん、めつきり、お奇麗になりました事。――ほんとに見ちがへるやうになんなさいましたね。

おきく。何でござんすか。――あんなところへ遣つてございますんだつて、お恥しいことでございますよ。――今朝も、家へまゐります途中で學校のお友達とかに逢つたんでございますつて。そしてきまりが惡かつたんでお屋敷へ行つてゐるんだつて、あの娘が申したんださうでございますよ。とそのお友達の方が、唐人髷に結つてゐるお屋敷つてありやしないわつて、笑つたとか申しましてね、あの娘が口惜しがるんでございます。でそりあお前の方が嘘なんか云ふだけ惡いつて叱つては置きましたけど、私しや、何だか、ふびんになりましてね、他所さんのお子さんが羨ましいなんと思ふんでございますよ。

お雪。ほんとにね。お大抵ぢやございません。

おきく。私達なんか、兩親（ふたおや）に早く別れるつてことが、もうそも〳〵の不幸福（ふしあはせ）なんでございますねえ。

お雪。（氣の毒らしい面持）全くねえ。

土手の方から番傘をさした由造（職人體）が出てくる。――ふつと煙草屋の中のおきくに目をつける。

由造。お師匠さんぢやありませんか。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

おきく。えゝ。どなた——おや由さんだよ。

由造。——今夜お休みなんですか。

おきく。なにね、今ちよいと煙草をいたゞきに來て又腰がすわつちやつたのさ。——どら行きませう。（お雪に）どうもお邪魔いたしました。あなたもどうぞちつと入らつしやいまし。

お雪。おやおかへりですか。ぢや又お話にお出で下さいまし。さよなら。

おきく。さよなら。——ごめんなさいましよ。

おきくは由造の傘に入つて露路の中へ退場。

お雪は何か思い出したやうに奥へ入つて行く。

沈默——雨の音がはつきりきこえる。——

少しするとおきくの家の方で、割に低い、だけど、すんだ音をたてゝ、三味線の調子を合してゐるのがきこえてくる。——

（幕）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

幸福な町

ダブリユ・ビ・イエツ

幾多の強い百姓の
心も二つに破れるだらう、
私の馬を進めゆく
町を見せでもしやうならば。
年が年中木の枝は
實をつけ花が咲いてゐる、
赤いビールと鳶いろの

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ビイルの川が流れます、
金銀の森のなかでは
バッグパイプを吹く爺、
氷のやうに青い眼の
女王は群れて舞ひおどる。

小さい狐の言ふことに、
「世界の末とは何ごとぢや。」
日はめでたげにほくそ笑み
月は私の手綱を引く。
それに小さな赤狐、
「それその手綱は引くまいぞ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

奴の行かうといふ町が
それが世界の末ぢや哩」

一同心が高ぶつて
大言壮言が初まると、
一同重い刀をば
金銀の木木の枝からとりおろす。
だがその戦で死ぬものは
皆ふたたび生きかへる。
こんな話が人間の仲間に
知れてゐないのはよい幸といふものだ。
と言ふのは、強い百姓が

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

鋤はそこらへ置いたまま
心は誰かが飲み干した
コップのやうにならうから。

小さな狐の言ふことに、
「世界の末とは何ごとぢや。」
日はめでたげにほくそ笑み
月は私の手綱を引く。
それに小さな赤狐、
「それその手綱は引くまいぞ
奴の行かうといふ町が
それが世界の末ぢや哩。」

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

マイケル[2]は頭の上の木の枝から
自分の喇叭をとりおろし、
夕餉の用意ができたぞと
小さな音を吹きならす。
ゲブリエル[3]は魚の尾をつまんで
川から歸り、人間の
歩く濕つぽい路ばたで
ひよくり起つた摩訶不思議を聞かせる、
それから銀で細工した
古びたホーン[4]をとり上げて
飲むわ、眠こんでしまふまで

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

星の降るやうな川岸に。

小さな狐の言ふことに
「世界の末とは何ごとぢや。」
日はめでたげにほくそ笑み
月は私の手綱を引く、
それに小さな赤狐、
「それその手綱は引くまいぞ、
奴が行かうといふ町が
それが世界の末ぢや哩。」

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

譯者註

1 主にスコツト・ランドにある樂器。口に笛を備へたる空氣の嚢あり、その嚢を抱へてこれを吹くと云ふ。

2 農民のありふれたる名なり「杢兵衛」と云はんがごときか。

3 同上。蓋し「太郎作」なり。

4 角の形をなせる盃。

あまりに長く戀をするな

戀びとよ、あまりに長く戀をすな。
私は長く長く戀した、
さて流行おくれになりはてた
ちようど古びた小唄のやうに。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

二人(ふたり)のわかい日のあいだは
どれがどちらのこころやら
まるで區別(くべつ)もつかなんだ、
二人(ふたり)はそれほど同(おな)じかつた。

だが、束(つか)の間(ま)に女(をんな)は變(かわ)つた——
ああ、あまりに長く戀(こひ)をすな、
流行(はやり)おくれにならうぞや
ちようど古(ふる)びた小唄(こうた)のやうに。

W. B. YEATS の詩集 'IN THE SEVEN WOODS' より　なつき譯

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

さふらんの香

小笠原貞

一

美しい碧い沖がチラ〳〵と松林や小山の蔭から見え始めてから間もなく汽車はA停車場についた――。

其停車場は文子の想像して居た通り小さな田舎風の淋しいステーションであつた。黒い服を着た人影が二ツ三ツ動いて居る許で文子が窓から半身をあらはして外を眺めると十間許先に母親と嫂の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

花子とが小さく固つてしきりに前に並んだ列車から文子の出て來るのを探して居るのが直ぐ目に入つた。

文子は直ぐ聲を立てゝ母に自分を知らせ樣かとも思つたが重い體をむされる樣な暑苦しい車内に長い事ゆられて來たので大きな聲を立てる力さへ無くなつたのであつた。で近間に立つて居た赤帽を手招ぎして呼ぶと荷物や膝掛等を下して貰つた。そして自分は億劫そうに洋傘にすがる樣にして車から出るのだつた。

汽車の内は東京を出る時からずつと空いて居てでつぷりと肥つた商人風の男と藝者らしい若い女と眉を落した女將風の年增との一組が乘つて居る許であつた。始めの内はキャッ〳〵とふざけて居る樣だつたがそれも疲れて終つたかしていつともなく止した。時々都々逸などを鼻聲で唄つたりするのが時々聞える許であつた。文子は黃色く少し濁をおびた午後の日が窓にかつた綠色のカーテンに照つて居るのを體を後によりかけたまゝうつら〳〵と見つめながら車に搖られて居るのだつた。

車の進むにつれて東京の地を離れて行く……今迄自分の身のまわりに動いて居た人影や色々な物音やめまぐるしい樣な街並の色彩や長い間文子の心や目にしみ込んで居た。そうした都會の濃い陰

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

影が次第にうすれて行つて文子の頭の中はいつともなしに窓から見える雜木林や青々した田畑や明るい日光を一杯に浴びた赤土山などで一杯に滿されて終つた。もう何を考へる事も思ふ事も出來ない樣なひどい氣だるさと疲とにおそはれて終つて汗ばんだ重い頭がヅキ／＼痛むのを窓際によりかけたまゝ車のきしむ音を半夢心地で聞いて居るのであつた。

車外に出るとヒヤ／＼した濱風は靜かにプラットホームを流れて居て熱つた文子の頰を心地よくなでゝ行つた。じつとりと汗ばんだ文子の體は急に冷たい空氣にふれて思はずゾク／＼と寒氣さへ感じられた。幾度かよろけそうになる足元に氣をくばりながら母の居る方に歩いて行くと目さとく此方を振りむいた嫂は

「あらあちらに入らつしやいますわ」

文子を見ると直ぐ人なつこい笑を浮べながら花子は飛んで來た。

「まあお變りなく……ほんとにお出でになるのをお待ちして居りましたわ」

こう云つてニッコリしたが若かい嫂は何よりも先づめづらしそうに文子の體の樣子を眺めるのだつた。

「エヽ少し心配でしたけど……でも何でもなくて」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文子は何氣ない風をしてこう云つたが何處に行つても若かい女同士の好奇心の的となるのが耐らなく厭はしかつた。長い間別れて居た母親とかうした體になつて、顔を見合すと云ふ事も自我の念の强よい文子には誰れを恨む事も出來ない様な苦しい口惜しさが胸を押してくるのであつた。

「よく一人で來られたね、私は高橋も一所に來るのだらうと思つてたのよ……でもまア障りがなくつて好かつた事」

こう云つた母の顔色には豫期して居た様な暗い陰は無かつた。心から安心した様に云つて少しやつれた娘の顔色をしほ〴〵した目でじつと眺めるのだつた。母は少し日に燒けて小肥がした様にさへ思はれた。

「今來がけに病院によつておき〻して來たがね車よりも電車の方が好いそうだからね、そうしませうね……あのちよいと此荷物を宅までと〻けて下さいな」

母親は赤帽に云ひつけると

「おまへ荷物を忘れたりしない様によくしらべておやんなさい、此所の赤帽は宅迄と〻けて吳れるのよ、尤も山の役人でなければしては吳れないけれど」

母親は一寸自慢らしく娘に云ふのだつた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

文子は兄が母と花子とをつれて此所に住む樣になつてからは始めて歸つて來たのであつた。ステーションの前には軒先に少し許貝細工や葡萄や水蜜桃だのを並べたり棚にビールやサイダーなどをゴタ〳〵にのせた掛茶屋が五六軒並んで居る。

「おまへ少し休まなくつちやア歩けないだらうね、彼の茶屋で少し休んで行かうか」

三人が其前を通る時母親はこんな事を云つた。

「イヽエ大丈夫……其よりか私海が見たいの濱は遠んですの」

「ナーニ此家の直ぐ裏よ、だつておまへくたびれないのかい」

「イヽエ……私今見て行きませんと山に行けばもう久しく見られませんもの」

二

茶屋のわきに通じた細い道を少しゆくともう其所には濱風に曲りくねつた松林が一帶に眺められた。其間から郡丈色の海面が布をはつた樣に見渡された。白い帆が夕日をうけてオレンジ色にチカ〳〵と光つて居るのが幾つも青い水上に光つて浮んで居る。

「文子さんあれ海が見えませう」

花子は子供らしく聲をたてヽ文子の肩に手を掛けた。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

「私ね此方に參りました許には海がめづらしくつて毎日〳〵海に許行つて居りましたのよ。だつて家に居りますともう東京が戀しくつて耐りませんかつたの、おかア樣も始終文ちやんはどうしたらうつてお噂してましたわ。

隨分淋しい處でせう……でも山に參りますとね、山の方許の家だけでも此所の町よりはごつさり御座いますのよ」

文子は鑛山の麓に有る此A町のあまりに靜で淋しいのが不思議の樣であつた。

軒下を流れる小川の水の色にも路端の小石などにも鑛山らしい特種の氣分が表れて居るだらうと想像して來たのだつたが他の田舍の村と違つた處もなく平和な靜かな思の流れて居る樣なのが意外の樣にも思はれた。でも兎も角此靜かな山の中に暫らくくづれかゝつて居る樣な體を休めるには適當して居る樣で心うれしく思はれた。長い間の苦悶と懷疑とに始終苛立つて居た神經はもう何をする力さへ失はれて居るのだつた。

文子は久しぶりで母や嫂とこうして並んで歩いて居るうちにも自然と此人等のやさしい心から温かな蔭を自分の體に投げかけて呉れる樣にも覺えてくるのだつた。

まばらな松林をぬけるともう其邊は白いキラ〳〵した小石の混じつた砂地になつて居る。だら

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

〱と渚に通ふ小路を下りてゆくと中途に大きな松の古木があつて其下に小さな掛茶屋があつた。
「まア好い氣色ね！　まア海が一と目に見えますね」文子は思はずこう叫んで其美しい海の姿に見とれるのだつた。
「さア文ちやん此所にお腰かけなさい、もう風が寒いから水ぎわに行つても面白くないしね……こゝで少し休んだら家に行こうね」
母親はこう云つて茶屋に入つた。そして、中に居た老婆と心安げに口をきいたりした。
「御母さんと花ちやんとはねいつもこゝでお辨當を食べるの」
こんな事も云つた。
文子は海一面に夕日を受けてチカ〱と光つて居るのをまばゆそうに目を細めてじつと眺めて居た。ザヾー、ザヾーとよせては渚に碎ける水音が一層あたりを靜寂に思はせた。
もう夏も過ぎた今は廣い砂地には人影さへなかつた。默々とした松林が長く水をめぐつて黑い岩があちこちに少し許見えて居る。
「お母樣潮が大そうさして居りますのね」
と花子は驚いた樣に云つた。洋傘を臺に頬杖をしてじつと海を見下して居ると文子はもう此まゝい

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つ迄も立つ事も動く事も出來ない樣な强い疲れが足の先からしびれる樣におそひ上つて來るのだつた。そして自分の魂を遠い〳〵處にもつて行かれて終ふ樣な寒い心持がしてくるのであつた。

今朝別れて來た良人の姿もゝう一年も前に別れた程遠く淡く想ひ出されてくるのだつた。

久しい間離れて居た自分の周圍の親しい人々の姿もくすんだ色になつて心に浮んで來るのであつた。

こうしてじつとして居ると冷たい濱風は熱をもつた病んだ心に快くしみてくる樣に感じられたそして暫くの間は母や嫂とこうして並んで居る事すら忘れて色々な物思に落ちて行つた。此平和な空氣の中に小鳥の樣な安逸な月日を送つて居る母や嫂などには想も及ばぬ苦しい……然かし眞面目な立派な生甲斐のある生活を營んで居る自分の友達の姿などがなつかしく思ひ浮べられた。そしてそうした中に混じつて自分の昨日迄の苦しい姿が種々な心持を誘つて思ひ出さるのだつた。

世間的なうるさい交渉からこつそりと此身をかくして終つて此先の自分一人の生活……自身の身の内に起つた變化によつて樣々な今迄知る事の出來なかつた感情や神經が日に〳〵此體の中に呼び覺されてゆく……其をしつかりと見つめて考へて行かねばならぬ只一人の生活を思ふとさすがに淋しい果かない氣持もしてくるのであつた。

三

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

A町から電車で小一里許上つて行くとそこには大きな工場が幾つとなく建てられてある、そして其谷の間には働く人々の部落が出來てあつた。山と山とにはさまれた浮世離れのした樣な此部落は反つて驚く許の進んだ化學的な生活が營まれて居るのであつた。都會を離れて都會的生活が行はれて居るのも一種の氣分が表はれて居る樣に思はれた。

其夜は母の取計で病院から醫者と產婆を呼んだりした。然し文子の體は別狀もなかつた、文子は急に昨日に變る靜かな空疎な生活に入つたのをめづらしく思はれて親しんだ。

文子が歸つて來てからは母親の心には新しい光がさし込んで來た樣に思はれるのだつた。早くより夫に別れ二人の子供はもう成長して終つた母の心には久しい間盲目的な愛にかわいて居るのであつた。

幼い子を產む爲に一人の娘は今我家に歸つて來た……かう思ふだけでも母の心はかすかなほこりを感じるのだつた。

どんな事の上にも自我を通さねば聞かない樣な强情な娘は成長するにつれて母との感情はさけ合はなくなつて行つた。殊に彼の女の一身上の事についても母の心はひどくきづゝけられ虐げられたのだつた。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

文子が今の夫と同棲すると云ふ事も母には不滿であつた。世間的な華々しい席でもつて母の手づから新しい夫の手に渡したかつた。

美しい振袖姿を多くの人等の前で誇りたいとも樂しんで居たのであつた。

然し弱い母は我手より離れてゆく娘をどうする事も出來なかつた……其娘は再び自分の手に戻つて來たのだ、さう思ふと母の心は賑かく温かに感じるのだつた。

文子は母に色々な事を强いられた。食物なども今迄の樣な若かい同士が好きなものを取る樣なわけには行かなかつた。母は知れる限りの迷信や因襲をもつて文子の體について干渉した。

だが文子の心はさうした肉體的な事については目をとぢておとなしく從がつて居た。

文子はもう後からおひまくられて休む時もない樣な苦しい都會生活にすつかりつかれて終つてどこでも好いから安易な休息が欲しかつた。幾年振かで靜かな山家に入つた事もうれしかつた。

山には夏の末から秋にかけて毎日すんだ天候がつゞいた。明るい朗かな日光は茅やすゝき許の山の中腹に一日其光をなげかけた。コバルトの空には山の陰から立ち上る白い煙がゆるく東の方に流れて居た。

山の人々の住む此所も至つて靜かで平和で悲慘な暗黑な出來事なども少しも耳には入らなかつた。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

文子は毎日重い體を運んで裏庭の谷川ふちに出ては日光浴をした。其處からは皆同じ樣に建てられた幾百と云ふ社宅の屋根々々が黄色く階段になつて長く谷川にそつて眺められた　淡白く濁つた谷水はかすかな硫黄の香がするのだつた。急に自分の周圍の凡てを取りのぞかれた文子の注意は自然と自分自身を眺めるより外はないのだつた。

毎日〳〵ブラ〳〵と牡猫が日向を逐つてくらす樣に温かな日光を浴びながら空漠な靜かな眠に落ちた樣な月日を過ごして居るのであつた。さうして居る間にも文子の體の中には一日〳〵新しい生の營みがはつきりと意識されて行つた。

「文ちやん、おまへ運動に外に出るにしてもね通りの方へは決して行つてはいけませんよこんな所だから片輪者なんかゞたくさん居るんですからね」

母親はこんな事を云つた。

「おまへね、いやだと思つた事なんかは決してしなくても好いのですよ……おまへの體はかまはないがお胎の子にさはると其こそ取り返しがつきませんよ……おまへなんかは不幸ものだからどうでもいゝけれど……」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

かう云つて母親は嫁と娘とを前において戯談らしく笑つたりした。

母の心はもう新しく生れるものについての準備でもつて忙しかつた。張りさける樣な幼兒の泣聲を想ふと胸がゝすかにおどる樣であつた。赤い小さな着物が幾つか出來るのを眺めると自然と悅びの笑がこみ上げて來るのであつた。其子は必ず自分を愛し慕つてくれるに違ひがないと信じて居るのだつた。

「ね、おかあ樣もし女の赤ちやんでしたらどんなお名をおつけになりまして……」

「さうさね、成るたけやさしい可愛いゝ名がいゝね」

「私、早やくだつこして見たくて每日樂しみですわ」

若かい嫂と母親とは睦じさうによくこんな事を語り合つて居た。文子はそんな事を他事の樣な心地で聞いて居るのだつた。

胎兒の發育につれて文子の體は日に〳〵强よい苦痛を感じて行つた。そして體中の神經はしびれる樣にゝぶくなつて頭は始終重い布をかぶせられた樣にぼんやりして居た。思想なども自分ながら驚く許不統一になつて何を考へる力も無くなつて行つた。

四

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

十月の末のもう肌寒い或る日文子はいつもの樣に庭に籐椅子を下して其に深々と腰を下して朝の日のふりそゝぐ樣な中にじつと浸つて居た。もう此頃では醫者も其期の近づいた事を知らして行つた。ひどい疲勞と倦怠との爲に感情はとげの樣に苛立つて居た。

文子は膝の上に重ねた兩手がすつかり油氣がぬけて老婆の樣に色艶の失はれたのを見ると自分ながらいた〳〵しく思はれるのだつた。もう再び元の樣な若々しさを取り返すことは出來ないのだとも思はれた。

かく迄も青春の美しさも水々しい色艶も凡てが胎兒の爲に亡されてゆくのかと思ふと文子は胎兒を呪はずには居られなかつた。

庭の片側につくられた花壇には秋菊が盛に咲き亂れて居た。冷たい朝の風がゆるく流れる度に强よい香は文子の身邊にたゞよつて來る。弱々しくたゞれた今の文子の神經には其刺戟の强い植物性の香がたへられなかつた。かるい嘔吐と目まいさへ感じて來るのだつた。

今迄死と云ふ樣な事については漠然とした恐怖を感じる許で未だ文子自身の行末に死が見えて居る事などはさう切實に感じた事は無かつた。が人間が此世に生を得ると云ふ事については非常に其無意味で馬鹿々々しいと云ふ事を知つた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

文子は自分の體の變化を知つてからも母親らしい感情でもつてやがて生るべき子供に對して考へた事は一度も無かつた。一つの生命が肉體を得て此世に生れると云ふ事が始めて霧がうすれて行く様に文子の頭の中にぼんやりと少しづゝ解つてくる様に思はれるのであつた。

さうした經過の中には男は少しもかゝわる事の出來ぬものであると思つた。我子に對して味ふべき色々な感情の凡ては女の世界にのみ限られるものだとも思つた。

彼の女は良人への手紙の中にも決して胎兒については書く事を欲しなかつた。

文子はゝげしい苦痛の來るのを不安と恐怖とをもつて待つて居た。

がとう／＼其時が來た――

五

雲が流れる様に幾日かゞ過ぎて行つた――

朝起きると手洗水の上にうすい氷がはつたり庭の落葉の影にうつすりと霜がおいたりする様になつた。東京の様なはげしい風はおそつては來なかつたがこゝの山にも冬は來た。

文子は幾日ぶりかで明るい日が山の頂からすべる様に一面にさした庭に下りて見た。

香の高い白い花の菊はもうすつかりちつて終つて濃い綠の葉は赤く固くしなびて、塀のぐるりに

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

並んだ櫻の木にはもう一葉もついては居なかつた。
少しの間にすつかりうら枯れた庭の樣子を眺めながら文子は今更の樣に暗らい巢の中に熱苦しい夜も晝も解らない樣な日を幾日か過ごして來たのを惡夢のあとをたどる樣な心地で振り返つて見るのだつた。
紫色に濕氣をふくんだ地の冷さがかすかに草履のうらから文子の足にしみて來るのを感じると久し振りで此大地を踏むだ悅びがそゝられる樣に總身に覺えて來た。
日光のみなぎつて居る碧の空の色にも黃色の山の色にもなつかしい瞳を投げるのだつた。
幾日ぶりかで始めて此の世の風にふれた樣にも思はれるのだつた。
文子はそつと左の手でもつて袖をまくつて右の腕を出して見た。
すつかり血の色のなくなつた石蠟の樣な皮膚の色をじつと眺めるとわけもなく淋しい氣持がして來て自分ながら弱々した腕をいぢらしそうにそつとなでゝ見たりした。
「文子さん、文子さん」
櫻の木によりかゝつてじつとあても無く見つめて居ると後の障子が開く音がして花子の聲が聞えて來た。文子が振り返ると。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「チョラ！　ばアー……ね、そらあすこにおかあ様が入らつちやるのよ……」
花子は笑ひながらかう云つて遠くから幼兒をつきつけた。
幼兒は赤い布で幾枚かに包まれて其中からわづかに赤い人間らしくもない小さな顔を出して抱かれて居るのだつた。
未だ視力の無い瞳はまたゝきもせずにじつと濁つた色を見せて居る。
文子は遠くからじつと我子の顔を眺めながらたさへ様のない苦しい氣持が胸をふさげて來るのだつた……凡てが現實に迫つて來て居る……文子は強くかう感じるのだつた。
幼兒の泣聲は痛い程胸にしみ入る様に思はれた。
「おゝ、おゝ、可愛ちやんはこゝに居たのかい」
かう云ひながら母親は奥から出て來た。
「さア〳〵寒いから奥に入つて、入つて……ねおまへちやんに風邪でも引かれたら其こそ大變でちゆよ」
こう云ひながら母はうれしそうに目を細めて赤子の顔をのぞくのだつた。
「文ちやん、おまへも未だそんな處を歩いては早やいのですよ、もう此方にお入んなさいさアさア早

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

く皆こつちにお出で」

母親は花子の後から押す様にして奥の間に入つて行つた。體中の凡てがすつかり衰弱し切つて居る文子はもうこんな處を歩いて居るのでも足が痛い程つかれて終ふのだつた。急にグラ〳〵と目まひがして來てあぶなく倒れさうになつたのをやう〳〵櫻の木にすがつて冷たい額を手におさへながら暫くじつと目をつぶつて居るのだつた。

六

母親の心はもう更に喜と忙しさで滿されて居た。赤子の身のまわりの事については何もかも自分の手一つでするのだつた。夜なども ろく〳〵眠る時もなかつた。

子供は丈夫さうに太つて居た、そして夜も晝も耳をつらぬく様な大きな聲でよく泣くのだつた。

母親は此子によつて再び自分の生甲斐のある天地を見出したのであつた。母の瞳は急に活々としたかゞやきをもつて來た。

膝の上に抱いては絶間なく其柔かな頰に接吻を與へるのだつたそして幼兒の顔から今は成人して終つた二人の子の小さい時の面影を見出さうとするのだつた。

「此所のおとがいの二重になつてる處や耳の福耳なのは兄さんの小さな時にそつくりだよ」

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

かう云つてはうれしげに悦んだ。

文子は子供を抱くのを好まなかつた。子に對して或る執着心や本能的な愛を感じる事は未だないのだつた。

却つて其幼兒と顔を突合して居るのが苦しさに耐えられ無いのだつた。

かうして人類は無意味な生存が長く續いて行くのである……さうしてそれが此地球が冷たくなる迄くり返されて行くのであらう……文子はしきりにこんな事が思はれた。

「まア、そんな母親がありますか」

かう云つて母親は文子を睨むのだつた。

「私なんかはずつと〳〵お汝よりも若くつて兄さんを產んだんですよ。けどもんなに好く育てたか今考へてもほんとに自分ながら感心する位だよ。牛乳だつて飲んで居る内に冷えて行つてはいけないと思つては冷たいガラスの瓶を肌の中に入れながら飲したものさ。おむつだつて私なんかは始終脊中にしよつてたものですよ……體温が一番好いと云ふのでね。それに昔は姑お母さんがきびしいので火の熱は毒だつて云ふし、それかと云つて冷たいのは可愛さうでさてもあてられやしないしね」

「それも今の樣じやアなしお父樣はお若いし女中や書生だつて大勢使つて居たのに子供の事には決

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

して人手は借りはしなかつた」

母はかう云つては文子を叱つた。そして遠い〳〵昔の自分の若かい初々しい姿がなつかしく思ひ浮んでくるのだつた。そして其頃の自分は初めて母となつた喜びにもう夫の事などを思ふ餘地さへない位であつた。さうしたやさしい深い愛が文子には無いのかともうたぐつて見るのだつた。

七

日がたつて行つた――

赤子は一日〳〵と肥え太つて行つた。

もう此頃では人の顏を見るとかすかな音聲を出して笑つたりする樣になつた。

文子は幼兒が〻く迄も自分だち大人の生活の上に暴虐な手を伸ばして來るものかと驚かれた。家中の人の毎日の仕事の時間は赤子の爲に其大部分は奪はれて終ふのだつた。

小兒はどんな場合にも少しの怖れも憚りもなく泣き叫んでそして自分の欲するものを大人の手によつて滿されてゆく……文子は其を心憎く思ひながらも子供の泣聲には勝てなかつた。多くの人々の生活をふみにじつて平氣で飽く迄も自己を押し進めてゆく、さうした何ものにもゆづる事をしない小兒の本能の力が文子は妬ましく思ふのだつた、そして怖れた。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

小兒の體の中にある本能的な或る力が日に日に自分の體を縛つて行く樣なのが怖しかつた自分の膝の上に抱かれて飽滿な笑顏をして母を見つめて居る小兒の顏にはかゞやく樣な希望の光がたゞよつて居る。

文子は其美しさに衝動的に吸はれる樣になつて思はず其頰に接吻した。

自然と身の內より感じてくる此愛の力はやがては自分を亡して終ふのではないかとも思はれた。

そして小兒の爲に內部より湧き上つてくる欲求に向つて進まふとする自分の體をずる〳〵と後に引き戾される樣なはげしい矛盾を幾度か感じるともう文子は我慢の出來ぬ憤怒に身を慄はすのであつた。

文子のさうしたはげしい感情の爭に長い間の體の安靜を保つ事が出來なかつた。其爲に次第に體の神經の均衡が取れなくなつて行くのだつた。時折恐しい發作におそはれる事などがある樣になつた。

「もう決して、何もせずに寢て居るのですよ百日の間は針さへ手に取るなと昔から云つてあるのにおまへは十日もたゝない內に小さな字の本なんかを讀んだりしたからさうなのですよ。ごらんなさい。私の云ふ事を聞かないから」

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

母親は文子の熱の爲に病的に血の色の上つて居る顔色を氣づかはしさうにじつと見つめて云ふのだつた。

文子自身もひどく體の弱つた事を感じた。時折座つて居る疊が急に坂の樣に斜に曲つたり、何氣なく眺めた柱が折れくぎの樣に曲つたりそんな病的な出來事に出合つてからはつとめて何も考へまいとした。そして急にはげしい不安に捉へられた。文子はもうそれからは一心に體の健康を祈つた。白い濃い牛乳や美しい色の卵などを好んで食べたりした。

そして其度に自分の體の血の肥えて行くのを心から願ふのだつた。

「おまへ未だ頭痛がなほらないの。お醫者さんのお藥も大切だがね、私などは姑お母さんによく「サフラン」を飲せられたものだつたよ。之が一番好さゝうだつたから飲んで見たらどう」

「まアサフランがお藥になるの……」

文子の心安い友に大學を出た許の若かい醫師があつた。其人は

「醫學が進歩したの何のと云つたつて實際我々は悲觀してるね、我々が完全に自信のある藥は三ツしかないんだぜ」

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

よく其人はこんな事を云つたが其言葉が此頃になつて妙に文子の胸に不安を與へるのであつた。そして毎日飲んで居る藥の色を眺めながら頼りない氣持がするのだつた。で今母の進める其サフランの方が未だしもきゝめがあるらしく思はれるのだつた。

文子は餘程何前に親しい友達の机の上で其サフランと云ふ草の花を見た事があつた。それは小さな黒い鉢に植ゑられ二三寸位の草であつた。薄黄のかゝつた細い葉の間から少し黒味をふくんだ濃い紅のやはり細くつて葉の樣なヒラ〳〵とした花であつた。昔の錦畫などにかいてある蛇の舌の樣な花だと思つた。

そして其花が其時の文子の心を不思議な程强く引きつけたのであつた。はげしい毒をふくんだ樣な其花の色は人の心に深かく彫りつける樣な强よい魅力をもつて居るのであつた。

何氣なく眺めた其時の花の姿を文子は長い間忘れる事が出來なかつた。

そしてサフランの花に似た女の顔をいつか畵にしてかいて見たいと思つたりしたのであつた――其頃は未だ文子は畵の先生の處に通つて居る頃であつた――。

文子は今母が云ふサフランのお藥を飲むと云ふ事がわけもなくうれしく思はれるのだつた。そし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

"TOLSTOY'S RESURRECTION."
MR. TREE AS PRINCE DMITRY NEHLUDOF & MISS LENA ASHWELL AS KATUSHA.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て其がたしかに自分の體の中の血を清めて吳れそうに思はれるのであつた。

母の煎じて吳れたお藥を手にした。薄黃色の藥からは白い湯氣がゆるく立ち上つた。

文子は目をつぶつて心にきゝめのある事を願ひながらかすかな其藥の香をじつとかんで居るのだつた――。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

復活劇の梗概

松井須磨子

復活はトルストイの小説によるとお話で筋がうまく整つて居ますけれど、夫をはじめて芝居に書きなほしたのはフランスのアンリバテイユで、其筋によると一番はじめにネフリユドフと言ふロシヤの軍人と、カチウシヤと言ふ小間使の娘とがはじめて戀に落ちる場が有つて夫が序幕になつて居る。そして次の幕まで此間に十年經つた事になつて居ますけれど斯するとあんまり幕と幕の續き合がうそになるだろうと言ふので今度島村先生の脚色では序幕戀の場を夢にしようと言ふのです。即

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ちはじめに先十年たつた後のネフリドフが今では昔のカチウシャの事などは忘れて了つて、今度結婚しようと言ふ娘の事など考へながら其人から來た手紙などを見て枕元のあかりを消して眠りにつく。すると夫がダアクチエンジの切掛けになつて場面は忽ち十年前の田舍の別莊に戻る。そこでまだ若いネフリドフが純潔な田舍娘の小間使カチウシャと月の夜に去年のたのしかつた會合の事を語り合ひながら遠方には復活祭のうたの聲を聞き、家の後の川からは春の氷のピチ／＼とゝける音を聞きながらうつとりとなつて、二人かすかに歌を唄ひつゝとう／＼戀に落ちて了ふ、そして其晩カチウシャはネフリドフの爲に體までさゝげた事になる。舞臺面は二人が戀に落ちた其瞬間に再びダアクチエンジとなつて元のネフリドフの寢室に戻り窓からは朝の光りがだん／＼差し込んで來る、そこへコト／＼と戸を叩いて召使ひが例の婚約のある貴族の娘からの手紙を持つて來る、其物音で目をさましてあゝ今のは十年前の夢だつたかと思ふ、そして手紙を受取つて明けて見ると、今日は裁判所で陪審官にお立合なさらなくてはならないから其後で馬車で遊びに行きませうと言ふ意味が書いて有る、そこでネフリユドフは其日裁判所へ行くべきで有つた事を思ひ出すと言ふ處で幕になります。

第二幕は裁判所の會議室の場で其日調べられる罪人はカチユシャなのです。

カチユシャはネフリドフに體を任せたのが基になつて其後男から捨てられた結果だん／＼墮落して

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

淫賣婦となりとう〳〵お客を毒殺したと言ふ嫌疑で囚へられたので有ります。其裁判所にネフリドフが偶然陪審官の一人として立合ひ、はじめて自分の罪の恐しい結果になつた事を知り良心の煩悶をはじめる場面です、その場で辯護士にネフリドフが自分の決心を打明ける、カチユシヤはサイベリアへ流罪になる、夫を是非救はなくてはならない、其ためにネフリユドフはすべての名譽も財產も地位もなげすてゝ上訴をしサイベリア迄もついて行く決心をしたのです。次の幕はネフリユドフが監獄へカチウシヤに面會に行つた處で、いろ〳〵自分の心持ちを話すとカチユシヤは却つて昔の事を思ひ出して恨と涙で男を痛罵します、こゝでカチユシヤが第一幕とまるで變つた、强いそして悲慘な方面をあらはさなくてはなりません。次はカチユシヤがとう〳〵ネフリユドフの眞心に動かされて酒も煙草もやめ、墮落した精神を取かへして監獄の中の病院に看護婦として移されて居る處です、そしていよ〳〵大詰になつてカチユシヤは外の罪人と一緒にシベリヤへつれて行かれる、シベリヤの雪の中に夕日の沈んで行く壯大な景色の中で、ちやうどカチユシヤを放免すると言ふ政府の命令の來た處です、そこで男は自分と結婚して昔の罪を贖はしてくれとたのむ、けれどカチユシヤは男の心を嬉しく思つてはじめて眞の愛を感ずるとゝもに却へつて自分の樣な汚かれた身で男に結婚するのはすまない事だと言つて夫をことわる、そして自分に親切にしてくれる外の男囚徒と結

婚し此哀れなシベリヤの罪人どものためにつくすと言ふ決心をする、ネフリユドフも其心に感じて自分も一人で大いに人類のためにつくすと言ふ決心で二人は淋しく最後の別れをする、ちやうどサイベリヤの雪の荒野にも朝日がまさに登らんとして、時もちやうど復活祭の朝で有ると言ふのが此芝居の略筋でございます。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

海外通信

O. P. Q.

モナ・リザの畵。　パリイのルウブルからイタリア職工が盗み出して、フイレンチエに持つて往つた、レオナルドオ・ダ・キンチのモンナ・ワンナは昨年大晦日にパリイに戻つて、一月四日からルウブルに懸けられた筈である。

ルウドルフ　オイケン。　東京へ來るのは一九一五年の夏期休暇中になるらしい。

女子運動。　ドイツ國内で女子運動に贊同してゐる協會が、直接聯合のもの二百八十二、間接交通

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

のもの四十九と云ふ數に達した。今日までこれに加盟しないのは第一、カトリック教婦人會で四萬の會員と百零四の支部とを有してゐる。これは宗教上の顧慮から遠ざかつてゐるのである。第二、社會民政派婦人會は政略上の關係のために加盟しない。○職業によつて分立してゐる組合組織には仕立職、粧飾品職、女髮結、製本職、寫眞職、女齒科醫がある。仕立職の會は雜誌を發行してゐる。○科學者婦人會は既に成立した。女子藝術會は Kaethe Kollwitz を首座にしてゐる。シユレエジエンの女子織物協會は Martha Langer-Schlaffke を會長にしてゐる。○官吏としては聯邦保險事務所に定員五百人が女子のために保留してある。鐵道廳でも女子職員の數を殖やす豫定である。聯邦通信行政事務所では一九一四年度に電話交換手千四百人を置く見込である。○女醫助手ドクトル Rahel Hirsch はベルリンのシヤリテエ病院で大學教授の稱號を許された。大學教授の位置に女子を据ゑることは理財科で一名問題に上つたが排斥せられた。青年事件裁判所の成立した時、婦人協會から建言して、女子陪審官を出さうとしたが、否決せられた。○雇人疾病保險法には婦人協會の中で反對するものもあつた。○自治團體の事業では一九一三年中慈善事業のために働いた女子が約一萬八千人あつた。劇場事務委員に始て女子を擧げたのはウルム市である。次にマグデブルヒは救貧事務局に女子を置いた。○女子職業紹介所は次第に其數が殖えた。○政黨は國民自由黨と保守黨との女子團結が成立してゐる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女子選擧權問題はブダペストの國際會議とアイゼナハの總會とで研究せられた。オルデンブルヒの地方會では滿二十四年の女子を市政委員に擧げることを得ると云ふ箇條が通過した。キヨルンの市會議員選擧に自由派が勝利を得た時、同市の婦人會は運動に助力したので感謝狀を受けた。進步國民黨のために女子の催した政談演說會は成功を認められた。

國防問題。　スエエデンの女子二十五萬人は連署して、一九一四年の議會に國防問題を政府案として提出して貰ひたいと云ふ請願をした。

髮。　パリイで女が耳の前に髮を一握づゝ垂れることが流行り出した女の頰髯のやうだと云つたものがある。

アナトオル・フランス。　パアナアド・ショオの晚餐會で演說した。

Carmen Sylva.　ルメニアの妃で女詩人である。昨年十二月に七十の誕辰を祝した。

クリスマス。　クリスマスに樅の木に明りを點すことは、あまり古い風習ではない。チユウリヒのアルノルド・マイエルと云ふ人の研究によれば、一七八五年にストラアスブルヒに始まつたものである。此事を書いた小册子は、增訂を加へて、昨年末に又發行せられた。此風習がベルリンに入つたのは一八一〇年である。フランスへは一八七〇年にドイツの兵卒が輸入した。イタリアへはリキエラに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

避寒するドイツ人が輸入した。オランダではまだ聖ニコラウスの祭が保存せられてゐる。

女の手。　アメリカの彫塑家ダニエル・チエスタア・フレンチは女の手が段々大きくなつて、男の手に似て來ると云ふ研究を發表した。

花の價。　リキエラの寒氣のために、パリイの花の價が上つて、一フラン半のパルマ菫が二十フランまでになつた。

Lily Braun.　女子運動の解決を社會主義に求めた演説をした。演説は巧妙であつた。併し社會主義は此解決を致す道でないと云ふので、ボンの教授ルンプフはヴユルテンベルヒとの女がアメリカで興した新社會、アツベエがエナに設立したツアイス工事組合などを引いて反駁した。

樂土鳥。　ドイツ領新グイネアでは一九一四年の末まで樂土鳥獵の免狀を下附せずに置いて、此鳥の生殖等を研究することになつた。死に絶えるのを恐れて、保護手段を定めやうとするのである。

（一九一四年一月十日）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雪夜曲

蘭 五三子

×

しんしんと降りしきる雪………
世界の心に降りしきる雪………
夜の雪………
飛白(かすり)の雪………
舞踏の雪………
さてもしんしん降りしきる………
温室の硝子(ガラス)に、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

アネモネの重たい紅に、
フリジアの青い匂ひに、
遠い丘のひとりぼつちの森に、
坂の上の一本杉に、
停車場の燈火に、
さてもしんしん降りしきる………
夜の心にふりしきる………
私の心をふりつつむ………。

×

さらさらと、
白い障子の紙に、
おもひだしたやうに雪の音が………

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

それつきりあとはもうきこゑない、
内部(うち)では瓦斯が燃へてゐる、
ほう——といつて嘆息(ためいき)を吐(つ)きながら……。
フリジアの花がかすかにふるへてゐる。
だまつてゐてごらん、
額のマリアさまが、思ひふかさうに、笑つてゐら
つしやる……。
童貞のうつくしさに——。

×

心臓形(はあとがた)の花壇に、たつた一本立つた弧光燈(アークとう)、
昂奮して、おりおり嘆息(ためいき)を吐(つ)きながら、
四邊を翳(かげ)らしたり、明るくしたりして燃(も)へてゐ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る——
三角の雪がしんしんと、
誰(たれ)知(し)るまいと、
をどつたり、しなだれかかつたり、もつれたり、ぶ
つたりそれでもさみしさうに、
みんなひとりぼつちで、
あとからあとから落ちてくる………
花壇をうづめてる春くる前のさみしい舞踏
………
冬のわかれ………
ほんとにしみじみと降つてゐるひととき……。

今日の歌劇

原　信　子

西洋の音樂を日本に採用したのは最う昔のことです、樂隊及唱歌は何れも西洋のもので之を直接又は間接に採用したので此外音樂學校はいづれも西洋の音樂を敎える所です。此等音樂學校のプロダクシヨンとしては時々開催さるる音樂演奏會であります。

歌劇の演奏されたのは誠に最近の事でして其上場の作曲は片手の指で數へられる程です。之も帝國劇場が出來てからの事です。胡蝶の舞、熊野、釋迦、及カヴレリアは環女史の時代、魔笛、マスコット

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

及今度のレギーメンストツホター位いなものでして歌劇の歴史は誠に幼稚なものです、でもショウがウォーレン夫人の職業の序文に申して居ります、「二十世紀の劇場で勢力を維持する者は思想劇でなくてはならない。問題のドラマでなくてはならない。舊來のセンスにアッピールする即ち官能に訴ふるドラマは歌劇に占領されて仕舞つた。シークスピアの天才を以て美を盡した可愛らしきジユリエットもワグネルのイソルダに比べると無味乾燥である。センスを樂しましむる使命は最早や歌劇の舞臺である。今後のドラマは思想問題でなくては生命がない」と。

グート、ヴルゲイプッチニーは世に忘れられたるシークスピアや希臘劇をオペラとして茲に生々とした生命を與へて居ります。歌劇が藝術の社會に勢力を得たのは余り古くはありませぬ。米國などは極く最近の事です。歌劇の前途は實に有望です。最高の藝術は歌劇に依て一番よく表現せらるゝであらうと思ひます。ポエム、ミユーヂック及びドラマチック、アクションを結合して舞臺に上場する者は歌劇です。而して其シンガー等は何れも生れつきの資料即ち各特種の音聲を持たねばなりませぬ。立役と女形の比ではない誰にでも出來るといふ譯には參りませんから、ヨシ音聲の量質共に具備致しても之に伴ふ頭腦と正確なる耳とが完備して居なければ啻に音樂を歌ふことが出來ないのみならず解する事が出來ませぬ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

歌劇界に於て最も缺乏を感じますのは第一に特種の聲を有する者がないことです。テノル及びバスの如きは日本人には誠に稀でして今の所では西洋の立派な歌劇を上場することは全く不可能です。人がありませんから、演劇なら一人が缺けても差替を得ることは容易ですが歌劇は殆ど之が不可態です若し間に合すにはバスの代りにバリトンを以て不滿足ながら堪へる位なことです。若しバスなりテノルなりがありましても大工が山から材木を切つて家を建てるやうにオペラの組織は容易ではありませぬ。餘程の教育と熟練とが必要なことは申す迄もないことです。

斯く今日の四圍の狀況は完全なる歌劇を上場致す事に困難です。でも日本の紳士方は申されます、我が歌劇家は歌を解しないとか作曲の神髓が分らずして歌ふて居るとか色々の御批評があります、又私共が歌劇を演奏致します時前申上げた如く特種の聲の人がなければ止を得ず之を省略します、斯く變更しますと紳士方は私共が作曲を解しないからであると申されますが斯る批評は今の歌劇に對しては無理だと思ひます。時には日本の音樂家は權識振るとか威張るとか申されますが元來日本ではオペラ部に入れば世間では河原乞食と思つて居られます、從つてオペラ部は振はない世人から相當なる注意を拂はれない、西洋では交際場裡に於てもオペラを見ないと云へば耻でありますヨシ見ないでも見たと申して居ると云ふ事です。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日本の紳士はオペラの條書を知らないで言葉が聞へないとかなど申されますがオペラの社會に演せられないのは實に耻辱です、少なくとも文明の缺陷です。オペラは最高の美術です。でも我が紳士達は幼稚なオペラを盛に立てやうとはせず無暗にオペラを冷やかしたり、オペラシンガーを罵倒したりなど致されますが、之は紳士達が自分の耻を知らないのです、寧ろ御自分で之を洒らして居らつしやるのではありませんか。先生方が偶に私共のオペラを見聞して批評なさると麗々しく新聞紙上に發表していらつしやるが其批評には私共の歌ひます歌ひ方や節廻はしを評しはせず大抵の批評は罵倒です。惡口です。一つとして正鵠を得た批評はありません、シンガーに取つて感服し又痛いと感ずる深刻な殘酷な御批評を聞たことも見たこともありません。無論私共も人間ですから、間違もいたします。缺點も演奏致します。歌ひながらも亦後でも耻かしい様な誤りを致しますが此等大事な缺陷は私共自らよく知つて居ますが曾つて此等の最も適確の御批評をして頂いた事はありません。又シンガーが苦心した所も聞いて頂いた事はありません。其も其筈でせう堂々たる紳士がロハでなければ音樂會には行かないと臆面もなく申されます位ですから。

又多少音樂の御分りになる學者、先生達は不完全な私共の歌劇を十束一束に頭から國辱だと申されます。私共の歌劇は國辱であるかも知れません。でも私共は日本の歌劇を成立せしめやうと苦心し

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

て居る者です。万難を排して奮闘し努力致して居る者です。私共の歌劇を國辱と申さるゝ程ならば何故自ら進んで歌劇を助成なさらないでせう？　罵倒したり、冷かしたりなさらずして「オペラなき社會」の恥辱を脱する事に向つては何故御努めなさらないでせう？　此は第一音樂學校が惡いと思ひます。私共の遣る事を國辱と申さるゝ程ならば何故學校で立派なオペラシンガーを養成なさらないでせうか。先生達は斯んな風に申されます「オペラ其者はいいがこれを演奏する人が惡いから作曲を間違つて解釋して居るから」と（一月八日の讀賣新聞）先生達は私共の歌劇をクサス事に依つて自己の滿足を得ると思つていらつしやるか知りませんが之は却つて其不能を爆露して居らつしやるのではないのでせうか。先生達はクラッシ・イン・ゼバッド底の壓迫を私共歌劇を盛り立てんと勉强して居る者に加へんとなさるのです。先生達の御批評寧ろ抗擊は私共を破壞せんとなさるのです。オペラにも重いノーブル（高尙）なものもあります。輕いコミックなものもあります。「魔笛」の如きは餘りに高尙ですから一般觀客にはよくおわかりにならなかつたでせう。只小數の私共のオペラを我國辱と申さるる方々の外には！でも今の程度の觀客に向つては少しでも多く笑ふやうなことでなくては喜ばれないのです。今の私共のオペラを完全なものとしてやつて居ると思つたら其は大きな間違いです。此位な程度にやらねば觀客が面白く且つ滿足しないからです。無論私共は觀客に諛らひ媚ぶるもので

はありませぬ。私共の理想は高尚ですノーブルです。サブライムの域に着達せんと努力して居る者です。去りながら觀客に分らない物では決して私共の目的を達することは出來ませぬ。我が劇場がドニワエッテイーを演奏さして若し觀客が丸で受けなかつたら何うでせうか。其で作曲家に對して忠實と申すことが出來ませうか。又多少元作を變更しても觀客に面白く分つて不完全ながらも元作曲の意味を觀客に與へたとしたならば何うでせうか。作曲家に對して不忠實だと申すことになりませうか。今の處の我々の境遇としては私共のベストを盡してるのです、我々のオペラに對する苦衷をも少しは察して貰らいたいのです。ステージ・マネージャーに對しては絕對の服從を要求さるゝのです。會社の目的に從はねばならないのです。帝劇の私共に於ける關係はパイロートのワグネルに於けるが如き關係ではないと云ふことを記憶して頂いたのです。高折さんは人力車に乘つて舞臺に出て來ることを好まないでせう。又本意でもないでせう。併し若しも米國の劇場のマネージャーが之を要求すれば少なくとも其下に働く間は之を拒むことは出來ないのです、一つのオペラを上ぼすのは容易なことではないのです、今は幼稚です。從つて社會の要求は少ない其結果は充分の設備を要するにはそれだけの豫裕がないのです。是非とも劇場でなくてはオペラを組織することは出來ませぬ。でも今のオペラが國辱であると云ふ方々は之を改善して下さるのが當然の事ではないでせうか。今度出

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

したレギメンストホターは喜歌劇でありまして、奇麗ではありますが余りに高尚ではありません。固よりドニッエッテイーの大きな作ではありませぬ。でも亦米國邊りの小劇場でやるやうなものではないモット高尚なものです。でも今の帝劇の觀客に向つては笑ふ所はモット笑ひ悲しむ所はモット悲しまねばならないのです。此點は我が紳士達の特に了解を望む所です。

日本人は未だオリヂナルの作曲をプロヂニース致しませぬのです。西洋のドラマをなさる皆さんが日本の踊りを稽古するよりも寧ろ西洋の演劇風を充分に御極めになつた方がいゝと思ひます。洋劇の神髓を發揮するにはただに洋服と西洋風の舞臺とを採用した丈けでは不可でないかと思ひます、結局虻蜂とらずのハーフブレッドが出來て仕舞はしないかと恐れるのです。物の成功は根底を鞏固にすることが一番大切でせう、發聲法を極めずして歌を歌ひ、スペルを知らずして外國語を使はんとするのは矛盾でせう。日本在來の藝術を以て直ちに西洋の劇作を解釋して我が觀客を滿足せしめやうとするのは何うでせうか。之は熱心に考へて頂きたいのです、と申して今日西洋劇を演ずるに忠實ではあるが境遇の爲めに其の全部を俸げることの出來ないと云ふことも記憶せねばなりませぬ、でも私共が曾つてエレクトラを觀た時に殆んど日本人が演じて居るとは思へない程に西洋化して居たでせう。少しも不自然な所はなかつたのです、須磨子さんのサロメは或る方面から批難されました。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

でも私はこの批評者に向つて云ひたいのです。此時何故サロメの音樂を用ひなかつたかと云ふことに就いて、ストラウスの此音樂を聞いて喜ぶ者が日本人中に何人あるでせうか、ヨシ澤山にあつたとしても今の程度のオーケストラでは完全に之を奏することは困難です。其迄には進歩して居ませぬ。無論稽古しますれば出來ませうが之に全部掛る暇がないのです。サロメの音樂の代りにメンデルゾーンを入れたのは何故であるか、ローシーは馬鹿であるか、之は日本の音樂思想の發達程度の如何を知らない人の云ふ批難です。上野の音樂學校で年二回の演奏會毎に半ケ年も一ケ年も練習を疑らした後でもよくは出來ない事もあるではありませんか。まして劇場では時間が制限されてあります。サロメは一晩掛つて演ずる作曲です。其を一時間か一時間半で観せようとするのですから滿足に行かないことは止むを得ないのです。王様の出て來る所などは充分壯嚴にやりたいのですけれど時間がないから其う出來ないのです斯様ですから西洋劇でも歌劇でも今の所完全でないことは止むを得ないのです。去りながら私共は決して現狀に滿足して居るものではないのです。是非共純オペラを上場するやうになりたいのです。又之を上場しても觀客に向つて充分の滿足と趣味とを與へる様にしたいと努力する者です。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

夜の葡萄樹の蔭に

尾竹一枝

銀の衣服をまとひたる
星の香ひの高き夜
薫いと濃き葡萄樹の
密房の甘き汁をくみ
紅色の美はしき
愛するものゝ唇に
番紅の花咲きもゆる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

さきもゆるそのごとく
跳舞かがやく接吻を

またあるときは蛇の毒
魔法の酒の唇に
わが心熱を溶かして
乳に洗はれ美はしく
鴿の目の如く嵌りたる
愛するものの軟き
双の乳房を慕ひたり

かくしてやまずわがこゝろ
碧玉嵌むる天座をみて

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

濃き紫の葡萄樹の
甘汁の點滴る密房の
紫色に繍されたる
よき匂ひ扉のその蔭に
愛するものゝ髮の毛に
夜の點滴のみつるまで
契ひを秘めて愛をしる。

西紀一九一三―一二―二二―よる

あはれかなし

あはれかなし

あはれかなし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

かくもまた君を戀ふとき
カナリヤの雄雌(ふたつ)
接吻(くちづ)けて接吻(くちづ)けてちんからころと
泌みて鳴く
みるとなく涙(なみだ)ながれぬ
あたたかに夕日香ふなかに………
やはらかに眼も燃えて。

悲しきうたひ手

薄紫(うすむらさき)に日は暮れて
悲しきけふも終りゆく

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

げにやさまざまうちなげく
きづつく心の唄うたひ
いとも哀しく暮れてゆく

暗より暗に追はれゆく
悲しき戀の唄うたひ
いのちの消ゆるこの頃の
いみじき絲のそのみだれ

世(よ)にまたとなき戀人の
心にうすき暗(やみ)のいろ
うつりてあるとみたるとき

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いといつくしみ深かりし
わが世の命ちりばめし
沙漠をわたりこし寶石（いし）の
きづつき砕けし如くなり

心にうづくこのいたみ
破れしいまはの立琴（たてごと）に
みだれみだれてかきならす
あはれかなしき唄うたひ

されど悲しやわがいのち
けふも夕暮美はしき
かつてみちたる心もて

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ひたすらわれを愛したる
きみの心を慕ひなく

なみだは胸にみちあふれ
こころはみだる狂ほしく
小鳥の死に逝くあけぼのの
ただひたすらにうらめしく
わがみのうえにもかくあらば
命たえたる小鳥らと
とわの眠りにつかぬもの
なみだはつづくひたすらに

うすむらさきに暮れてゆく

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

悲しきけふの夕暮に
ひとり涙に頬をそめ
戀しききみを慕ひゆく
みちたるときのその愛を
ただ悲しくも慕ひゆく。

冬の夜ふけて

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

二人の歌

妹のうた

八木さわ

物がたりめくその思ひ出をきくからに君の瞳の碧きも悲し

さふらんは薄紫（うすむらさき）の色もよくなよなよしくも咲ける花かな

思ひ出はややにしほれて鈴蘭のその殘香のかほるが如し

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

けしの花咲きてしほれてくづほれぬそのころ
人の我をこひにき

ゆあみしてのぼせしからに二つ三つ蜜柑食は
むのわがねがひかな

夕暗はややに迫れり赤塗の君が住む家もやが
てこめなむ

姉のうた

八木うら

消えてゆく雪が泣くなり頬白が歌うたふなり
野はひろきかな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

みちみちとまたみちみちと雪が泣くすすり泣
くかも陽は耀やけり

戀するは寂しなやましかにかくにものを思ふ
も君こふるため

時雨する日のまがなしさ惡寒して頭痛かり君
戀しかり

眼を病めば書くも憂しよむもうし寂しき一日
なほ暮れやらぬ

安からぬ想ひいだきて歸へる日の夕陽燃ゆる
が悲しかりけり

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

雪のふる日

菅原初

またも雪は降りしきる
こやみもなう、降りしきる
白う烟る四辻を
呼吸はづまして
盛岡生れの黒馬がゆく、
重い荷の上ちらちらさ
赤毛布に黒頭巾

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

洒灑なマント着ながして
おもひおもひに人は行く
意氣な女の後影や
粋な年増の蛇目傘
傾けてゆく、紺色に
雪は降るふるふりしきる
眞白くなつて降りしきる。

南の國の熊本の
冬の日の照るふるさとも
お城の上の銀杏の
枝を流るゝこがらしに

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ほんに南の故郷も
日の照るまゝに寂しからう。

雪の降る日の、若松の
街を歩めばさくさくと
音する、崩るゝさくさくと、
底光りする、寒い色、
またも雪はふりしきる。
眞白になつて降りしきる。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

病間

何物か襲ひ來るけはひに
ふと朝の夢は破れ
眼開けば
窓のあひさより
かすかにもるゝ雪明り。

あやしき化のものゝ足音
轟き、轟き
ちかつき來る

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

とゞろきとゞろき。

胸に手をやれば
烈しく動悸のして、
おびゑし心の臓
暗き恐怖に
ふるひわななく。

キナチンキのにほひ漂へる室、
黒いIVの字を指す時針
命を刻むセコンドの

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

死と恐怖の象徴。

轟き轟き
重き鐵車の軌り
運命であるかの如く
黒き汽車は過ぎゆく。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

自分の生活

尾竹一枝

あなたのくれたアネモネの花にも眞夜中の氣がぴつたりより添うて眠つてゐます。 あの柔い天絨鵝のなつかしい觸覺(てざはり)のような眞赤(まつか)な花のかげに。

そとは靜です、ほんとうに靜です。

それに雨がしとしとと降つてゐるので、 ひとしほ私の心もちは靜で泌々いろんなことが思はれます。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

この頃あなたにはよくいろんな時間で心せはしく會つてはゐますけれど手紙を落付いてかいたと云ふこともあげたと云ふことも全くなかつた樣ですね。
實際その間は私にとつちや珍しく多忙だつたのであなたにも到當あんなに氣持をそこねさせてしまつたのです。
さつき夜になる少し前でしたね、あなたに逢つたのは。だけどあの時もいろんな來客やこの頃の私たちの仕事の雜務に追はれてゐるために、なにひとつ滿足な會話もせずにお別れしちまつたんですね、考へてみると隨分この頃はつまりませんね。
あなたはさつき眞當にあんなに腹をたてて、怒つたのですか、私にはどう考へても僞としか思はれません。
よしあなたがあんなに怒つたと云ふことが眞實であつたにしろ私はあんまり馬鹿馬鹿しいのでつまらなくなります。
とにかくさつきはあなたが怒つてゐたそのまゝでお別れしちまつたもんだすから神經質な私にとつちや隨分きがかりなんです。そして人いちばい人の機嫌や感情をそこねることの嫌いな私（といつても事實に於ては反對に他人の感情を傷つけてゐることがよくありますけれど）、そして人に憎まれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ることがいやな私にとつては可成り心配せずにはゐられないんです。しかもそれが二人に交渉のある問題でおまけに愛の問題なんですからね。

それで私はさつきのお答へだけをこんな落付いた靜な夜中にかきつくしたいと思ひました。私は或はあなたに誤解されそうなことをかくかも知れません。それともまた、あなたをすつかり怒らせてしまふかも解りません。然しどちらにしたつて、この問題を打捨ておく事の出來ない以上、又解決しなければならないものであると云ふ事が解りきつてゐる以上はこの二つのうちいづれかを、どうしても挾んで話さなければならないのです。

ですけれど、この手紙をあなたが極く美しい、素直(すなを)な心持じおしまひまでよみ續けて下さるなればそしてあなたが私の思つてゐるような解釋をおもちになつて下されば、或は私達二人はもとより、(と云ふより現在といつた方がいいでしよ)ずつとずつと接近し、そして双方が正しい優しい眼でもつてお互の仕事を眞當に理解しあふことが出來て、きつと愉快な時間がこれからさきもずうつと有ちつづけてゆけると云ふ事を私は信じております。

それで、とにかく私はあなたがけふ私にまで殘していつた、あなた自身でかいて、あなた自身の手で破いた手紙の文句に對して云いましよう。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

あなたは手紙のはじめになにをかいたのですか、「私とあなたとはもうお別れするときがきたのです。そしてそれが今日はつきり私に解つたのです、あなたがなんと否定なさらうと、もうこの事は否定しきれません、だれよりもまずあなた自身の良心がこれを否定しないことによつて強くはつきりそれが解るはづです。あなたは何故そんなにまで、見當の違つたことを云ふのでしよう。私がどうしたと云ふのですか、あんまりくだらない事を云はずにいて下さい。

あなたは一體あの手紙で私になにを言ふつもりだつたのです。私からどう云ふ返事をもち去らうとしたんですか、私はお氣の毒ですけれどあれに對してなんの御返事も有ち得ません。勿論私の良心も否定するしないと云ふ立場にまでは有ち搬びは出來ない事と存じます。

私の良心は恐らく「あなたを愛してゐるのに愛されてゐる當人がそんなに動搖して神經を痛めてゐるなんて隨分つまらない不愉快な話だ」と云ふ位ひの立場に挾まれてゐるでしよう。

あなたはその次のくだりでまたこんな馬鹿氣た心配をしてゐましたね、

「あなたは今あたらしい愛を求めようとしてゐらつしやる。そしてあなたはもうその愛に追ひついてそして私をすつかり忘れてゐらつしやる。

私はあなたを愛してゐました、こんなに愛してゐます。これからも、これからさきも、ずうつとあな

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

たを愛してゆきます。

あなたは私をどうなさらうと思つてゐらつしやるんですか、私はもう近い時分に、櫻の花の咲くのもみずに、私の故郷に戻つてゆかなければならないのですのに、せめてせめてそれまででも、何故私だけを可愛がつてゐては下さいませぬ。私はあなたに愛されてゐるものとばかり思ひつめてゐましたのに、あなたはもう新しい愛を見守つてゐらしたんですね。もう二度とお目にもかゝりますまい、もうこの室にも伺ひますまい。」

俊ちやんあなたはどこまでそんな阿呆氣た眼で私を見守つてゐてくれるんです。

私はもうあんまりの事でなんといつてよいものだか解らない。

あなたは何故そんなにまで私の愛を不安がつて動搖してゐるのです。あなたを愛してゐると云ふ事で私は私の生活のある道程のいくらかを育ててゐると云ふことを何故あなたは知つてゐません。あなたは愛と云ふ意味をあまりに遊戲的に考へてゐるように思ひます。

愛を遊戲的に考へてゐると今は私があなたをとがめてはゐますけれど私がかつてあなたをまだ見知らぬときある一人の人にひどく愛されてゐたことがありました。その一人の人の愛はいろんな動搖が可成りくどくどしく起つてはゐましたけれど、「一年間」と云ふものは眞當に交渉がありました。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

その時分でしたよ、私が今のあなたの心持のやうでゐたときは。

私はその時やつぱり愛を遊戲的に考へてゐました、そして遊戲的の愛が最も完全なそして絶對な愛であるものだと信じてゐました。

だからその一人の人が今日の私があなたに對してもつてゐるやうな容子を有つてゐると私は自分はこの人に眞當に愛されてゐるのだろうか、眞當にこの人は私を可愛がつてゐるのだらうか、とよく考へて不安に思つたものでした、そしてその不安がだんだん激しくなつてくるといろんな方面に動搖しだしてきます。

その一人の人は隨分弱つてゐましたよ、今、こうしてその時分の問題があべこべになつて私が愛すと云ふ立場をもつてその問題にぶつかつてみると、その時分私を愛してくれた人の心持があんまりはつきり思ひやられすぎて氣の毒やら恥しいやらで隨分心苦しく思つてゐます。

そりや私の時には今のあなたが私に我儘をいつて弱らしたり、腹をたたせたりしてゐる位ひのものぢやなかつたんです。

さう考へてみると私はあなたよりずつとずつと愛と云ふ意味を手狹に取扱つてゐたらしいんです。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

私はこんなことをされるときには眞當にその人が私を可愛いものに思つてゐるんだと、うれしく思たのです。
その人はよく葡萄酒を口うつしにしてくれました。あの人の唇から私の幼い唇にそれをそそがうとして私をしつかり抱いてくれたときなんか私は眞赤になりました、そして嬉しくてたまらなかつたものでしたよ。そしてさうされる事を望んでゐた位ひなんですけれど、そんなときにはいつでもきまつてよく逃げました。私は身體をもがいたり、そして逃げやうとしたりしてゐるものの、その實は全くうれしかつたんです。
私はそんな事にばかりぶつかつてゐると云ふことが眞當の愛だと思つてゐたんです。
今から考へてみると馬鹿馬鹿しいふざけ方ですけれどね。
ですからどんなときでもその人から激しい愛の表示をうけとると云ふことや、示されると云ふことそれだけで私は全く安心して、そして信頼してゐました。
私はその人が私の唇に自分の唇をより添はせなくとも、さうした容子を私にみせてさへくれてゐれば私はすつかりよろこんで、すつかり嬉しがつて、そして安心してゐたんです。
私が今頃こんな變なおかしな話をすると、あなたはきつと心持を傷つけたかもしれないけれど私

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

がこれからあなたに云ふことに關係があることなんですから私は正直にここにかき添えたのです。

私はさつきから遊戯的の愛と云ふ言葉を使つてゐました、それの説明をしやうと思ひましたけれど、今私がいつたような例を指して私は遊戯的の愛と名指してゐたのです。おかしい言葉かも知れませんけれど幼稚な私の思想や心持や性格はそれより他によいあて嵌まる言葉を見出すことが出來ません。

それで話はさきに戻ります。

この話のやうに、あなたが私に今求めて居るものは私の使つてゐるその遊戯的の愛ではありませんか。この場合この言葉をもち出した事は非常に拙いものですけれど。

かつてあなたは私にこんなことをいつた。

「あなたは私をちつとも可愛がつてくれないんですもの、つまらなくてたまらない」これです、私の使いたい言葉は。

俊ちやん、あなたは「可愛がられる」と云ふことによつて、愛したり、愛されたりして、相互が愛の交渉をもち續けてゐるものだと思ひますか、勿論大ざつぱに云へばさうなるかも知れませんがともするとその可愛がると云ふ言葉は、遊戯的衝動になり易いのです。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

あなたはそのときこんなこともまだいつてゐた「私をちいつと抱いてゐなけりやいや、私と話をしなけりやいや」

俊ちやん、あなたはどう考へてみても私の過去の或る時の行爲と同じ色彩をもつた人なんです。このことでなく二人はよく似たところを今日までによくみつけてきたけれども愛と云ふ形に於て一層よく似て來てゐます。

ここで私はあなたのひきさいた手紙のなかの「あなたは私を愛してはゐない、もうそれは私にはよく解る。あなたは私にもう飽いた、私を愛すと云ふことにもう飽いてしまつてゐるんですもの」と云ふ個所の説明や御返事が出來ることになつた。

私があなたを愛してゐない、私があなたから離れて他の人と愛の交渉をつけかけてゐると云ふあなたの不安は、私がこの頃、いろいろと追ひかけてくる私の仕事や、私や友人のやつてゐる或る小さな幼稚な仕事をするについて、それ以前のやうにあなたを可愛がつてゐなかつたと云ふことがあなたにそんな不安や動搖を與へた大きな原因だと思はれる。

全く私はこの春から、しかも二月に入つてから多忙を極めてゐます。殊に私達五六の友人でやらうとしてゐる或る仕事に對してはその仕事がなんの經驗がないだけに心配もよけいにしたり、そして

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

又場馴れぬため、時間を殺してしまつたり、いろんなことで氣をつかつて急がしい時ばかり朝から夜に、夜から朝にと有ちつづけてゐました。

そのために、いつもの樣に、私の胸にしつかりあなたをかき抱いて泌々あなたと話をしたこともないし、いたづらをして俊ちやんをからかつたりしてゐる時間もなかつたのだ。俊ちやんは、きつとそんなことが氣にさわつてゐたんだらうと私は考へる。

そこの場所を俊ちやんは意地惡く（私から言へば俊ちやんの方が意地惡で私をいぢめてゐるのだとしか思へない）つかまへて私が俊ちやんを愛すと云ふ事に飽いて來たとか、もういやになつたんだらうとか云ふのだらうと思ふ。

だけど、よく考へてみてくれたら俊ちやんにだつてすぐ解つてくれる事と思ふ。

私はあなたを愛して可愛ゆく思つてゐると云ふ事はだんだん親しさをこそ增してゆくけれど、あなたの云ふ、そんなくだらない方にはまるつきり緣がありません。

あなたは私にいつもこんな事をいつてゐたでしよう。「あなたこそ私の愛を不安がつたりそして疑はないでゐらつしやい、あなたが私をどんな目に逢はせたつて、私はあなたよりほかに愛のみちを拾ひになんてゆきはしません。あなたは私があなたと別々のところにゐて そしてあなたをちいつと思

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

つてみるとき、私がどれほどまでにあなたを愛してゐるか見當がつきますか。

私はそりやあなたを愛してゐますよ、どんなにかどんなにか強くあなたを愛してゐますよ、だからあなたは私のことなんてちつともだつて心配したりしちやいけない、そんなみつともない事は心にもかくしてだつておかずにゐて下さい、あなたは私のだれよりも、なによりもくらべものにならない程愛して愛してゐる人なんですもの、」

俊ちやん、私もあなたにそんな様なことがかきたい。

俊ちやんは私をよく知つてゐてくれるくせに、ときどきこんな突拍子もないことをしかも自分からもち出して大騷ぎしてゐるんだものね。

とにかくあなたはけふどんな心持であの手紙をかいてみたんだが私には解らないけれども、お別れするとか、去つてゆくとかと云ふ文字は、あんまり心持のよいものでない事は私自身がよく經驗してゐるだけに大變に心配になりました。

それからもうひとつ、あなたは私が他の人と愛の交渉をはじめかけやうとしてゐるといつてゐましたね。

私はそれだけは眞面目な問題としてあなたに話してもあげなければならないし、又注意してゐるお

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

かなければならない事と思ひますからはつきりかいておきます。

私は現在に於て特別な愛の交渉をもつてゐるのはあなたより他にたつた一人もありません それであなたが私にあたらしく愛人が出來た、戀人が作られたと云ふことは事實事柄がまるで相違して居る。

私は私の良心がこの言葉に對してなんの否定の意も有ちださないので私のこの言葉の正しいことであることをあなたにまでしらせておきます。

あなたは、あなたの惡い病氣をここに露骨に出してゐます。あなたはうたぐりの眼を嵌めこんでゐるのです、

俊ちやん。

あなたは自分に少しは恥ぢて下さい。

うたぐりの眼をすぐにはづして、そしてあなたの今迄もつてゐた、その美しい眼のように心までも美しい眼を嵌めて下さい。

人に親切で、そして正直で、涙もろくて、情深い、かしこい、美しいその眼をもとに戻して下さい。そしてよく事柄の本末を見守つてごらんなさい、氣のすむまで、その心の溶けて消えてしまふまで、ち

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いつと見守つてゐてごらんなさい。
あなたは、私がだれを愛しやうとしてゐると云ふのですか、私がだれと愛の交渉をもつたと云ふのです。
さすがにあなたはその名前をあの手紙にはかきこんではゐなかつた。私はせめてそれだけで息をついたのです。
俊ちやん、あなたは私が　H氏と愛の交渉をもたうとしてゐるとでも云ふのですか。
さうだつた、あなたは別れるときそんな風な事をちらと私に聞こえたか聞えぬかの程度でいつてゐましたね。
「あの人は世にも羨ましい音樂家ですもの、そしてうつくしい歌劇の唄ひ手なんですもの、私はあなたがあの人を好きになつてゐらつしやるのを別段惡いこととも、いけない事だとも申上げてゐるんではないんです。私なんてこんな阿呆なものなんですもの、私なんてもう私のお國に戻つてゆくんですもの、私なんてもうお國に歸へつてゆくんですもの」
あなたはきつとH氏の事をいつてゐるんです。ね、きつとそんなこと位ひにそんな風な解釋をつけてゐるんでしよう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

俊ちゃん、あなたは、もう少し眞面目に私をみてゐて下さい、そしてあなたを愛してゐる私をもう少し眞面目に迎へて、そして私を愛すなり、私の愛を受け入れるなりしてゐて下さい。

私はあなたになにひとこともそんな阿呆げた、くだらぬ事を云はれるような事はないんですからね。

私は自分の仕事のために集つてくる友人に對して赤面します。

私はね、俊ちゃんの考へたりみてゐたりしてゐてくれる私と云ふものとは今少し違つてゐるのです。あなたがこんな樣な間違つたことを私の上にを及ぼしてゐるとすると私はさううたがはなければ仕樣がないのです。

私は眞當にH氏を好きです、あの人をほんとうに好きなんでんです、けれどその人を好きだと云ふ事がすぐ一直線にその人を愛すと云ふことになるでしようか。

私は決してそんな事を考へたこともありません。(あなたは云ふでしよう、それがはじめなんです、さうしてそれが愛に移つてゆくのだと)。

H氏は世の中で云ふ噂の人とはまるで違つてゐました、H氏は最も善良なしたしみ易いなつつこ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

い人でした。

私はあの人と話してゐる間、生々(いき〳〵)してゐます。あの人の眼をぢいつとみてゐるとなにかしら、心が柔かくそして今自分の身のうちには紅い血が靜に、靜に流れてゐるのだと云ふ意識が強く強く私をぶちます。

私はあの人のことさらの可愛さと、ことさらの無邪氣さをたまらなく好いております。

私はあの人を好いてゐます。私はあの人をただ好きなのです。あの人は御氣の毒な人です。

H氏は私をどうみてゐるんだか私にはそんな事が解りもしませず、また、相手の人がどうなんだらうと云ふことを考へても居ないのです。只H氏が私を氣持惡くさへ思はずに逢つてさへゐてくれれば私はそれでいゝと思つてゐるんですもの。

さつきも私がいつた樣に、私は人から嫌いがられたり、人から不愉快がられたり、憎まれたりする事が大嫌ひなんです。

私は人がだれでもみんな自分を可愛いものに考へてくれたり、そして愉快がられたりしてゐてくれればなんと云ふことなしに安心してゐられます。

私はこんな風な理由でよく誤解もされるし自分自身でよく矛盾だらけのものを作つて弱はること

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

があるのです。
といつて私は決して お世辭を人にいつたことはない。私はいつもありのまゝの幼稚な 赤兒らしい嬰兒らしい心持で おし進んでゐるんですからね、
ただ、私は人を心持よくさすために、そして、人から嫌はれることがいやさに、妙な習慣的な愛嬌を意識しないうちにまゝ有ち搬んでゐることがあることを知つてゐる。
こんな風で私がH氏にのぞんでゐるものを強いてあなたにまで安心の行くやうにするために答へるなら、私はH氏からH氏の嫌いな人でない樣にと思つてゐるだけです。そして私はあの人と仲のよい友人でありたいと思つてゐる位ひのものでしよう。
さつきいつた樣な理(わけ)からして私はH氏と別々になつてゐると淋しく思つたりしたことがあつたけれど、そんな事は私が今迄に歩いてきた道程にも、これからの道程にもうんと味つてゐたり經驗してゐたりすることであるから私はこのことをあなたにかくのでも別段になんとも感じてやしない。
これでけふあなたが私にかいた手紙の返事があらあら、いつもの怒りつぽい私に似合はず、かき終へたことゝ思ふ、勿論大體の骨だけですけれど。
それで、私は手紙の終りのついでに少しばかりあなたにいつて置かなければならないことがあ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

る。

それはこれから先き私が私の仕事や、又私達の生活のために、どんなに周圍をもつ様になるか一寸も解らない。それでこれからさき、又今度の樣な動搖を又あなたからもち出して騷ぎだすと私は私自身より私達の仕事を仕合ふその周圍の女性に對して大變に心苦しく、みつともない恥を私が知らなければならなくなる。

ですから、くれぐれもその邊の事をあなた自身注意してほしいと思ふ。

あなたは大變に奇麗でうつくしい人なんだから、そんなに奇麗で美しい人であるならばあるだけに普通の女より優しく、そして溫順でなければいけない樣に私は思ふ。

私の周圍の友人のAやCやPはあなたのことをいつも話してゐる。

あなたの話をするために私の室に入つてくるかと思ふほどによく話してゐる。

あなたはみんなから奇麗だと思はれ美しいと思はれてゐるんです。

Uはこの間來てこんな事を話していつた。「あの人は佛蘭西あたりへ戻しにゆく人ですね日本なんて國におく人ぢやない」

その翌日だつたかHがきて、「僕等の友人のなかであの人にエンチャントされた連中がゐるんです、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

あの人はよい煙草をのんで心地よくうつとりと酔つたときのその心持のような美しさの人だ、よい果實をたべてその香のよいのに、こそばゆくも酔つたと云ふその刹那の美しさなんだ、なんでもみんなかうしたときに強くうける美しさなんですね」

こんな風にあなたはいろんな人の眼にはいつてゐる。

そこで、もしもあなたが私に對してこの頃激しく振舞ふやうなあの興奮したヒステルカルな調子、あなたが不安がつたり、そしてH氏の事で私の愛を疑つて動搖してゐるその時をあなたを美しいと思つてゐる人達の前で私へと等しくみせたら、あの人達はなんと云ふでしよう。私はきつとみんな心配することだと思ふ。

私はあなたにいつも嫌はれる位よくいろんな注意をしてゐた。

だけどあなたはいつもその折々だけはいたつて素直にそしておとなしく私の言葉を守つてゐてはくれるけれど、そのうちにやつぱりあなた自身の本來をもち出してしまふ。

私はあなたが本當によい人である事をよく知つてゐる。あなたが涙もろい、そして清い優しい心持の人である事もよく解つてゐる。

ただときどきしかもさつきの様な場合にぶつかつてくるとあなたは私の手におふことの出來ない我

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

儘なだゝつ児になつてゆく。
私は、あなたがだゝつ児になつてゆくのをぢいつと見守つてゐると云ふその辛抱がない。
私はすぐ怒つてそしてあなたをとがある、とがめたところで、あなたはいつも怒る、そしてなかなか怒つた顔を優しくしてはくれない。
自分でみすみすいけない事と知つてゐながら、あなたはすつかり強く、そして腹立たしげに私を見守る。
私はそんなときあなたをつくづくなさけなく思ふ。
もうさうなつてしまつたら、私はいつもあなたの涙をためて私をみるまで私はだまつてあなたをみてきてゐた。
俊ちやん、
私はくりかへして云ふ。
あなたは、美しい人なんだ、珍しく奇麗な人なんだ、だから普通の女よりも、ずうつと〳〵優しくそしておとなしく平和であつてほしい。私はあなたが優しくそしておとなしくあるとき、どんなにかあなたを可愛いものに思ふだらう、私は眞當にあなたを可愛ゆく思つてゐます。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

美しい人や奇麗な人がより以上優しくおとなしくあつたとき、その周圍の人はどんなにか幾倍もその人を愛しその人を見守るだらうと云ふ事をよく考へてみて下さい。

私はこんなことを殊更にいゝたくなかつたのですけれど、この頃思つてゐたことのやつぱり一部分であつたのでかきとめておきます。

私はこの頃お行儀のよい人達をひどく愛しそしてそれらの人達のなかに入つてゐることを見出した場合は可成りうれしいのです。

私はそして優しい女の人達をひどく好いております。おとなしい人達をひどく愛したく思つております。

私はこの頃友人なり愛人とは道徳的の交渉をみつけて、そしてその上に堅い信念を有たなければながつゞきがしないと云ふことを見出してゐます。

それで、私はこの頃やたらに、そうした心持をどの方面にでも占めておりましたので、あなたの持ちまへの一徹な氣性と時々ぶつかつて、妙な破壞性や危險性をよく崩しかけてゐたんです。

今はじめてゞはなく、私は最初からいつもあなたにいつてゐました。私は女らしい女の人を求めて

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ゐます。私はそしてそれが優しく美しく賢くありたいと思つてゐます。
私がこの話をするたびに、あなたはよく「私は もうだめなんですもの、こんな風に生れて 來てゐるんですもの、だれがなんといつたつて、私はこれがよくなることが絕對にないんです」
私はそれが、あなたがどこまでも保守してゐるそれがあなたの最善美であるなればあなた自身の運命に私が手を觸れてゐないやうに、私はなんにも云ひません。
ですけれど、それがあなた自身をある場合に大變に見苦しくみせる、そして極端に話すと可愛ゆげのなくなると云ふ場合があつて あなたを傷つけてゐるものとしたら、私はそれをだまつてみてゐる事が出來ないのです。
或は私はあなたにあまりに多く いろいろのことをいつてゐるかも 知れないけれど、私はみんな殊更らしくいつてゐるんぢやないだけに、格別心配とも思つてゐない。
いやなかたくるしい言葉を又使ふけれども私はこの頃全く道德的觀念と云ふことに注意してゐるやうです。
それらがこの頃の私の生活法にいろんな風な 場所にひろく形をかへて 出てゐるので、あなたとぶつかるときが殊に多かつた原因でもあつたのでしたね、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

私はあなたを愛してゐます。眞當に私はあなたを愛してそしてあなたをぢいつと見守つてゐます。
私はあなた以外になんの愛の交渉もほかでは決してないと云ふことをよく信じてゐて下さい。
私はあなたを嫌つても、あなたを愛すと云ふ事に飽いてもゐません。
嫌ふとか飽くとかと云ふ言葉だつて二人の上には使ひたくはないのです、私どもの交渉は、そんなことを興味中心になんかしてやしないんですからね。
ただ私はこの間中、自分の仕事があんなにまで多忙を極めてゐたのに、そして心をやたらにくばつたり痛めてゐたのに、あなたは只の一度も私を慰めてくれたことがなかつたのです。
私はそれを隨分悲しみもしました、なさけなくも思ひました。
そして私はあなたが私のなにを愛してゐてくれるのだか見破ることが出來ずに可成り久しい間私ひとりで考へてゐました。
あなたは、私を愛してゐるといつた、その愛してゐると云ふことには、私の仕事も尊敬してゐてくれるものだと信じてゐた。
私はけふまで、隨分無駄な時間不經濟な時間を多くもつた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

あなたのために貴重な時間をよく失してゐました。そんなにまでして私はあなたの云ふことを通してゐました。私は今非常に自分を見守つてゐる、そして苦しいほど私の欠點を私自身にみせつけてゐる。

私は、その苦しいことを、まづ私の仕事や生活の上にもつてきて、そこへ逃げてゐるのです。私は自分を自分で恐ろしいほどに見守つたときそのときには人を愛すと云ふことが出來なくなる。私はまづ、私の生活を求めなければならなくなるのです。

あなたは私のさうしたことや私のこれからもずうつと有つてゆかなければならない様々の生活や仕事に對して全くなんの理解も同情ももてない人なんです。

私も、今迄人を愛すと云ふことに依つての方法や手段をすつかり間違へて來てゐました。

私は双方が双方の生活と仕事と双方の人間を尊敬しあはなければ、そこに絶對な完全な、私はあなたを愛してゐますと云ふはつきりしたことが云へなくなるのです。

私がこのことをもう少し早くあなたにまではなさなければならなかつたのですが、それを今日まであなたに搬ばなかつたと云ふことが私の惡かつたところでした。

このことはまづ二人の愛の交渉の最初に於てとり結ばれる問題だつたのですからね。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ですから私はあなたがぐずぐずつまらないことを不安がつたり、そして我儘をいつたりすることがあまり激しくなると、眞當になにもかも打捨てそしてひとりで眞劍な生活をしたいと泌々考へます。

大體私は人を愛してゐると云ふ柄のものぢやない、人の愛にまで立ち入つて交渉をつけ得られるほど私自身の生活なり境遇が完全なものなんではないんですからね。

私は、やつぱり仕事を愛します。

なによりも私自身の成長をよろこび、そしてそれをこの上なく嬉しく思ひます。

私はどこまでも私の生活、私の存在を失ひたくはありません。

私の生活のために、私の存在のために、私の仕事のために、私は恥しいけれどかつて今から以前に於てはなんの努力も有つたことがなかつた、私は思つてゐつゝも、又さうしなけりやならないと知つてゐても、正直、私は今日まで眞面目にその道程に向つて進んでゐたことがなかつたのです。

私はそれが悲しまれます。そして私が私の存在を見守り私自身の生活に眞面目な意義をもつと云ふことを希ふ以上私が今迄もつてゐた過ぎたときは、矛盾だらけの、そして僞つぱしの生活だつたのです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

私は今、あなたがこれからさき私の仕事を尊重して少なくとも私の生活や仕事を眞面目にみて眞面目に知つて、そして私の時間と私の勢力を尊重してゐて下さらなければ、私はあなたを愛してゆくことがよしこゝしばらくの間はうまく出來るとしても、到底そんな事は永く有ちつづけてゆくと云ふことが出來なくなります。

と云ふことは私ひとりに關係のあるものではありません、あなた自身を私が尊敬してゐるからです。あなたの生活、あなたの生存を私があなたに欲すると等しく尊重してゆきたいからなのです、さうしてそれが二人の愛をいつまでたつても、どんなことがあつても最も安全なそして最も絶對なものにしたいからなのです。

私どもは自身自からの道を歩いて行かなければならないのです。自分の言葉にも自分自身の生活にも、そして生命にも勞働にもみんな責任を自から有つてゆかねばならないのです。

私は間違ひのない生活がしたい。私は確な生活がしたい。

私は私自身の生活のために、私の過ぎたときの惰性をすつかり破壞しなければならないのです。私は私の生活を眞實なものとして取扱つてゆかなければならないのです。

私は今まで私自身の勢力や生活を私自からでさへ尊重してこなかつたのです。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

私は自分で自分の力を增してゆく、そしてそこに更に堅實な新らしい私の成長、私の仕事、私の生活、私の生命の創造を求めなければいけないのです。

私は今迄私のありとあらゆる生活や生存に對しては無責任で、そして無抵抗であつたのです。自分自からを破壞しつゝあつたのです。

とにかく私とあなたは深い愛着から一度二人のもとあつた場所に戻りあつて、二人が二人ともまだみなかつた過ぎた時に戻つてみてそしてそこでお互の眞實の生命に鋭い批評を加へて、私もあなたもそこで眞實の二人自からのもつてゐる生命に觸れなければいけないと思ひます。

くれぐれもいつておきます。

私がこんなことを思つてゐると云ふことはあなたと私の命を尊重するからなのです。

あなたは「私がこんなことを云ふと私が生意氣だと思ふかもしれない、また潜越であると云ふかもしれない。

だけどよく考へてみて下さい、

私は隨分幼稚な子供らしい人間だと思はれてゐますけれど、私は自分が二人のうちの責任者である以上キッパリこれだけのことを話しておかなければならないと思つております。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

私は自分に深い鋭い强さを少しも今日までもつてゐなかつたことを悲しんでゐます。

少し話がまとまらなくなつたかとも思ひますけれど、とにかく私自身はこれからさき自分の生活を高めてゆくと云ふことで苦鬪してゆきたいと思つてゐるのです。

弛みのない生氣にみちてゐる、出來るかぎり緊張してゐるそして自由な自然な、生きがいのある生活を求めてゐるのです。

けれど私は心の涸れることを嫌います。私には到底氣むづかしい生活をすることが出來ないのです。

私はこれであらゐら自分の過ぎた時、またこれからさきに得たいと欲してゐる態度を眞質にいつたつもりです。

そしてこれにはあなたに氣をかねてかいた個所はただの一個所もないと云ふことを申添へておきます。

あなたがこれをみて、そして私にどんなものをもたらして下さるかと云ふことを考へてゐることが樂しみでもありそして愉快でもありますが、もしあなたの云ふ「私が愛すと云ふことを飽いた」と云

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ふ意味にとつたと假定すると私は暗い重苦しい心持で壓へつけられてゆきます。私があなたを假りに愛さなくなつたと云ふ時が來たらそのときはあなたばかりではない、私はすべての人に、すべてのものを愛さなくなる時なのです。そしてその時に私は涸れた心持をもつ、生命のないものであるときでしよう。

私は幸にこの手紙であなた自身も自からの生存や、あなた自身の生命の上に力強い概念だけでも見出して下さるなれば、もう私はそれで滿足します。

私はこの手紙をかうしてながくかきつゞつてゐると云ふことは、あなたへの御返事だけではない、私の態度なりあなたの態度をみ極めるためなんです。

その邊のこともよく知つておいて下さい。

もう夜があけさうです。アネモネの花はすつかり眠つてゐます、そして時々優しく顫へてゐます。

私はこれから眠ります、少しの間眠ります。それではさやうなら、外の雨は少しやんだやうですね。(二月十五日夜)

夏樹

俊ちやん

海外消息

未來派の音樂

未來派の主張の藝術的表現中、最近の歐洲藝苑を騷がしたものは、伯林に於けるアーノルド・シエーンベルヒの作曲の演奏であつた。歐洲の新聞中には、シエーンベルヒの「粗音」に對する聽衆唯一の自己防禦策は「叱聲（ヒッシシグ）」の外になかつたと云つたものさへある。リヒアード・ストラウス、ドッビユッシイ等を辯護するに躊躇しなかつた批評家も、音樂に於ける未來主義の懸崖を踏む事を恐れた。保守的な批評家に至つては、是れを以つて、未來派の哲學と美學の全體を、「妄誕に引下げたものだ」と見做して居る。同情ある批評家は大抵、「明日の音樂」を聞く機會を得なかつたもので、之れを聞いたものはそれを「今日」聞かなければならぬ理由を解するに苦しんだと、或る新聞は報じた。

新聞の報ずる所によれば、シエーンベルヒの作曲の奇怪なる效果を強める爲めに、後印象派風の演奏壇設備が用ひられた。高さ八呎、長さ四十呎の黑色の衝立を舞臺に立てゝ、オーケストラとピアニストを聽衆から隱し、其中央に壁龕（ニチ）を設け、其上に、アルベルチーン・ヂエーメ孃が立つて居た。後印象派の日に「魅するが如き型の美」を有すと見える孃の役目は、アルベール・ヂロー作「Lieder des Pierrot Lunaire」を通じて、「吐息を吐き、鼻を鳴らし、金切聲を揚げ、叫び立てる」事であつた。「ミユージカル・コーリアー」の伯林通信員によれば、孃の役目を果たして居る間、ピアノ、ヴイオリン、ギオラ、セロ、ピッコロ、クラリネット等衝立の陰に隱れて聽衆には見えない樂器全體が、耳が潰れる樣な調子の結合を鳴らし立てた。シエーンベルヒは「メロデーを總ての形式に於いて避け、トナリテーを知らない。ハーモニーと云ふ文字の如きは其の語彙中にない。」

然しながら、シエーンベルヒは立派な音樂家であつた。彼のハーモニーに關する著書は廣く世の賞讚を受けた。彼は維也納音樂學校に於ける理論部の教頭であつた。古い型の音樂に十分練達して居る。ハケット博士がシカゴのイヴニングポストで書いた所によれば、シエーンベルヒの「音樂的無政府は習得十分なる學徒の好みであつて、不消化な精神上の食物から生じた妄想ではない」

リヒアード・ストラウスの英國に於ける代闘者（チヤンピオン）たるアーネス

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ト・ニユーマンも亦音樂の未來派の診斷に意を注いで居る一人である如く、倫敦の「國民(ネーション)」で云ふには――

「シエーンベルヒは音樂の可能に關して幻想を抱いて居るが、これに對して、彼にしろまた他の者にしろ、まだ適切な語法(ライトイデオン)を發見し得ないのだと云ふのが本當の所である。近代的諧調(モダーンハーモニー)が殆んど無限に擴がり得ると云ふ事は問ふを要しない所であつて、問題は、これが一層美妙に一層複雜になるにつれて、如何にしてこれを聯絡あらしめ理論的ならしむべきかと云ふ事である。近代的諧調は、散文の如く詩の如く、意味を傳へなければならず、繪畫の如く、眞實でなければならぬ。困難は、諸君が詩なり、繪畫なり、彫刻なりの眞實を檢する樣に、外在の實物によつて音樂の眞理を檢する事が出來ないと云ふ點にある。然らば、正しいとか、間違つて居るとか、調子に合はないとか合ふとか云ふ事を誰れが云へるか。若し、シエーンベルヒの如き作曲家が、彼の音樂は、眞實に感じた情緒を寫したものであると吾々に告げたとすれば、單にこれが自分に何等の情緒をも傳へないからと云ふだけで、彼を嘲ける權利が誰れにある?音樂的表現の材料が、言語若しくは色彩の如く、外在的に定まらず、時代によつて變化すると云ふ一事、此の一事は吾々をして、如何なる新しい語法をも尤(とが)むるに用心せしめる。現在吾々には混沌としか見えない所の或る音調の關係中に、新しい作曲家が論理を見、それが他日吾々にも十分明かに聯絡が見える樣になると云ふ事は有り得べき事ではあるまいか?予一個のシエーンベルヒの經驗は、予をかう云ふ結論に導いた、彼は疑ふべからざる天賦を有する人物であつて、其の新作に於いて、情緒の新しい影を音樂的言語に寫さんと覘つて居る、たゞ其言語を論理的に、且つ明晰ならしむるに成功しないのである。恐らくかう云へば、彼を破產と見做すものであると受取られやう。蓋し、立派な想像は、其產物たる幻想を明瞭に外界に寫出して、常にこれを寫すべき獨自の言語を有るすものであるからであつて、シエーンベルヒの幾多の失敗は彼の想像力と幻想に熱と深さが缺くる所があるを證するものかも知れない。けれども、彼が現に爲しつゝある所に、成功しても失敗しても、他日何人かによつてこれが完成されるに相違ない。今後の音樂の生命ある發達はシエーンベルヒの最良のものに沿ふであらう。」

ヂエームス・ヒユネカーの說に從へばシエーンベルヒは、音樂のマクス・スチルネルである。ヒユネカーは、シエーンベルヒの演奏の印象を組して言ふ――

「私は席に就いた時、是れは藝術の解體(デコムポジション)であると考へた。言ふ迄もなく、私の言ふ解體は、畫工が畫房の通り言葉で言ふ

如く、調子の解體の事である。」

是れは、繪畫に於ける印象派が、顏料をなまのまゝ用ひた事を思ひ出さしめ、從つて印象派の主張を首肯するものに、未來派の音樂を解するヒントを與ふるに足る見方である。ヒユネカーは進んで其音樂が與へた感じを記して曰く——

「音樂は慰藉者なり、喜びを產むものなり、アリストートルの公式に從へば、憐愍と恐怖とを通じて魂を淸めざるべからずと云ふが如き時流の見解と相距る事甚しい。私は恐怖を感じた、併し憐愍は缺けて居る、殷血色の雲が、朦朧たる地平線を飛び去つた。私が彷徨つたのは新しい國であつた。シエーンベルヒは、其聞苦しい音に拘らず、多くの情調をこなし得るものである。」（S、Y、）

ワグネルの歌劇パーシフアルがこの春から世界的に公演を許されたそうだ。

パーシフアルは今迄獨逸バイロイト歌劇座の獨占に屬してワグネル物として他に公演を許さなかつた有名な歌劇であつた。公演を許す事になつてから世界の國々は爭ふてパーシフアルを演じてゐるさうだ。伯林(ベルリン)、佛蘭西(フランス)、伊太利(イタリー)、西班牙(スペイン)、そして今は最近に英京倫敦(ロンドン)コヴエント・ガーデン座で上場されて非常な好評を博して皇太后アレキサンドラ陛下も臨場されたさうだ。

伯林では市立ドイツチエスオペルンハウスと王立歌劇場で公演されて伯林の交際社會はパーシフアルを措いて他に話題がないと云はれるほどだ。

自分が日本人であつてこんなことを聞くと羨(うらや)ましくなる。日本にも早く立派な歌劇が紹介されてきて、立派な歌劇役者が生れてきて作りあげられて、そして王立歌劇座でも建てゝほしいものだ。

古典的(クラシカル)ダンサーの名手ミス・モーダーレンが三月の上旬露國のピアノ大家チエレニアウスキー氏等と來朝の筈ださうな。

ミス・モーダーレンは土耳古(トルコ)・埃及(エジプト)・印度の舞踏をもつて近頃世界に紹介されてきたのださうな。

北獨逸のオーバーアンマガウ村で十年ごとに基督(キリスト)の受難劇をやつてゐる。受難劇は世界で有名な劇でいつでも拾年目には世界各國からこの劇をみにオーバーアンマガウ村に集つてくる人達は大變な數であるそうな。

どこの新聞だつたか一寸忘れてしまつたけれど谷津理學博士のはなしとして「北獨逸の受難劇」として紹介されてゐた。大

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

變に珍らしい話だつたのでノートのはしに記しておいた個所と個所をつぎたしてかいてみる。

オーバーアンマガウと云ふ村はミユンヘンから十里ばかり北にあるのださうだ。常は極めて寂しい處で家の多くは白壁で窓には綠色のカーテンがかゝつてゐる大變に質素な村で夏なんかは牛の頸にかけた金環の響が彼方此方の山から長閑にきこえてくるさうだ。村の人はみんな熱心な舊敎信者で夕暮がくると村の寺院で淋しく鐘が鳴りだす、その夕の禮拜の鐘がなり出すと家にゐるものも外にゐるものもみんな一樣に跪いて熱心に祈禱を捧げると云ふ極めて宗敎的な村である。

オーバーアンマガウ村で受難劇を演ずるようになつた原因が大變に面白いと思つた。

一六三三年に村人のカスパ・シユルアと云ふ男がエツシヨロといふ村へ出稼に行つてゐると激烈な傳染病が流行して毎日多くの人が命を陷すので村の人は他の村と絕對に通行を禁じて他の村に病毒の傳播を防いだ。

カスパシユルアは心細さを感じそして生れた故鄕が戀しくなつて夜村をにげ出して故鄕オーバーアンマガウ村に戻つた。

それからオーバーアンマガウ村にも猛烈にその病氣が流行しはじめた。

カスパ・シユルアは死んだ。村人は敎會に集つて會議を開き神樣にお祈りをあげた。

そして受難劇を十年目每にやりますから病根をたつてくれと賴んだ。それから不思議にその病氣は勢ひを殺がれ間もなく絕えてしまつた。

その翌年一六三四年(十七世紀のはじめ)に第一回の受難劇を演じた。それがこの芝居の起因なのださうだ。(然しそれ以前に坊さんたちが寺院の片隅でやつてゐたこともあつたそうだ)

受難劇の登場俳優はみんな村人が扮する。そして鬘も使用せず化粧も少しも施さないのだそうだ。

かみの毛は三四年前から刈らずに長くして準備をしておく。それで芝居の濟んだ後に床屋の床が二三尺も頭髮で埋るのだとか云ふはなしでも、あらかたの想像がつく。

そして衣裳なども巨額の費用を掛けて伯林、巴里邊から持ち出して背景なども遠くエルサレム邊からいろんなものを取寄せるのださうだ。

はじめは村の寺院の傍でやつてゐたが一八三五年から受難劇の劇場を新築した。

登場俳優が全部で六百七十七人でそのうち科白を云ふのが百十二人、科白を言はぬのが二百六十二人、そのほかの俳優はコ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ーラスをする若い娘や若い男の唄ひ手と說明者だ。
そしていよいよ芝居をすることになると村人は氣が落ち附かず、村役場では村の長老者が集つて受難劇の役を定める。
主人公の基督に扮する人は非常の名譽でオーバーアンマガウ村の羨望の標的となるのださうだ。
オーバーアンマガウ村のヨセフ・マイルと云ふ男は三回基督をつとめたが一九〇〇年にアントン・ラングと云ふ陶器屋の主人が基督の役をしたのでヨセフ・マイルは落膽して一九〇三年に死んでしまつたのだとか。
役がきまると學校や敎會でその稽古がはじまる。そして牧師や敎師も之を助ける。
婦人の登場者は三十歲以下と定められてゐる。
準備が出來て愈々開劇するとなると（既にこの前からオーバーアンマガウ村に世界各國から觀客が蝟集してゐる）觀客が犇々と劇場におしかけてくる。
朝の五時に一發の銃聲が村の空に響くと之れが合圖になつて寺院の禮拜堂でみんなが禮拜をはじめる。そして禮拜が終つてから八時にいよいよ受難劇が開演。夜の六時迄十時間やるのである。
芝居の筋は三場になつてゐる。第一が基督がエルサレムに歸へつて捕はれるまで、第二が捕はれた基督がヘロデ王の前で辱しめられるまで、第三がヘロデ王座から十字架につけられて甦へるまで。
そしてこれだけを十七幕に仕組まれてある。第一幕があがると舊聖書の活人畫で其處にホグラスと云ふ者が出てきて受難劇の詳細の說明をする。說明者の服裝は日本の火の見番の被る角頭巾のやうなものを被つた僧の服裝であるさうだ。
コーラスは十八人でなりたつてゐる。そして此說明者の詞の終りから次の幕にかけて美はしい聲で合唱をしてゐるのだとか。
この宗敎劇の觀客は每回約三十萬人で入場料は三十五萬圓ださうだ。そしてその收入の三分の一は公共事業に費すやうに獨逸政府から命されてゐると云ふ事だ。

サラ・ベルナアルが佛蘭西の政府からレヂオンドノオ勳章を一月の中旬にもらつた。
女優でこの勳章をもらつたのはサラ・ベルナアルがはじめてであるさうだ。
レヂオンドノオをもらふと云ふ通知を樂屋でうけてそれの授與式を舞臺でやつた。
サラ・ベルナアルはそのとき巴里の劇場でジャヌダアクを演じてゐたときだつた。（K・O）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

編輯室にて

同人

編輯室ではなにひとつ書きとめて置くことが出來なかつたので私は校正室でなにかを書いて置きたいと思ふ。

何處から見ても凡の事に經驗のない、智識のない私達が集つて自分達の成長の爲に雜誌を作らうとしたのは去年の暮のことだつた。

そのときは丁度松井さんが帝劇でサロメを演つてゐた時分でよくみんなでサロメの化粧部屋に集つてこれから仕樣としてゐる仕事についての可成雜談をしたように記憶してゐる。

それからすぐに春が來た。郷土に戻つてゐた小笠原さんと神近さんは歸つて來た。そこでいよいよ創刊號を三月一日に出すと云ふ事を眞當に決めてしまつた。

だけど偖仕事を始めやうとすると、みんながそんなことには實際無經驗で手段も方法もどう働かせればよいのだか困つてしまつた。

けれど幼い者それだけの力で出來るだけ正直に眞面目に謙遜に仕合つて働いてさへゆけば、そんなにまで貧しいものは出來ないと思つて、みんな一緒に色々の準備をめいめい分擔してやり出してみた。

然し私達の仲間は六人とも自分の仕事や職業をそれぞれ有つてゐる。だからみんなが一緒にまるつきり雜誌の用事だけにかかり切ると云ふ事が自然出來なくなつてくる。

その頃松井さんは海の夫人の上演が終つてそしてすぐ「復活」の稽古で無中だつた。

原さんは「聯隊の娘」の上場間近でやつぱり多忙だつた。

そこで編輯上の打合せなんかは比較的時間のやり繰りのつくあとの人達が原さんの事務室にいつてやつたり、松井さんの室にいつたりして出來るだけ時間を上手に使つて相談してゐた。

番紅花（サフラン）と云ふ名前のついた日は一月の十八日でその日は松井さんの室で集つてゐた。

私は雜誌を作ると云ふ事で自分が繪をかかなければいけないのだと云ふ大切な私自らの仕事をその前後まるで離してしまつてゐた。そしてそれが爲に可成自分に對して恥ぢてゐた。

私は雜誌を作ると云ふ時に、私のする用事は挿繪を見付ける

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

と云ふこと美術に對して關係のあるものの紹介、それと表紙や裏繪、扉繪、カットの好み、それに雜誌全體の色彩や意匠、そんなことだけが私のする仕事だと思つてゐた。

ところがいよいよとなつてくると自分も自分いつぱいに働いたり動いてゐなければどうしても安心してぢいつと落付いてゐることが出來なくなつてしまつた。

やつぱり妙なものだと思つた。そんな理由(わけ)からして個人展覽會の作品についても豫算がはづれてしまつた。次號からは私も私の仕事をして、そして雜誌の自分の責任だけを終へて、とつとと勉强したいと思つてゐる。

とにかく幾度かみんなで集つて色々と相談したり打合せたりしていよいよ創刊號を出すと云ふ間際にまで漕ぎつけてしまつた。

今更活字になつてくる自分達の見苦しい創作の姿をどうしようかと泌々なさけなく思ふ。

豫算はくずれ易い。
しかも私達のような人間の作り合ふ豫算は眞當に上手に運ばれてはゆかない。そんな事は解りきつてゐる事實だけれど、それにしても私は他の人のことは知らないが自分だけの仕事に對しての豫算や期待が隨分消えてしまつた。

だけれど私は悲しまない、私はきつと今に私の信じてゐるだけの仕事を作つてみると云ふことを堅く信じきつて見守つてゐる。

之は私ひとりではない、恐らく、きつと信じてゐる大きな力を自分の手で自分自らが動かしてみせると云ふその事は私達みんなの等しく思つてゐることだと思ふ。

然し私達はその大きな力のくることをただ空しく待つものではない。

私達はめいめい不斷に自分自身の生活を努力し、練磨してそうして自分自身に不足な力、不足な智識、不足な健康を保維し作りつつゆかなければならない。

私達はみんなそれらの道程にそれぞれ仕事を有つて立つてゐる。

それから私達か雜誌を出すと云ふことについて世間では少數の人達だけであるけれど可成意味を狹くして神經を使つてゐられるようだけれど、私達がこの幼い仕事をやると云ふことに就ては決して量見の狹いことが理由してゐるのではないのです。

ただ私達少數のものが、そして比較的お互ひの仕事なり人間

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

な理解仕合つてゐる人だけが集つてお互に勉强して自分を育てあつてゆこうと云ふ事だけなのです。

そしてのち、そこに始てめいめいが勝手な希望を有ちあふて出來るだけ自分達の好きな仕事をしたり、好きな、價値のあるものを作つたりしてゆきたいと云ふことだけなのです。

そして私達は番紅花をこれからさきずうつと純藝術雜誌として大切に育ててゆく決心でをります。

私達は自分達の力の及ぶだけのことをしてゆきます。そして何處までも自然に育ててゆく樣に注意しております。

柔な匂ひのあるものでありたいと思つてゐます。

決した澗れた艷もうるほひもないようなものにはしてゆきたくはないのです。　（午前十一時）

雜誌に挿入してあるロートレエクの繪は五枚とも原畫は武者小路氏から拜借してきたもの。あのなかの「座せるルル」と「下化粧」と「Ellesの内より」は三色版だつたのだけれど少し都合があつたのでみんな寫眞版にしてしまつて惜いことをした。いづれあらためて同じ人の三色版の他の繪を紹介する時のくる事を信じてゐる。

ロートレエクの繪の畫題も武者小路氏が調べて下すつた。そしてみんな「Ellesの内より」としておけば間違ひがないと話して下すつたのだがあとで解つたのだけはがきで知らせて下さつたからそれを目次にかき入れることにした。

「Elles」と云ふのは彼女等と云ふ意味だそうです。それから下化粧とやつたところは武者氏のはがきにはかうかいてありました。「下化粧(?)朝の化粧する前に身體をふいてゐる處です。いい言葉を知りません」

とにかくかうした事で隨分武者氏の御仕事の邪魔をしたことを濟まなく思つてゐる。

ロートレエクの繪を紹介したことは私がロートレエクの人も生活も感情もそうしたことについてはまるで智識がないけれど非常にロートレエクの繪が好きだからなんです。少し前にロートレエクの特種な性格についての話を知つてから一層その繪が私を力強くひきつけてきました。

それで私はこの人の繪を挿入しておいたのです。

（プチニーの歌劇を再校したとき）

ロートレエクについて何か紹介してほしいと思つて、（然しそれはあまりに我儘なことだつたかも知れなかつた）高村光太郎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

氏にお願ひしてみたところが折悪くなにか御自身の御仕事の最中だつたので遂にかいて頂くことが出來なかつた。

　いづれ私達のうち、だれかが調べて近い號に紹介するようになる事と思ふ。

　復活の舞臺面や登場人物の寫眞をもう二枚挿入するつもりでゐたが印刷所の都合と時間の都合で見合すことになつた。これも次號には劇評と一所に挿入するつもりでゐる。

　歌劇の寫眞はこの次から大變珍しい、よいのが紹介される。今度のMadam Butterfly の舞臺面二葉はプチニーの歌劇を紹介するについて挿入したもので、別に日本で最近上場したものだからと云ふ意味のものとは全く違つてゐる。

　表紙は富本憲吉氏にお願ひした。氏は陶器の小展覧會の作品を作ることで御多忙なときだつたけれど折返し私達みんなが等しくよろこんだものを送つて下すつたことを私達は大變に嬉しく思つてゐる。

　裏繪も、別にいいのがあつたけれど、あとから送つて下すつたのを遂々眞當の裏繪に使ふことに決めた。時がもう少しおくれたなら木版もやつて頂けたのに、と慾の深いことを私は希つた。

　この次にはもつともつとよい表紙を作つて頂く約束がもう出來てゐる。

　扉繪とカットは小林徳三郎氏にお願ひした。扉繪の模様は黒色を使つてあつたけれど表紙があれだけに強いものだから反對に柔い弱いものをと思つて甚だ我儘だつたけれど色を隨意に使つてしまつた。

　くれぐれもそのことを御詫びしておきます。表紙がよくなつたのと扉繪が大變によいものだつたので私は大變によろこんでゐる。

　その時分小林氏も「海の夫人」と「熊」の舞臺装置で御多忙だつたのに、すぐにして頂いたことを私達は心からよろこんでゐる。

（春の歌の校了後）

　それから原稿について少しかいて置きたい。私達の雑誌に森鷗外先生と武者小路實篤氏の原稿を頂いてきたことについて世間のある一部の人達は不思議なことを言ひ出すかも知れないから一應それに對しての事實をかきたいと思ふ。そのことは森先生なり武者小路氏に對しての言葉である。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

森先生の原稿を頂くように御願ひに出たのは私だつた。そして先生によい時間を伺つて先生に敎へられた通り給圖面をみながら陸軍省にお訪ねした。

その時私は始て先生を知つた、そして先生を始て見守つた。私が伺つた理由は「私達はみんな何事に於ても幼い無智なものばかりですからどうぞ何分よいように、解らないことや、まごまごしてゐるところは、指圖をして頂きたい、そして私達は勿論出來るだけ力の及ぶ限り勉强いたしますから先生もぢいつと私達の生立を見守つてゐて下さいますよう。」

こうした勝手なことを勝手な時間に勝手な方向から私は持ち出してきた。そうして御願ひをした。

先生は心持よく私の話をきいてゐて下すつた、そうして我儘な私達の願ひを受けて下すつたのだ。

その後私は「新潮」で妙な文章と云ふより隨分不行儀な言葉を先生にまで捧げてゐる人のあることを見出して、私達の雜誌に先生のものを出すと、又そんな解らない人達がなにか先生に投げつけやしないかと云ふことを非常に心配しだした。

私が此處に殊更にこんなことをかくのも、それの爲でもある。くれぐれもその邊のことを承知してゐて、そして後凡のことに眼を通して欲しいと思つてゐる。

武者小路氏も私から御願ひしたことだ。實篤氏の房子さんと私はちよつと仲のよい友達（これも私だけがそう思つてゐるのかも知れない）なので今度自分達の雜誌になにか書いてくれまいかと話をした。そのとき「もし房子さんが出來なくなつたら、それぢや實篤氏にきつとかいて下さい。それでかいて頂くなら美術の方に今度なんにも出すものが有りませんから、繪についての實篤氏の感想でもかいて下さい」全く美術について私がなにか調べてかいてみる筈だつたのにさつきいつた樣な理由からして雜務に過半そがれて間に合ふ樣な容子もなかつたので無理耶理に御願ひして、そして遂々我儘を通してしまつた理なのだつた。

みんなこんな事實のもとに立たれてゐるのだから正直に見守つて置いてほしいものだと思つてゐる。

私の弱い、くだらない神經質な性格が遂々こんなことまでかかしてしまつた。私はこんなことがどんな場合でも氣懸りでたまらない。

（少し讀んだときに）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

松井さんが少し長い創作か、感想をかくつもりでしばらくの間は兩方が安心してゐたけれど、いよいよと云ふ時になつて私の方がすつかり不安心になつて、松井さんがすつかり忘れてしまつた。

あの人は芝居が始まるとまるでなんにも忘れてしまふので、今度は實際にぶつかつただけに弱つてしまつた。

なんといつても創刊號は勝手が解らなかつたのと仕事に馴れない爲で可成雜務にばかり大切な時間や精力を失ふてしまつたのでよいものを作ることが出來なかつた。

然し次號からはみんなうんとめいめい自分の立場を完全に作つてゆけるやうな方法を考へてやつてゐるから、きつと創刊號よりずつとずつとよいものが出來ることと信じてゐる。

私はノア・ノアを讀んだ。そしてノア・ノアのなかに出てくるテフラ(Theura)と云ふ女がひどく好きになつた。

私はテフラを愛してゐる。

二號で「ノア・ノアのテフラ」についてなにかを書くことに決めてゐる。

をだけ・かづゑ

私は今生れて始めて校正と云ふものをして見た。私が此所に來て見るともう皆さんが揃つてそして仕事を始て居た。賑やかな聲が妙に高く反響して私の心を驚かした。私は暫く机の上に原稿やもう活字にすられたものやが一杯に散らばつて居るのをぼんやり眺めて居た。そして室内の氣分と皆さんの樣子がいかにも馴み合つたしつくりととけ合つて居る樣なのを物めづらしく眺めて居るのだつた。そして何か書かないかと尾竹さんに原稿をつきつけられゝと全くまごついて終つた。でも何か書いて見たい樣な書かればならぬ樣な氣持が私をせき立てるのでペンを取つた。どんな場合にでも人ととけ合ふと云ふ事の出來ぬ私の心は此新しく生れた「番紅花」の準備や色々な面倒な仕事なども皆尾竹さんや神近さんなどに許りして頂ていつも無責任な事許りして終つた。

でも私の心持はかなり深かく此度自分の負ふべき仕事について考へて居るつもりで居る。そして此後は出來る丈の力をもつて自分の進むべき好き道に押し進てて行かうとして居る。そして自分が自分の行くべき道に進んで行くと云ふ事が同時に此番紅花を愛し育てゝ行くと云ふ事になるのだと信じて居るのである。私は今そんな事を思つて居る。

小笠原さだ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

私が自分の「序の幕」の校正をして居ると尾竹さんが側からのぞきこんで

「神近さんの(序の幕)もいよ〳〵活字になりましたね」

と云つてくれた。私もほんとにさう思つた。「序の幕」は私がいろ〳〵な情のからみ合から弘前に職をもとめて行つて居た頃、教務の餘暇にアカシヤの林のあるK夫人の二階の八疊で、遠くなつた東京をかへり見〳〵書いたもので、それから去年の夏下戸塚のY氏の二階で少し手を入れたもので、ある理由のもとに人手に渡つたことが三度、一度など私はこの原稿の運命を危ぶんで居た。實はもう少し手を入れて見たかつたのだけれど、いろ〳〵な意味からこれは私にとつて大變に思ひ出があるものなので、創刊號に出すことにした。終にこの原稿のことについて御厚情にあづかつた正親町氏と加藤氏に御禮を申上げ度い。

私は創刊號に何か飜譯をする考で居たのが、病氣やら職業の方のことやらに逐はれて終つてとう〳〵何も出來ずにしまいになつた。隨分いろんな作家が方々で紹介されて居るから、私共が何もおちよつかひを出すにも及ばぬかも知れぬけれど、女の作家で紹介されて居るものは餘りない相だから、私はなる丈女の人を紹介するつもりで居る。理屈をつければどうでもつくけれど、ほんとうの意味から矢張り女が一番女に近くなければならないことを私は近頃考へて居る。

創刊號を出すについて方々から御祝詞をいたゞいて有り難ふ存じます。同人が皆によろこんで居ります。　（市）

松井さんは次號に「樂屋より」で劇についての感想や自分の立場なんかをかく筈。

原さんは佛蘭西の歌劇か伊太利亞の歌劇の紹介をすることになつてゐる。

小笠原さんは二人の女（小説）をかいてゐる。隨分長いものになる。

哥津ちやんはおその久美次と云ふ小説をかいてゐる。おそのは町家の娘、久美次は女役者。そのふたりの淡い物語をかいてゐる。これもながいものだそうだ。

神近さんはF夫人（小説）をかいてゐる。

私はノア・ノア、の「テフラ」をかくつもり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

四月には音樂會をする。番紅花の創刊紀念祭のような心持で。
プログラムは今作つてゐる。

編輯に關する用件及寄贈圖書雜誌は左記へ願上候

下谷區下根岸町八十三番地

番紅花編輯所

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

■本誌定價　一册金參拾錢（郵税一錢五厘）
■前金購讀料　（三册分）金九十錢　（六册分）一圓八十錢　（十二册分）金三圓六十錢、郵税は發行所に於て負擔す。
■廣告料　普通一頁　金拾五圓　特等　金貳拾圓

大正三年二月二十五日印刷納本
大正三年三月一日發行　（毎月一回一日發行）

禁轉載

編輯兼發行人　東京市日本橋區檜物町九番地　西村辰五郎
印刷人　東京市京橋區新榮町一丁目二十一番地　佐藤保太郎

發行所　東京市日本橋區檜物町　電話本局一八七一番　東雲堂書店　振替東京五六一四番

文祥堂印行

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

盛花堂發行
文藝叢書

1
郊外
水野葉舟氏著

2
炭屋の船
岩野泡鳴氏著
正宗得三郎氏装幀

3
赤蜻蛉
鈴木三重吉氏著
津田青楓氏装幀

菊判半截形美本
各價四十錢
郵稅六錢

國木田治子女史作
落合芳麿氏装幀及口繪

小說
小夜千鳥

四六判頗美装
本文三百頁
定價四十五錢
郵稅金六錢

本書は嘗て獨步社の没落を書き「破産」と題して好評を得たる女史が其の後に於ける長篇小説なり。

高須梅溪氏著
落合芳麿氏口繪
竹久夢二氏装幀

近松の人々

四六判和装
頗美本
定價六十五錢
郵稅金六錢

近代人の眼に映じたる「近松の人々」を新らしく復活せしめたる新散文詩也。

歌集と詩集

歌集
悲しき愛
富田砕花氏著
齋藤與里装幀
定價七十五錢 郵稅六錢

歌集
さすらひ
川路柳虹氏著
尾山篤二郎氏装幀
定價七十五錢 郵稅六錢

歌集
ふるへる花
原田琴子氏著
價六十錢 郵稅六錢

詩集
心の故郷
中村秀浄氏著
價六十錢 郵稅六錢

東京淺草
柳橋通り
岡村書店
振替東京一九〇六五番
電話下谷四二〇四番

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

鳥料理と丁子風呂

鳥のお料理は皆樣のお口に合ひますやう精々吟味してございます。お酒も勿論上等で、香ひの高い丁字風呂は朝から沸いてをります。打ちくつろいで御休息が出來ますれば、なにとぞ御序の節御立寄をお願ひいたします。

京橋區元數寄屋町一丁目二番地

風流會席
丁字風呂
富嘉川

（電話長新橋二二三九番）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

序文題歌

與謝野晶子女史
高島平三郎先生
日向きむ子女史
高野重三先生
内ケ崎作三郎氏

江木衷先生
高安月郊先生
小口みち子女史
高島米峯先生

西川文子女史著

婦人解放論

四六判布製
箱入裝幀美
金一圓
送料金八錢

發兌

東京市本郷區元町二丁目
中央書院
振替一五七八〇番

賣捌

日本橋スキヤ町
明文館
振替四五五四番

天賦

の權利を要求し、主張するに何の遠慮があらう、突飛な議論ではない、出來ない相談じやない、私共は從來の樣に、消極的生活に甘んずることは出來ないのだ、今や舊套の打破を強行せねばならぬ刹那に到着したのである、躊躇する秋でない、猶豫する要はない、此の要求は私共の心に合ふものが實現するまで創造を繼續せねば止まぬ、即ち本書を公刊する所以は茲にある。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

新刊豫告

平塚明子序
伊藤野枝譯

——三月十日發賣——

婦人解放の悲劇

新形總洋布裝
挿畫二葉
定價六拾錢
送費金六錢

エレン・ケイ、エンマ・ゴルドマン二女史の婦人問題に關する論文四種を譯輯せるものにして、婦人問題に對する歸決はおのづから本書に暗示せられたり。婦人問題は如何にこれを取扱ふべきか。本書は正にこれらの諸問題に對して最初の指針たるものなり。

〔附錄〕エレン・ケイ小傳　エンマゴルドマン小傳

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

未

年四回刊行

一月
三月
九月
十一月

「未來」第壹輯發行

年四回刊行「未來」は在來の自然主義が我等を却つて或狭き限定内に置き、我等の精神が自由且自然に向はんとする方嚮を遮りたるに反し、此桎梏中より吾人の精神を取返し吾人の思考吾人の生活をして更に増大せしめんとする目的を有す。即ち吾人が平俗の生活中日々に失ひつゝある貴重の物をして發達せしめ、念々の渇望をして飛翔せしめ、吾人の生をして無限ならしめんとするにあり。吾人の爲さんとするこころはすべて新しきものにあり。吾人の藝術は虐げられし藝術の意義を最もよく闡明し、謙虚に、熱烈に、叡智的に、所信を遂行すべし。

第壹輯（二月一日發行）内容

■宣言 …………………… 同人

■詩集

三木露風　川路柳虹　柳澤健

山宮允　増野三良　新城和一

西條八十　服部嘉香

■詩歌の象徴（イェーツ） …………… 山宮允譯

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

來

菊判假綴瀟洒美本
紙數每號三百五十頁
定價壹册金六十錢
送費金八錢

ウイリアム・ブレークと想像（イエーツ）……山宮允譯
ピアニスト・パツハマン論……柳澤健
緑に搖るゝ空へ（戯曲）……灰野庄平
分裂（小說）……新城和一
智慧樹（東方劇詩）……增野三良
領土（小說）……西條八十
醉ひどれの舟（ラムボウ）……柳澤健譯
タゴールの詩二篇……灰野庄平譯
アルベエル・サマン十篇……新城和一譯
リズム論……服部嘉香
ヱルハアレンが詩の經路……西條八十
製作……川路柳虹
見、不可見（クレイグ論他其）……灰野庄平
未來象徴の理論……三木露風
雜纂……同人
三木露風氏「すすりなき」作曲……山田耕作

發行所 東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番）東雲堂

青年の間に
同志を求む

生活と藝術

定價拾八錢
郵税壹錢

三月號

街上不平……土岐哀果
評論……相馬御風
松井須磨子の價値……伊庭孝
權威と個人主義……加藤一夫
評論……仲田勝之助
背景……園三千夫

この一篇も無名の青年の作品である彼の序に依れば「背景は僕の自畫像の背景である。僕はこれらの背景の中に住んでゐる。從つてまたこの一篇は現代社會の一面相である。」と。これらの背景に圍繞された一人の青年を想像してみることは多少の興味を惹起せしめる事であると信ずる。

讀書狂……荒川義英
圖書室の一隅より……矢口達
冬日詩篇……西村陽吉
主薄補の日記より……長澤武男
革命家の最後……奥野七樓
新らしき歌……青年百餘家
MEMO……哀果生

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四）　東雲堂書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

阿部次郎氏著

三太郎の日記

—目下印刷中—

新形頒美本
紙數六百頁
定價金壹圓
送費八錢

「三太郎の日記」は、最も微細にして精緻なる心の記錄である。同時に自己に對する叱咤である。寸毫も假借せざる解剖である、また祈禱である、感謝である、念々止みがたき向上の聲である。三太郎の心は昂騰せずして沈潜する心である、沈潜する毎に益々深く自己の生命の根を感得し、自己の擴大を感ずる、さうしてその温い喜悅の心をもつて觸れる限りのすべてのものを包まうこする。「三太郎の日記」を讀むものは、最も謙抑な、至純な、そして雄々しい、神を畏れる「人間の心」を見るに違ひない。

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一一四番）　東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

近刊豫告

現代佛蘭西詩集

リラの花

與謝野 寛譯

梅原良三郎畫

現代の佛蘭西詩人中、新進のロオメン、ヴウケエル、ダウリヤツク、シマル、ボルセヱ、トルパン、ヴアド女史、ケネアン、トラポルト女史、バンヌロオ、マンダン、メリエ、プロツシユ、テイボオル、ドレエム、アウグマアル、メルシエ、トツサン、ドロマア夫人、バサン、デスプラス、フレミエル、サントクロア、ドクトン、アラン、ビゼ、プツテイ、マルテイネ、ヱシエル、ラヱエ、デイヰヤツク、ボルドリイ、サウケ等數十氏の近作を主とし、ヱルレエヌ、ボドレエル、マウパツサン、サマン等の故人、ヱルアラン、レニエ、ノアイユ公爵夫人等の現代名家、及び伊太利詩人ダンヌンチヨ、マリネツテイ諸家の詩篇を此集に收む。是等は譯者が概ね巴里ラタン區の珈琲店クロツスリイ・ド・リラの一隅の卓に凭りつゝ讀みたるものなれば、記念として「リラの花」と題したり。

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番）　東雲堂

詩集

■かなたの空■

未來叢書第一編

二月中旬發賣

川路柳虹著

新しき文藝の曙は來る。窮ら宿命を感じて頽唐の病に居たりし昨日の文藝は亡びざる可からず。著者は寔に生命の曙に立ちてその耀やかしき光輝を呼ばへる第一人なり。眞の生活を愛し、眞の愛を覓めて、なほ杳かなる蒼穹に手を伸ばせるもの、その不斷の欣求と進轉とは明快微妙の韻律の中に氣息す。この詩集一卷蓋し新興文藝の思潮を暗示すべきものにして詩壇の新聲に聽かんとするものは先づ此の集に就きてその潑溂たる當來を豫知すべきなり。切に江湖に薦む。

内容

■蘆の笛
■低唱（小曲集）
■伸びゆく芽
■内心
■かなたの空（五章七十篇）
■挿畫一葉（木版）
■EX LIBRIS.

四六版三百頁・黑地に金と白の表紙
總カット天金・空前の美術的製本
定價金九十錢・送費八錢

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四一番）　東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

未來叢書第二編
三月中旬發賣

詩集

果樹園

柳澤健著

著者の第一詩集なり。暮れゆく果樹園の色のごとく、匂のごとき一卷百餘の詩篇は、漂泛果てなき音樂の波のなかに漾へり。その詩風は叡智にして優婉、たとへば薄暮の公園を夢みつゝ歩むかの佳き白孔雀にもたとへつべし。

舟

わが舟はゆられゆられて、
おぼろなる月夜をながる。
大空は月に涵され、
幻ご象の世界、
おもかげはうすくかゞやく。
あゝ遠く戀人もあり。
溜息のながきがなかに、
わが舟はゆるくながるる。

著者裝幀、四六版三百頁
定價八拾錢、郵税六錢

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

■歐洲美術の一大寶庫・歐洲自然の新印象記■

歐洲美術遍路

下巻出來

四六版三百廿頁
函入天金美裝
定價一圓八十錢
小包料十二錢

■附錄‖美術家人名索引■

畫架を負ふて西遊二年、足跡歐洲各國に及びたる著者の漫遊記也。卓拔なる西歐美術觀也。畫壇の區匠觀也。古美術の新鑑賞也。最新畫派の消息及批評也。新氣運の暗示也。著者が故國の友に與へたる書簡也。著者の詩也。而してまた繪畫也。美術愛好者の必讀書。

石井柏亭著

■上巻（既刊）

四六判三百八十頁、挿畫六十葉
天金函入美本、送料十二錢

定價貳圓

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四一番）　東雲堂

北原白秋氏著書

抒情小曲集
思ひ出
八版

……この小さな抒情小曲集に歌はれた私の十五才以前の life はいかにも幼稚な、柔順しい、然し飾氣のない、時として淫婦の手を恐る、赤い石竹の花のやうに無智であつた。さうして私の驚き易い皮膚と靈とはつれに螽斯の薄い四肢のやうに新らしい發見の前に喜び顫へた。……さうしてまだ知らぬ人生の「秘密」を知らうとする幼年の本能は常に銀箔の光を放つ水面にかのついついと跳ねてゆく水すましの番ひにもわなないたのである。

小形カルタ表紙
定價金九十錢
送費金八錢

抒情歌集
桐の花
三版

萬葉集以後、その裝幀にも、その挿畫にも、更にその内容に、驚嘆すべき歌集が公にされた。それは「桐の花」である。かくまで日本古來の美はしい寶玉に新らしい藝術的氣息を吹き入れ、惱ましく、また妖艶な、あるときは淸楚な神經の尖端を示した作はないのである。「哀傷篇」は明るい初期の作に比して、暗い、怖ろしい境地が語られてある。

新形白と紫の表紙
定價金壹圓
送費金八錢

東京景物詩
三版

芥子の葉

芥子は芥子ゆえ香もさびし。
ひさが泣かうと、泣くまいと
なんのその葉が知るものぞ。
ひさはひさゆえ身のほそる、
芥子がちらふとちるまいと、
なんのこの身が知るものぞ。

わたしはわたし、
芥子は芥子、
なんのゆかりもな
いものを。

—東京景物詩—

四六判紺と金表紙
定價金壹圓
送費金八錢

發行所 東京市日本橋區檜物町 (振替東京五六一四番) 東雲堂

東雲堂藏版 名著三十一種

日本橋區檜物町九番地
振替貯金東京五六一四
電話本局一八七一

歌集	桐の花	北原白秋	定價金壹圓
歌集	水莊記	吉井勇	定價金壹圓
歌集	別離	若山牧水	定價金七十錢
歌集	死か藝術か	若山牧水	定價金七十錢
歌集	黃昏に	土岐哀果	定價金五十錢
歌集	佇みて	土岐哀果	定價金六十錢
歌集	收穫	前田夕暮	定價金七十錢
歌集	啄木歌集	石川啄木	定價金八十錢
歌集	馬鈴薯の花	柿人 憲吉	定價金八十五錢
歌集	赤光	齋藤茂吉	定價金九十錢
歌集	涙痕	原あさを	定價金六十錢
歌集	早春	岡稻里	定價金七十錢
歌集	かろきねたみ	岡本かの	定價金二十五錢
英詩集	The Pilgrimage.	野口米次郎	定價金壹圓
詩集	思ひ出	北原白秋	定價金九十錢
詩集	邪宗門	北原白秋	定價金八十五錢
詩集	東京景物詩	北原白秋	定價金壹圓
詩集	獨步詩集	國木田獨步	定價金七十錢
詩集	露風集	三木露風	定價金九十錢
詩集	白き手の獵人	三木露風	定價金壹圓
詩集	霧	河井醉茗	定價金五十五錢
詩集	夜の葉	森川葵村	定價金六十錢
小説	青鞜小説集	青鞜社	定價金八十錢
戯曲集	午後三時	吉井勇	定價金壹圓
戯曲集	和泉屋染物店	木下杢太郎	定價金壹圓
論集	演劇新聲	小山內薰	定價金八十錢
評傳	哲人カアペンター	石川三四郎	定價金八十錢
隨筆	局ある窓にて	平塚明子	定價金九十錢
隨筆	啄木遺稿	石川啄木	定價金九十錢
隨筆	歐洲美術遍路 上卷	石井柏亭	定價金貳圓
隨筆	歐洲美術遍路 下卷	石井柏亭	定價金壹圓六十錢

（詳細なる圖書目錄御申越次第贈呈仕候）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

通信販賣廣告

東京市日本橋區檜物町

東雲堂書店

振替東京五六一四

電話本局一八七一

御取次に應ずべきは市内發行の圖書雜誌に限り候

■書籍は（外國圖書醫書及現行敎科書を除く）……………一割引

■雜誌は（新聞を謝絶す）……………御注文次第即時發送す

（注意）御注文の節は書名、定價、著者、郵稅、發行所等（雜誌なれば何月より何月までと）明細に御認めの上割引價に郵送料必ず添附の上、振替貯金又は小爲替にて御注文下され度、切手代用は二割增と相定め候。

原稿用紙

二種

■大判（藍刷）二十字詰十行百枚綴

■小判（朱刷）同　上

定價各一冊十五錢　送費一冊四錢

右二種紙質は最も精良なるものを撰び發賣いたし候間御愛用願上候

毎月一回 一日發行

第五巻 第三號

音樂

三月號要目

■樂壇評時……

□聲樂の根本形式に就て……吉丸一昌

■邦樂と洋樂……乙骨三郎

□ベートーヴェン論……中山充

■音樂教授法……草川宣雄

□津輕地方俗謠(二)……金健二

■ボストン歌劇座の上演せる「モンナヴンナ」……桑ヶ原四賀

□シカゴより……

■中京より……碧揚生

□細谷君の音階構成器を評す……田邊尚雄

■歌劇物語―「アイーダ」……牛山充

口繪 ミンネ歌人

ボストン歌劇座の「モンナヴンナ」の舞臺面 三葉

マルコーの扮せるギードー コロンナ

樂譜 別れ路……ブロッス

心の花……ブラームス

□ほほゑみて(歌)……紫波子

■あづま歌(歌)……永田龍雄

□朝(詩)……長瀬虎朗

■まぼろし(歌)……杉本貞一

□生の斷片(歌)……夢見草

■流涕(詩)……望月れい

□幻の船(詩)……坂本潮朗

■地上炎炎(詩)……室生犀星

□雪の日の哀感(詩)……内田月城

■花のおもひで……内海泡沫

□若き日のために(詩戯)……花法師

■發行所 東京音樂學校學友會

振替口座東京二〇六二番

■發賣所 神田裏神保町 東京堂

■會員募集 半ヶ年會費、壹圓參拾錢以上前納者は會友となり本會所催の演奏會に參聽し得べし

■來十四日本會土曜演奏會を開く

■會友は東京音樂學校所催の演奏會にも土曜日に於て入場の便宜を得べし

■定價 一部 二十五錢

郵税 一錢五厘

半ヶ年前金税共 一圓三十錢

一ヶ年前金税共 二圓五十錢

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

■新思潮■

三月號

三月一日發行

■舞踏（アナトール、フランス）……森鷗外
■未來の爲めに（小說）……松井春二
■蠱惑（小說）……豐島與志雄
■牛乳屋の兄弟（三幕社會劇）……久米正雄
■ケルトの薄明より（イエーツ）……柳川隆之介
■肉體の秋（イエーツ）……山宮允
■鐵拳制裁（パロデイ）……草田杜太郎
■感想……同人

發行所　東京日本橋區本銀町三ノ二　振替口座東京一二〇五五番　啓成社

（定價廿五錢　郵稅一錢　半ヶ年　一圓四十錢）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

權威ある純女流文藝雜誌

青鞜

三月號

ソニア、コヴァレフスキイ自傳　野上彌生譯

眞をしたいて…(感想)……西崎花世

美しき獄屋…(小説)……荒木郁

阿古屋茶屋…(小説)……國分まさを

あの人…(詩)……原田琴

高山の麓より…(感想)……川田よし

イワノフ…(戲曲)……瀨沼夏葉譯

林檎…(短歌)……三ヶ島葭

小鳥よ…(短歌)……青木穠

從妹に…(感想)……野枝

朝の歌…(短歌)……白雨

劇評……………歌津

火の娘を讀んで(批評)……らいてう

■定價廿五錢　郵稅壹錢五厘■

發賣所　東京市神田區南神保町一六（振替東京一九三四四番）　尚文堂

春期會員募集　青鞜社補助團

□青鞜社補助團は青鞜社の事業を完成せしめんが爲經濟上の補助をなすを以て目的とす。

□甲種會員　一ヶ月會費　壹圓

□乙種會員　一ヶ月會費　五拾錢

□會費は大凡二ヶ年間確實なる銀行に預金し、其後にかて全金額を青鞜社に寄附するものとす。青鞜社はこれをもつて出版事業を開始す。

□本團は會員に對し青鞜社發行の機關雜誌「青鞜」を毎號贈呈す。

□甲種會員には會費全納後滿二ヶ年間雜誌「青鞜」を贈呈する外に、二ヶ年後に於ける青鞜社出版の圖書を其都度贈呈す。

□乙種會員には滿二年間雜誌「青鞜」のみを贈呈す

□本團員は甲、乙に拘はらず女子に限りて「青鞜」に寄稿し得るの特權を有す。
但し寄稿が二回以上「青鞜誌上」に掲載されたる場合は本人の希望により相當の手續きを經て青鞜社の社員たることを得。

□入會申込希望者はハガキにて府下巢鴨町一一二七青鞜社內補助團宛申込まるべし。

一年分 送料共 金三圓

我等

特價三十錢 郵税二錢

短歌 三月號 募集

木下杢太郎……船室
高村光太郎……未來派婦人の樂欲論
佐藤春夫……石井柏亭論
石井柏亭……途で會つた人達
茅野蕭々……詩
平野萬里……ベルリンから
……水のあなたより
森林太郎……雁
江口渙……腐肉
萬造寺齋……訣別（ズーデルマン）
綿拔瓢一郎……死の勝利の誤譯問題
與謝野晶子……歌
秦豐吉……紐（ストリンドベルヒ）
高村光太郎……詩

我等發行所
東京市本郷區駒込林町百九十番地

岩波書店
東京市神田區南神保町十六番地
振替東京二六二四〇番

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

白樺

第五卷第三號
每月一回一日發行

定價卅錢送料一錢五厘半ヶ年前金一圓七十錢

目次

▲罪なき罪（三幕物） 武者小路實篤
▲迷路（小說） 水原ふぢ子
▲感想 小泉鐵
▲短歌 木下利玄
▲友の手紙（小說） 園池公致
▲雜感 無車
▲蛇足 同

挿畫（セザンヌ）

▲自畫像
▲マダム・セザンヌ（一）
▲風景
▲靜物
▲男の肖像
▲マダム・セザンヌ（二）

最新刊

アウギユスト・ロダン著
ポール・グセル編
木村莊八譯

ロダン氏藝術觀

◎附錄――ロダン小傳

紙數四百頁
挿畫アート四拾枚
クロース箱入
定價壹圓八十錢
送料十二錢

發行所 東京麹町區平河町五ノ卅六番 振替口座東京二〇九一四番 洛陽堂 電話番町二四五八

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

定價三十錢

假面

第三巻第三號　三月號

郵税金二錢

挿畫 **青騎士派** カンジンスキイ・フランツ・マルク **木版畫五圖!!**

□ハウプトマンミニイチエ主義の哲學（ヘルマジ）……松田良四郎

□第一の涙（歌）……嵯峨秋子

□法苑林教話（詩）……日夏耿之助

□春山之霞壯夫（戯曲）……森口多里

□鈴の音（詩）……西條八十

□大喜悦！（小説チエエホフ）……伊東六郎

□黑き鳥（歌）……松田鶴子

□京の一夜（小説）……竹内逸

□フロオベル研究（評論）……後藤末雄

舞臺装置劇 **黄ろい響**（七幕）……カンジンスキイ

假面社編

近代評傳叢書

第一篇 吉江孤雁 **モウパッサン**

第二篇 西條八十 **メエテルリンク**

袖珍頗美本　定價五十錢　郵税金六錢

發行所 東京市外西大久保百三十一 **假面社**

發賣所 東京神田錦町一丁目十九 振替東京四一二三番 **中興館**

京都帝國大學文科大學長

文學博士松本文三郎先生三大名著

佛典の研究

松本博士は佛典の本文批評に於て實に日本學界のオーソリチー也多年その薀蓄を傾けて研究せられたる佛典已に幾十種加ふるに輓近燉煌その他に於て發掘せられたる佛典の研究は正に先人未到の新說なりとす佛典の眞僞を如何に辨別し經論の精神を如何に會得すべきかに心を勞する人まづ此書を一讀せざるべからず

菊判箱入
定價九拾錢
郵稅八錢

增補 宗教と哲學

本書全篇十有四章まづ筆を「釋尊は何を說きしか」に起し「宗教と道德」「研究と信仰」等次第を逐うて遂に健全なる宗教の基礎は哲學的論據に在ることを說明し延いて老莊程子の支那哲學に論及す惟ふに病弱なる現代の思想界は此書によりて元氣の回復を求め得む乎

菊判箱入
定價七拾錢
郵稅八錢

彌勒淨土論

彌勒淨土と阿彌陀淨土とは實に佛教の淨土思想を代表しつゝ二大信仰にして又實に二大勢力たりしなり然るに其の半面は阿彌陀淨土の闡明によりて光輝を放てるあるにも拘らず他の半面は彌勒淨土の埋沒によりて今尙ほ暗黑に歸せりこれ豈佛教史上の一大缺點にして又實に佛教界の一大恨事ならずや松本博士こゝに見るありてその專攻する學科の立脚地より彌勒淨土の由來淵源を詳論し茲に佛教の淨土思想研究は完璧を成せり今にして何人か又此の新研究を味はずして恣に佛教の淨土思想を談ぜんとするものぞ

菊判箱入
定價一圓
郵稅八錢

東京小石川區原町 貯東京一五六八六 丙午出版社
東京小石川原町 貯東京一三五三 鷄聲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

舞臺衣裳

現今日本の舞臺が音樂的にも色彩的にも餘り豊かでないことをかねがね殘念に存じて居りましたが、このたび誠に小さな企てですがつるや主人の好意によつて私たちの好きな泰西の劇の衣裳を、ゑはがきで發刊することになりました。幸にみなさまのお厚情によつてこの意を遂げたいと存じます。

三並花弟
恩地孝

第一
青い鳥
メーテルリンク

テイルテイル
ミイテル
光の精
火の精
パンの精

三月初旬に第一輯を上梓して以下月々刊行します。

版元　九段坂下　つるや書房

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

大正三年二月二十七日第三種郵便物認可
大正三年二月二十五月印刷納本（毎月一日一回發行）
番紅花第一卷第一號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY